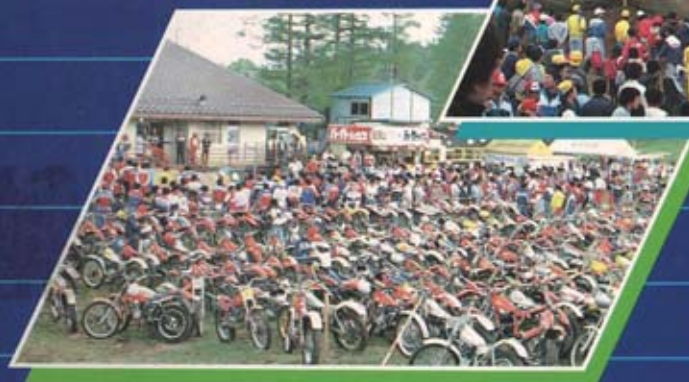




特集: 1984年版 MFJ 国内競技規則





あくなき挑戦が生んだ強者

細い中心電極。世界特許のUカット接地電極。強烈なスパークが、高度なアクセルワークに、俊敏に反応する。デンソープラグGu。その性能を実感してほしい。デンソー・エンジニアリングの、あくなき挑戦への歴史が生んだ真のプラグ。走りを楽しむ男たちにこそ、贈りたい。

低熱価 **W-ES-Guタイプ** **X...ES-Guタイプ** **W.....Eptタイプ** [型式の読み方]

↑ 22	W 22 ES-Gu	X 22 ES-Gu
24	↓ W 24 ES-Gu	↓ X 24 ES-Gu
27	↓ W 27 ES-Gu	↓ X 27 ES-Gu
29	↓ W 29 ES-Gu	↓ X 31 ES-Gu
31	↓ W 31 ES-Gu	
34	↓ W 34 ES-Gu	
↓ 37		

高熱価

W 25 Ept
↓ W 29 Ept
↓ W 32 Ept
↓ W 34 Ept
↓ W 37 Ept



エレクトロニック・スパークで差をつける

デンソープラグ Gu





道が“物語り”をつれてくる。

モーターサイクルは、
僕たちを限りなくロマンに満ちた旅へ誘う。
人間らしく生きようとするほどにその思いは熱い。
そこに道があるから行く。
様々な顔の道があり、物語が生まれる道。
ライダーにとって道の存在こそは、命みたいなもの。
人々との出会い、自然とのふれあい。
ものみな全て感動につながる。
いま、ツーリングの真の楽しみを求めて
あらためて旅に出てみないか。
●
クシタニと共に行く道はどこまでも果てしない。



① K150Tファクトリースーツ

安全性をかねておなじみの三重構造のファクトリーライン。上下がわかれるデイトタイプ。裏地はトリコットメッシュ。
■カラー：[K150]赤/白、黒/シルバー、青/白 [K150T]青/白、青/白/黒、白/赤、黒/白/紺 [K150K]青/白、赤/白、黒/赤
■サイズ：M、L、LL
■価格：K150 ¥120,000 [K150T] ¥125,000 [K150K] ¥130,000

② K180Kコンペティションスーツ

レーシングユースを意識した本格派レーシングスーツ。肩、ヒジ、腰のプロテクターに4mm厚軟質スポンジヒザにプラスチッククッションを内蔵。関節の内側部分に、通気性、ゴロつき防止のレザーメッシュを使用。1.4mm厚炭素鋼板。裏地はトリコットメッシュ。
■カラー：青/白、赤/白、黒/赤
■サイズ：M、L、LL
■ ¥155,000



モータースポーツクシタニ

■本社 店	〒534-1 茨城県水戸市東町598-1	☎0534(56)8611	
■東京支店	〒100 東京都千代田区上野寛3-2-12	☎03(707)2381	
■大阪支店	〒545 大阪府池田市鉢屋1-10-3	☎0727(62)3280	
■仙台支店	〒980 仙台市青葉区1-3-57	☎0222(95)2881	
■鳥取 店	☎0873(3)7733	■札幌 店	☎011(931)7776
■仙台 支店	☎0222(47)8822	■群馬 店	☎027(951)3010
■名古屋 支店	☎052(8)2344	■茨城 支店	☎029(425)5719
■新潟 支店	☎025(22)5184	■栃木 支店	☎028(429)2261
■新潟 支店	☎0273(63)2785	■群馬 支店	☎027(743)9591
■大宮 支店	☎0486(31)7433	■群馬 支店	☎0423(69)3599
■千葉 支店	☎0472(42)8363	■群馬 支店	☎043(317)3022
■群馬 支店	☎03(832)1278		
■茨城 支店	☎0534(54)5252	■名古屋支店	☎052(522)0749
■茨城 支店	☎0534(56)3418	■群馬 支店	☎0593(70)0186
■茨城 支店	☎016(573)1301	■岡山 支店	☎0862(25)8330
■茨城 支店	☎016(81)15737	■広島 支店	☎082(283)9090
■茨城 支店	☎0367(838)3	■徳島 支店	☎0878(66)3115
■徳島 支店	☎0750(21)8174	■徳島 支店	☎087(75)3860
■徳島 支店	☎0771(22)4105	■北九州支店	☎093(521)13014
■徳島 支店	☎0772(22)3316	■北九州支店	☎0976(52)2754
■徳島 支店	☎0788(73)8681	■熊本 支店	☎0963(82)8118
■徳島 支店	☎078(23)15780	■熊本 支店	☎0962(25)3579

クォーター

250が新しい時代を語り始めた。 世界初、4気筒水冷DOHC搭載、GS250FW。



4気筒水冷DOHCエンジンMQ-36は、クォーターの世界を大きく拓ける。

250ccという排気量は、私たち日本のライダーにとって、実にマッチした大きさだ。

経済性は言うに及ばず、何より、日本の道路・地理条件を考えれば、大き過ぎず、小さ過ぎず、まさにスポーツ・ライディングを楽しむジャストサイズなのである。ところが、今まで250ccクラス、つまりクォーターの

ロードスポーツには、選ぶべき個性が少なすぎると感じていた人も多かったのではなかろうか。なにしろ、クォーターといえば、ツインとシングルだけだったのだから。クォーターに、もっと多くの個性があっても良い。世界でも初めての4気筒水冷DOHCエンジンMQ-36を搭載したGS250FW。このマシン

は、ライダー達のみならず、私たちエンジニアにとっても、造りがいいのある、楽しみ多いマシンといえた。

大排気量マルチとはまったく違う、クォーターマルチだけの個性がある。

下の写真は、MQ-36エンジンの実物大ピストンだ。ボアは、わずか44mm。これが11,500rpmもの高回転で上下することを想像して欲しい。マニアなら、もうそれだけで楽しくなってしまうだろう。そして、この小さな



4つのピストンから、大排気量マルチとはまったく違う、新しい個性が生み出されるのだ。た

スズキ・アドバンス・テクノロジーの育ての親、GS、GSXシリーズからレーサー-RGFなど、数多くの名車と、世界チャンピオンを生み出してきた。ユニークな発想、卓越した理論、温厚な人柄で、レースの世界でも人望は厚い。

横内悦夫、スズキ2輪第2設計部長

SUZUKI
NEW ADVANCED
TECHNOLOGY

ボア・ストローク44mm×41mm。この小さな4つのピストンでだけ



この写真は原寸大です。

- 水冷・4サイクル・DOHC・4気筒 ● 2バルブ・キャブレター ● 電動ファン・サーモスタット付ラジエター ● エアボックス採用ダブルクレードルフレーム ● 16インチ・フロントホイール ● 対向ピストン式フロントディスクブレーキ

SAFE & JOYFUL

モーターサイクルに乗るためのマナーとルール。
守ろう、身につけよう/安全運転。
バイク安全運転キャンペーン実施中。

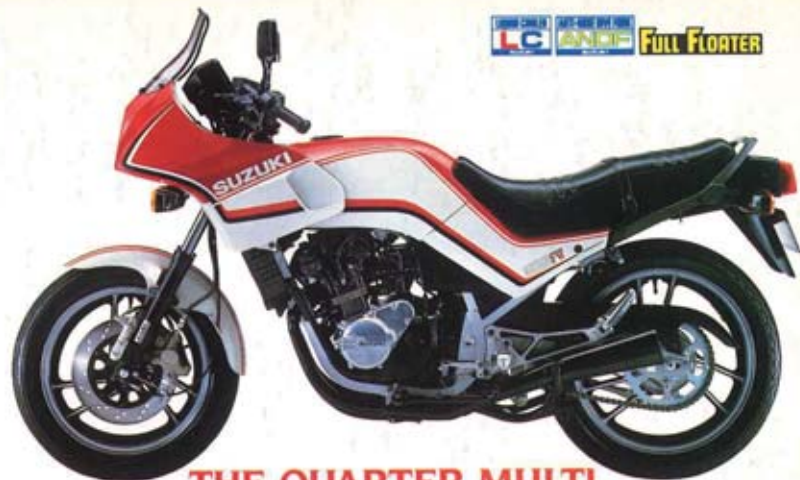
- ★ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ★点検、整備を忘れずに。
- ★安全のため改造はやめましょう。

LC **LAND** FULL FLOATER

たとえば大型マルチではめったに使えない10,000rpm以上の高回転を、MQ-36エンジン特有のクォーターマルチサウンドを奏でながらフルに楽しめる。しかも、マルチならではのスムーズさや安定感、扱いやすさを、クォーターらしい軽快感の中で発揮できる。そして、水冷DOHCで36ps/4サイクル・クォーター最強の高出力を秘めている。4気筒でありながら、驚くほどスリムなことに注目して欲しい。新開発の2バルブ・キャブレターの採用も手伝って、またがった瞬間から、ライディングポジションの素晴らしさを感じられることだろう。

クォーターマルチ感覚を、体で感じて欲しい。

250ccの4気筒を、ただ造るだけなら、技術的にそう大層な困難があるわけではない。だからこそ、私たちが求めるからには、400マルチのスケールダウンではない、独自の魅力、独自の世界を持った、個性あふれるマシンを求めた。GS250FWは、私たちが求めたとおりのマシンになった。あとは、実際に乗ってみて、走ってみて、この世界で初めてのフィーリングを体で感じて欲しいと思う。皆さんに楽しんでもらうことが、私たちエンジニアの何よりの喜びだから。



THE QUARTER MULTI
GS250FW

標準現金価格 ¥479,000(ハーフフェアリング) ¥459,000(ミニフェアリング)



たとえば、絶対に創りだせない世界があるのです。

排気量249cc ● 最高出力36ps/11,000rpm ● 最大トルク2.5kgm/10,000rpm ● 定地燃費46.0km/l (50km/h) ● 角ハイANDP機構付フロントフォーク ● RCPL (リモートコントロール・プリロード)機構付フルフローターサス ● 乾保重量157kg



写真はすべてハーフフェアリング仕様です。

- 安全速度で走りましょう。
- 一時停止は正確に。
- 車間距離は余裕をもって。
- カーブではスピードをひかえめに。
- 合図は早めに行ないましょう。
- 早朝・夕暮れは早めにライトの点灯を。

●カタログ希望の方は請求券と切手170円分を同封のうえお送りください。〒432 静岡県浜松市外高塚300 鈴木自動車工業株式会社 2輪企画課 GS250FW係

信頼に応える技術のスズキ

SUZUKI

GS250FW
カタログ請求券
R-11

走りが、DOHCインライン

4 STROKE
DOHC
INLINE 4

ベックを遙かに超えた

スーパーマルチの称号を誇る熟成の“4ストロークDOHCインライン4”。軽量コンパクトかつ優れた耐久性で400の最適値を求めた専用設計。スベック加速、シャープなフットワーク、そしてどのマルチスポーツよりも扱いやすい、と評価を得る比類ないバランス特性で、GPz 400F-IIの圧倒的な走りを我がものになっている。4ストロークDOHCインライン4、このシステムは高回転ドライブのためにボア・ストローク55.0×42.0mmのショートストロークを採用、さらにロングタイプコンロッドによりスムーズな運動性能を達

成。スキップ効果を生む新形状ヘッドピストン&シリンダー、ワイドなバルブ作動角や高効率のロングタイプスパークプラグなど先進テクノロジーを駆使し、スーパーマルチの領域を広げる。



成。スキップ効果を生む新形状ヘッドピストン&シリンダー、ワイドなバルブ作動角や高効率のロングタイプスパークプラグなど先進テクノロジーを駆使し、スーパーマルチの領域を広げる。



Ride in Good Manners.

●ヘルメットを正しくかぶりましょう。●点検・整備を忘れずに。●安全のため改造はやめましょう。

安全に走るための心がけ、ルールとマナー

★安全速度で走りましょう

★カーブではスピードをひかえめに

★無理な追い越しはやめましょう

4のすべてを語る。

GPz400F-II、流麗なボディラインと角型ハロゲンヘッドライトが見せる機能優先のエアランス

で、新たな個性をロードに主張
新へ、カワサキはつねにハイ
テクノロジー&ハイクオリ
スタマシンを追求

に走りの予感を漂わせ
する。ベーシックから革
パフォーマンス、ハイテ
ティに裏づけられたベ
する。—TAKE

THE BEST
MACHINE

●4ストローク4気
筒・DOHCエンジン

●最高出力54ps/11,500rpm ●最大トルク3.5kg-m/9,500rpm ●アンチダイブシステム ●ユニトラックサスペンション ●カラー…メタリックスターライトブラック・ギャラクシーシルバー ●標準現金価格 ¥498,000

Kawasaki

GPz400F-II

★十分に確認し、確認されるよう努めましょう
★早朝、夕方は早めにヘッドライトの点灯を
★いつもふさわしい服装で乗りましょう

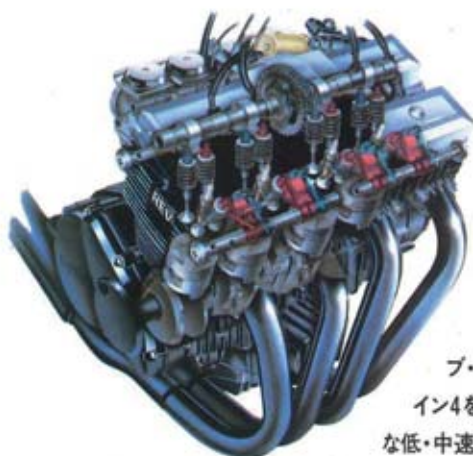
スピーディな
部品供給

●カワサキ純正部品は、カワサキ特約店で求めください。
カワサキではカワサキ特約店と直結したスピーディな純正部品直送体制を展開しています。

●カタログご希望の方は、必要事項を明記し170円切手を同封の上、〒573 明石市川崎町1-1 カワサキオートバイ販売株式会社(カタログ係)までお送りください。

REV. GEN

世界初のREV.インライン4を搭載。
新登場。レボリューションナリー・スーパースポーツ。



サーキット・スピリットも強烈に、CBR400Fが生まれ。そのエンジンは、世界初の画期的なバルブ・システムを持つREV.インライン4を搭載。ハイパワーと強力な低・中速トルクを両立して、これまでのインライン4を革新した。このパワーユニットに応えるフレーム、足まわり、仕様・装備も、すべては走りを最優先。レーサー・イメージそのままのハイパフォーマンスを生み、スーパースポーツ・シーンに新たな展開をもたらした。



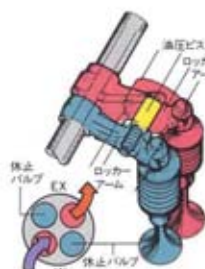
この写真はサーキットコースで走行中を撮影したものです。一般公道では制限速度を守り、無理な走行やコーナリングをしないようにします。

高回転域では4バルブ、低・中回転域では2バルブ。

REV.システムこそ、インライン4の革新メカニズム。

エンジン回転数に応じて作動バルブ数が変化する、REV.システム(回転数応答型バルブ休止機構)。高速域では4バルブ作動で圧倒的な高回転・高出力を達成。一方、低・中速域では2バルブ作動となり、混合気の吹き抜けが少なく、流速もアップ。しかも良好なスワールが発生するため、優れた吸・排気効率と燃焼効率を獲得。強力な低・中速トルクを発揮する。そして、この画期的なバルブ作動システム

2バルブ 低・中回転時のバルブ作動状態



4バルブ 高回転時のバルブ作動状態



のカギは精密な2分割ロッカーアームと、それに内蔵された油圧ピストン。低・中速域では片方だけ作動し、吸・排気それぞれ1本ずつのバルブを動かす2分割ロッカーアームがある。一定の回転域の油圧ピストン移動により、まさに一瞬のうちには2バルブ→4

REV.インライン4の
パワーカーブ

PS
rpm

従来型4バルブ・エンジンのパワーカーブ
REV.インライン4と従来型4バルブ・エンジンとの出力特性の比較。(当社比)

HONDA®

Hello! Good Rider

身につけよう。安全走行のためのルールとマナー。

- ヘルメットを正しくかぶりましょう。■点検整備を忘れずに。■安全のため改造はやめましょう。
- 安全速度で走りましょう。●カーブではスピードをひかえめに。●追越しは余裕をもって。
- 自分を目立たせるため、早朝・夕方「ヘッドライト早め点灯」を。

ERATION



アンダーカウルはオプションです。

モリワキレーシングチーム所属 宮城 光 選手

バルブの切り替えを行なう。REV.インライン4はこの世界初のバルブ・システムにより、ハイパワーと強力な低・中速トルクをみごとに両立。まさに革新的な威力を誇る。

すべてに走りをもっと先立たせ、先鋭の仕様・装備の数かず。

圧倒的な実力の「CBR・パフォーマンス」が展開する。

コンピュータ解析(CAE)により軽量・高剛性を徹底追求した、新設計の角型断面フレーム。そしてニュープロリンク、前後トリプル装備の新デザイン・ブレーキディスク、NSコムスターホイールなど機能に徹した足まわり。さらには冷却効率の向上

のため角型ヘッドライト下部に配置したオイルクーラーにいたるまで、CBR400Fはその全身に走りを最優先。まさにレーサー・イメージ。

主要諸元 ● 型式NC17 ● 空冷4サイクルDOHC4バルブ4気筒・399cm³ ● 内径×行程：55.0×42.0(mm) ● 圧縮比9.6 ● 最高出力58PS/12,300rpm ● 最大トルク3.6kg-m/11,000rpm ● 車両重量193kg ● 乾燥重量176kg ● 燃費40km/ℓ(60km/h定地走行テスト値) ● 点火方式：フルトランジスタ ● 6段リターン変速 ● 前後に油圧式ディスクブレーキをトリプル装備 ● フロント・エアサスペンション ● プロリンク・リアサスペンション ● 車体色：ブラック、モンツァレッド、パールシェルホワイト ※ 定地燃費は定められた試験条件のもとでの値です。したがって、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。



標準現金価格 ¥539,000
(北海道、沖縄および一部離島を除く)

新登場 CBR400F

セーフティクラブに加入しませんか。

セーフティクラブは、バイクを心から愛する仲間の集まりです。定期的に行なわれるツーリングや技術向上のための講習会などを楽しく開催しています。全国35,000人の仲間があなたの参加を待っています。

お問い合わせはお近くの販売店、または下記ホンダ安全運転普及本部・地区事務局へ

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| ● 本部事務局 TEL.03 (406)4396 | ● 中部地区事務局 TEL.052(261)2671 |
| ● 北海道地区事務局 TEL.011(251)9231 | ● 関西地区事務局 TEL.06 (313)1171 |
| ● 東北地区事務局 TEL.0222(25)6171 | ● 九州地区事務局 TEL.092(281)6065 |
| ● 関東地区事務局 TEL.03 (498)3251 | |

YZ80

- 水冷・2ストローク・単気筒
- V.E.I.S.搭載
- 最高出力21ps / 11,500r.p.m.
- 最大トルク1.32kg-m / 11,000r.p.m.
- 乾燥重量60kg
- 標準現金価格 ¥195,000



いい相棒と出逢った時、チャンプへの道は開かれる。

写真の男、ハカン・カルキピスト。温かな人柄を感じさせる表情と裏腹の、ダイナミックなライディングで、ヤマハYZM500とともに“世界の頂点”に立った。そして、'84YZシリーズ。カルキピストが“世界の頂点”を実証してみせたレーシングテクノロジーを惜しみなく注いで、君の手に新登場。定評の水冷2ストロークエンジンは、吸排気に新技術を投入。全回転域での強烈なパワーとトルクは抜群の戦闘力を生んだ。'84YZシリーズ。ぜひ相棒に選んでほしい。君のレーシングスピリットに応じて、チャンプへの道を疾駆するに違いないから。

★YZ80・125・250は運輸省の認定を受けていませんので、ナンバープレートを取得することはできません。

★YZ80・125・250は道路は走行できません。道路を走行しますと、道路交通法及び道路運送車両法の違反となります。★私道、社寺の境内、公園、海辺、堤防上、農道、林道など、いわゆる道路の形態を整えていないところでも人や車が自由に入出入りできるところは、道路とみなされます。走行場所には十分注意してください。



YZ125

- 水冷・2ストローク・単気筒
- Y.P.V.S.搭載
- 最高出力32ps / 11,000r.p.m.
- 最大トルク2.15kg-m / 10,000r.p.m.
- 乾燥重量86.5kg
- 標準現金価格 ¥345,000

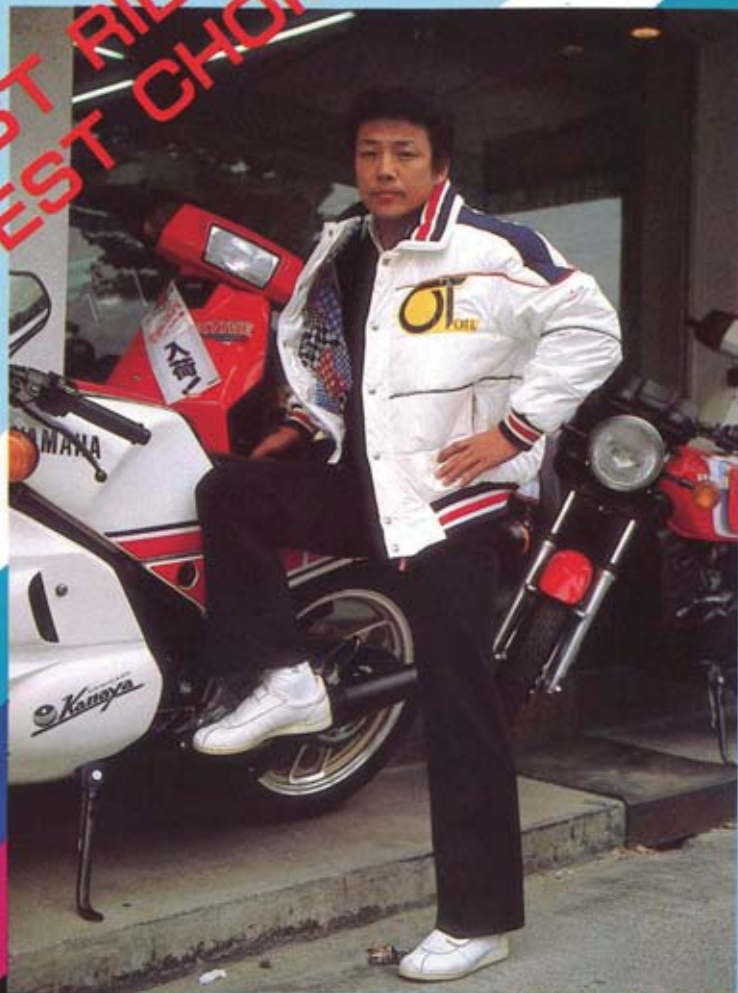
YZ250

- 水冷・2ストローク・単気筒
- Y.P.V.S.搭載
- 最高出力44ps / 8,250r.p.m.
- 最大トルク4.01kg-m / 7,000r.p.m.
- 乾燥重量96.5kg
- 標準現金価格 ¥435,000

HAMP.

'84 YAMAHA YZ
with
HAKAN CARLQVIST

THE BEST RIDER'S
BEST CHOICE



ロードレース国際A級 金谷秀夫

モータースポーツのメッカ、カリフォルニアロングビーチのO・Tから新しいコンセプトのレーシングオイル及びストリートオイルが上陸した。化学合成・植物性また鉱物性のいずれでもない第4のオイルをトップライダー達は選んだ。



O.T.I. JAPAN

〒231 横浜市中区扇町 2-4-3

第一ミヤビル801

TEL (045) 661-0704

M. ROBERT

Boy'sロベルトあり

どれもが充実の内容で迫まる

販売代理店募集中!!

MX戦士最新号



●ロベルトオリジナルヘルメット 各種デザイン・色有り 予価 ¥26,000 詳しくは、お問い合わせください。



●プレスト 青/黄 赤/黄 赤/白 青/白 黒/黄の5タイプ 大人用品番405-210 ¥18,000 品番214 ¥18,000 子供用品番405-213 ¥9,000 ~ ¥10,000



●メッシュジャージ ワークスカラー及びネーム入とロベルトの5タイプ ¥7,800 詳しくは、お問い合わせください。



●MXグローブ ワークスカラー及びネーム入とロベルトの5タイプ 品番504 ¥7,900 子供用 ¥6,500



●MXパンツ ワークスカラー及びネーム入とロベルトの5タイプ 各サイズ取り揃えてあります。品番406-915 36-42 ¥25,000、44-52 ¥32,000 406-916メッシュ 36-42 ¥27,000、44-52 ¥34,000 ●子供用品番403-910 3才~7才用 ¥15,000 8才~11才用 ¥16,000



●MXブーツ 赤/黄 黒/黄 青/黄 SIZE 38-44品番578 ¥43,000 品番580 ¥43,000品番582 ¥38,000(キャンパス地) 子供/女性用 SIZE 20.0cm ~24.5cm ¥35,000 各タンク底と平底あり

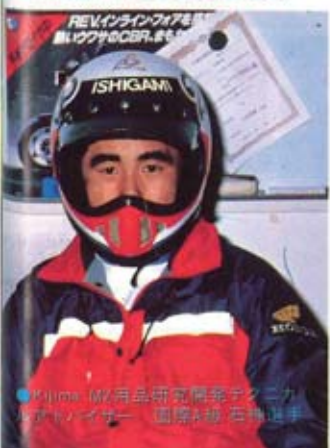


●MXスパッツ ワークスカラー及びネーム入とロベルトの5タイプ 品番406-950 ¥7,500

●社ショールームにて、MXバイクの買い上げの方ネーム入れサービス中(ただし3文字まで無料) 4文字以上の場合は、1文字 ¥800が必要となります)

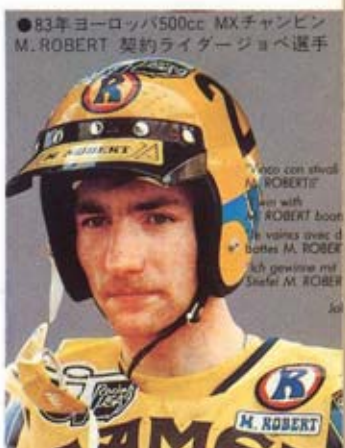


本誌は、ヨーロッパで最も売れているイタリアのロベルトMX製品を、お届けしております。製品に関して不明な点は、お問い合わせください。



●M. ROBERT氏身許から、日本人ライダー用の製紙を制作しております。ロベルトMXギアは、一つ一つ念に東通な工場で、縫製されています。

'84ロベルト MX用品総合カタログあります。



●83年ヨーロッパ500cc MXチャンピオン M. ROBERT 契約ライダージョー選手

M.ROBERT日本総代理店 株式会社 木島

Show Room 于114 東京都北区田端新町1-24 北道ビル ☎03(893)7521 西新井営業所/商品研究開発部于123 東京都足立区西新井4-16 ☎03(897)2167 TELEX NO. 2657543 KIZMA-JFAX 03(897)2138

●上記各製品は、全国の有名ショップ又は、Show Roomにて展示発売中です。●掲載製品の価格、仕様等は、改良のため予告なく変更することがあります。予めご了承ください。

●Kijima: MX用品研究開発センター
アドバイザー 国際4輪 石橋選手

Signal flags

信号旗

●合図旗および合図

レース中、大会役員が次の合図用旗を示した場合、各ライダーは、ただちにそれに従わなければならない。



赤旗
全ライダーはただちに停まれ!!



青旗
追越車あり進路をゆずれ!!



緑旗
先に示した合図解除



黄色縦縞の赤旗
コース上にオイルあり注意



黄旗
危険あり注意。振られた場合は大いに危険!! スピードダウン徐行せよ!!



黒旗
指示されたライダーは走行停止せよ!!



白旗または赤十字旗
コース上に救急車あり!!



チェッカー旗
レース終了!! キミはゴールした

レースナンバープレート・ライセンス識別カラー

ロードレース

- 前面：タテ 235mm × ヨコ 285mm
- 側面：タテ 250mm × ヨコ 300mm



プロダクション(前面)



ノービス(側面)



国際B級(前面)



国際A級(側面)

モトクロス

タテ 235mm × ヨコ 285mm



Bライセンス



ノービス



ジュニア



国際B級



国際A級(125cc)



国際A級(250cc)

トライアル

タテ 150mm 以上 × ヨコ 175mm 以上



ノービス



ジュニア



国際B級



国際A級

注：タテ×ヨコの数字は、ナンバープレートの寸法を示す。また、数字の書体はFIMの指定に基づくMFJの正規のものである。

FIM/MFJ組織図

国際連合

ユネスコ

UIM

国際モーターボート連盟

FIA

国際オートモビル連盟



FIM

国際モーターサイクリスト連盟

(世界60カ国加盟)



MFJ

日本モーターサイクル協会

MFJ九州地方本部

MFJ四国地方本部

中国
モーターサイクル協会

関西
モーターサイクル協会

中部
モーターサイクル協会

関東信越
モーターサイクル協会

MFJ
東北スポーツ委員会

北海道
モーターサイクル協会

MFJ総会

理事会

財務委員会

運営委員会

中央スポーツ委員会

雪上車部会

スポーツ普及企画委員会

資格審査委員会

技術委員会

ヘルメット委員会

安全公害対策委員会

トライアル委員会

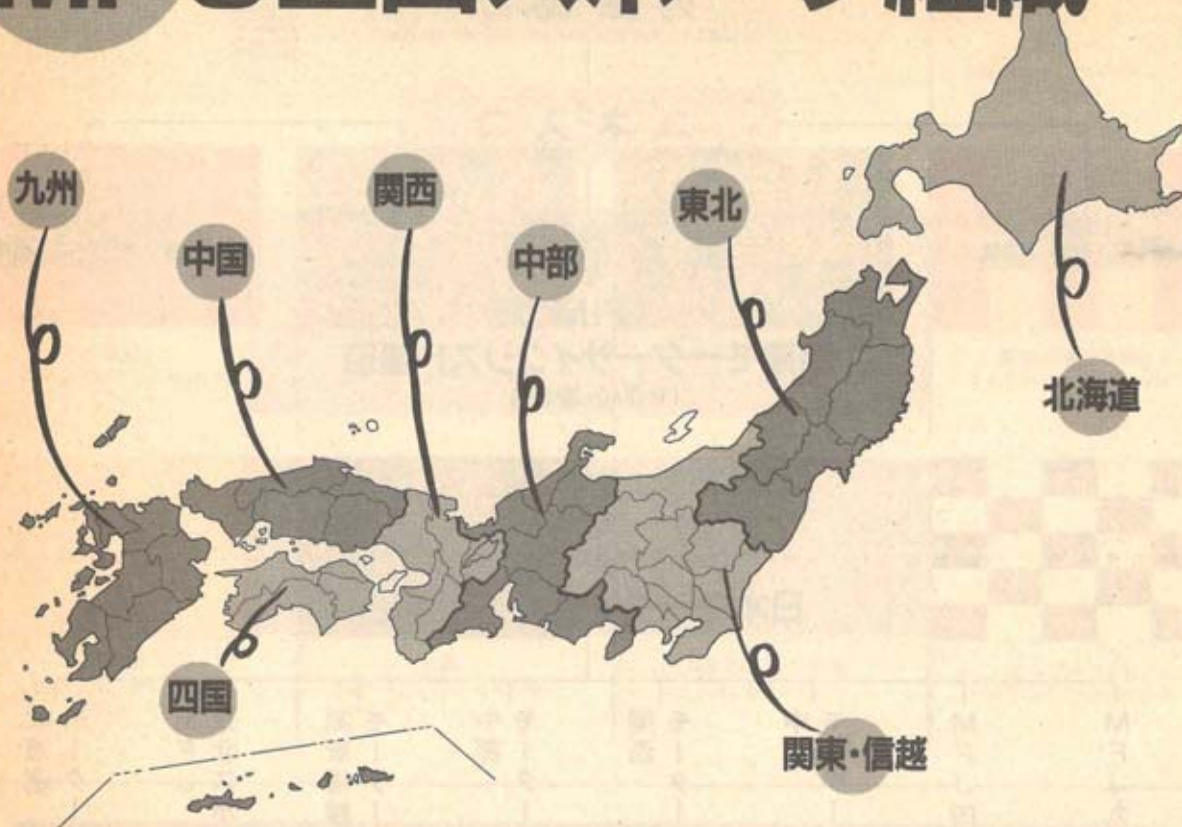
モトクロス委員会

ロードレース委員会



日本モーターサイクル協会
MFJ(エム・エフ・ジェイ)
会長・石塚秀男

MFJ全国スポーツ組織



北海道 (札幌・函館・旭川・北見・帯広・釧路)

北海道モーターサイクル協会会長	阿部 捷兵	☎065 札幌市東区北30条東1丁目 株式会社自販北海道	011-721-8311
副会長	西川 寿光	☎003 札幌市白石区本通17丁目南5-12 カワサキ東日本販売㈱	011-861-9341
常任理事	和田 庄太郎	☎060 札幌市中央区南3条西1丁目 北日本ホンダ販売㈱	011-281-6431
常任理事	和多 行夫	☎063 札幌市西区24軒1条7丁目 北海道ヤマハ㈱	011-641-2711
常任理事・事務局長	本川 方吉	☎065 札幌市東区東雁来町52 北海道モーターサイクル協会	011-782-1492
スポーツ委員長	木村 一磨	☎065 札幌市東区北30条東1丁目 株式会社自販北海道	011-721-8311
モトクロス委員長	木村 谷一磨	☎065 札幌市東区北30条東1丁目 株式会社自販北海道	011-721-8311
トライアル委員長	木鉾 孟司	☎062 札幌市豊平区豊平2条5丁目17 ㈲アメヤモーターサイクル	011-823-1980
スノーモービル委員長	大宮 崇司	☎063 札幌市西区24軒1条7丁目 北海道ヤマハ㈱	011-641-2711
スポーツ委員	長谷川 勝美	☎003 札幌市白石区菊水7条4丁目4-11 北日本ホンダ販売㈱	011-813-1741
スポーツ委員	井上 栄一	☎063 札幌市西区24軒1条7丁目 北海道ヤマハ㈱	011-641-2711
札幌室蘭支部 支部長	阿部 捷兵	☎065 札幌市東区北30条東1丁目 株式会社自販北海道	011-861-9341
副支部長	(西川 寿光)	☎003 札幌市白石区本通17丁目南5-12 カワサキ東日本販売㈱	011-721-8311
スポーツ委員長	藤尾 尚司	☎065 札幌市東区北30条東1丁目 株式会社自販北海道	011-721-8311
函館支 支部長	藤尾 尚司	☎041 函館市亀田本町67-32 藤尾輪業㈱	0138-43-1801
副支部長	斉藤 正則	☎040 函館市高砂町9-18 函館スズキ販売㈱	0138-53-0555
スポーツ委員長	函館 雄雄	☎040 函館市美原3-38-34 北海道ヤマハ㈱	0138-46-1466
旭川支 支部長	細川 悦郎	☎070 旭川市1条5丁目 ㈱細川商会	0166-22-7301
副支部長	丸山 秀雄	☎070 旭川市永山2条1丁目 株式会社自販北海道	0166-48-1180
スポーツ委員長	松谷 紀昭	☎070 旭川市4条西7丁目 嵯峨ビル 北海道ヤマハ㈱	0166-23-9151
北見支 支部長	富田 富夫	☎090 北見市西富町112の1 北見スズキ㈱	0157-24-1866
副支部長	小野 勉	☎090 北見市大町42 道東ホンダ販売㈱	0157-23-7551
スポーツ委員長	利原 雄雄	☎090 北見市三輪469の2 北海道ヤマハ㈱	0157-36-6311
帯広支 支部長	川瀬 征美	☎080 帯広市東1条南4丁目10 帯広ホンダモーター㈱	0155-23-8151
副支部長	川瀬 征美	☎080 帯広市西2条南1丁目20 ㈲川瀬自転車店	0155-24-5064
スポーツ委員長	白山 泰也	☎080 帯広市西5条北1丁目4 北海道ヤマハ㈱	0155-24-2438
釧路支 支部長	浜崎 哲夫	☎085 釧路市南浜町2-30 北海道ヤマハ㈱	0154-23-3345
副支部長	浅野 正義	☎084 釧路市星ヶ浦1の3-51 本田技研工業㈱	0154-51-1475
スポーツ委員長	青木 英夫	☎085 釧路市北大通910-1 ㈲青木商会	0154-23-1601

()は兼任

東北 (青森・秋田・山形・岩手・宮城・福島)

MFJ東北スポーツ委員会委員長	塚本 龍 昌	☎963 郡山市堤下町10-8 藤塚本輪業商会	0249-22-1784
// 副委員長	猪股 謙 一	☎980 仙台市荒巻神明町26の1 猪股商会	0222-73-5611
// 副委員長	高橋 道 雄	☎030 青森市浪館字前田21-15	0177-81-2481
// 副委員長	大友 克 人	☎982 仙台市長町3丁目3-9 ホンダ宮城販売株内	0222-47-0123
// コミッショナー	角 金 孝	☎031 八戸市売市70	0176-54-4171
// 特別顧問	齊藤 三千雄	☎980 仙台市北根1の19の41 藤アイビーモータース内	0222-73-0475
// 顧問	田 辺 永 治	☎000 青森市金浜字伊吹69-4	0177-39-2125
// 監査役	佐々木 俊 雄	☎980 仙台市通町2-17-17 佐々木輪業内	0222-34-4832
// 監査役	小松 久 雄	☎995 尾花沢市大字横内94-1	02372-2-4223
// 監査役	池原 勝 二	☎900 福島県安達郡本宮町字馬場83 池原ホンダ内	02433-3-2455
// 事務局長	長 沢 義 勝	☎980 仙台市北根1の19の41 藤アイビーモータース内	0222-73-0475
// トライアル委員会委員長	(大友 勝 二)	☎982 仙台市長町3丁目3-9 ホンダ宮城販売株内	0222-47-0123
// 副委員長	(池原 勝 二)	☎900 福島県安達郡本宮町字馬場83 池原ホンダ内	02433-3-2455
// ロードレース委員会委員長	(佐々木 俊 雄)	☎980 仙台市通町2-17-17 佐々木輪業内	0222-34-4832
宮城県スポーツ委員会委員長	服部 謙 治	☎983 仙台市福田町1-6-46 服部カワサキショップ内	0222-58-1724
// 事務局長	(佐々木 俊 雄)	☎980 仙台市通町2-17-17 佐々木輪業内	0222-34-4832
宮城県トライアル部会事務局長	(大友 克 人)	☎982 仙台市長町3丁目3-9 ホンダ宮城販売株内	0222-47-0123
福島県スポーツ委員会委員長	佐々木 威 雄	☎964 二本松市松岡216-2	02432-2-3541
福島県モトクロス委員会委員長	増 野 行 雄	☎963 郡山市若松町16-19	0249-32-1546
// 事務局長	菅野 明	☎963 郡山市堤下10-8 藤塚本輪業商会内	0249-33-6771
福島県トライアル部会部会長	柳 町 幸 一	☎963 郡山市開成6-232 ヤマハ東北藤郡山(営)	0246-22-1725
// 事務局長	(池原 勝 二)	☎960 福島県安達郡本宮町字馬場83 池原ホンダ販売内	02433-3-2455
福島県雪上車スポーツ部会会長	藤 本 勝 勝	☎960 福島市天神町12-24	0245-34-3330
秋田県スポーツ委員会委員長	鈴木 祐 孝	☎000 男鹿市船川港船川字船川15-2	0185-24-2725
// 事務局長	三 浦 勉	☎000 秋田県南秋田郡天王町天王字上北野139の2	0188-73-3271
秋田県モトクロス委員会委員長	大 倉 喜 七	☎000 秋田市豊岩豊巻字上野174-1	0188-28-2986
秋田県トライアル部会長	佐藤 康 一郎	☎010 秋田市広面字谷内佐渡38	0188-34-0695
山形県スポーツ委員会委員長	(小松 久 雄)	☎995 尾花沢市大字横内94-1	02372-2-4223
// 副委員長	小 林 啓 雄	☎990 山形県最上郡最上町大字向町614	02334-3-2912
// 副委員長	万 年 松 雄	☎998 酒田市浜田1-7-6	
山形県内陸モトクロス委員会委員長	村 形 徳 雄	☎990 天童市荒谷	02365-3-8828
山形県庄内モトクロス委員会委員長	川 柳 保 正	☎998 酒田市本町1-2-27	
山形県スポーツ委員会事務局長	押切 昇 昇	☎990 山形県最上郡最上町大字向町622 押切精肉店内	02334-3-2030
山形県トライアル部会事務局長	阿 部 利 昇	☎090 山形市錦町1-15 三島モータース内	0236-33-0361
岩手県スポーツ委員会委員長	岩 崎 博 美	☎020 二戸市金田一駅前	01952-7-3028
// 副委員長	照 井 清 清	☎025 花巻市桜町	01982-4-7356
// 事務局長	関 根 節 節	☎020 二戸市金田一山下山井9-2	01952-7-3508
岩手県トライアル部会部会長	田 中 清 也	☎020 盛岡市長田町4-14 田中ホンダ内	0196-22-7448
青森県スポーツ委員会委員長	瀬 川 高 峰	☎020 青森県西津軽郡鯉ヶ沢字小夜230の7	01737-2-4910
// 副委員長	(田 辺 永 治)	☎000 青森市金浜字伊吹69-4	0177-39-2125
// 副委員長	高 田 喜 代 美	☎030 青森市小柳字唐橋124市営10の17	0177-22-5511
// 事務局長	山 本 金 義	☎030 青森市松森字福田79-15 山本モータース内	0177-43-6282

()は兼任

関東・甲信越 (栃木・茨城・群馬・埼玉・千葉・東京・新潟・長野・山梨・神奈川)

関東・信越モーターサイクル協会会長	石 塚 秀 男	☎108 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内	03-472-6241
// 相談役	鈴木 四 郎	☎164 東京都中野区本町2-46-32 全国二輪車安全普及協会内	03-372-5156
// 相談役	井 井 九 一郎	☎108 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内	03-472-6241
// 事務局長	宮 城 久 夫	☎108 " "	"
関東・信越スポーツ委員会委員長	外 川 一 雄	☎113 文京区本郷3-38-5	03-811-0607
// 副委員長	村 上 正 司	☎123 足立区江北6-9-6	03-896-5865
// 副委員長	神 谷 忠 志	☎352 新座市北野1-2-6	0484-71-3596
// 副委員長	上 原 保 男	☎196 昭島市田中町3-5-23-303	0425-45-6379
// 副委員長	大 月 信 和	☎132 江戸川区小松川4-40-8	03-656-5485
// 顧問	大久保 力 雄	☎184 小金井市本町5-38-3	0423-81-7272
// 顧問	新 妻 一 郎	☎176 練馬区平和台3-5-2	03-933-5282
// 顧問	丸 山 良 男	☎955 新潟県三条市四の町232	02563-2-2612
関東・信越モトクロス委員会委員長	(村 上 正 司)	☎123 足立区江北6-9-6	03-896-5865
// 副委員長	村 上 保 和 夫	☎213 川崎市宮南区菅生2932	044-788-8561
// 副委員長	菅 家 安 智	☎130 墨田区本所3-3-7	03-625-7100
// 副委員長	香 川 州 民	☎114 北区滝野川7-10-2	03-915-8209
関東・信越ロードレース委員会委員長	(神 谷 忠 志)	☎352 新座市北野1-2-6	0484-71-3596
// 副委員長	三 井 彰 彰	☎144 北区王子4-23-8 STAFF HOUSE	03-914-4763
// 副委員長	若 林 太 一	☎131 墨田区東向島4-16-6	03-612-2552
関東・信越トライアル委員会委員長	(上 原 保 男)	☎196 昭島市田中町3-5-23-303	0425-45-6379
// 副委員長	成 田 省 造	☎211 川崎市中原区中丸子776-6	044-411-8618

関東信越トライアル委員会副委員長	(大月 信和)	番132 江戸川区小松川4-40-8	03-656-5415
関東信越スノーモービル委員会委員長	(大月 信和)	番132 "	"
副委員長	由川 広	番116 荒川区西尾久4-12-2	03-893-2635
副委員長	田中 英夫	番123 足立区鹿浜4-6-4	03-960-4181
東 京 都 会 長	(岩城 定夫)	番108 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内	03-472-6241
事務局長	富田 久夫	番108 "	"
東京都スポーツ委員長	(村上 正司)	番123 東京都足立区江北6-9-6 村上製作所内	03-896-5865
副委員長	鶴巻 秀行	番123 東京都足立区加賀1-19-130	03-857-1446
副委員長	(香川 民)	番114 東京都北区滝野川7-10-2 香川モーターズ	03-915-8209
東京都トライアル委員長	馬場 忠雄	番354 富士見市勝瀬940-10	0492-64-8461
神奈川県会 長	長谷川 武	番226 横浜市緑区池辺町中里前3575 神奈川県軽自動車協会内	045-931-4290
事務局長	鈴木 克典	番226 "	"
神奈川県スポーツ委員長	加藤 清丸	番226 "	"
埼玉県会 長	山崎 好文	番330 大宮市中釘2082 埼玉県軽自動車協会内	0486-24-1221
事務局長	熊井 紀一	番330 "	"
群馬県会 長	河原井 源次	番272 前橋市野中町578 群馬県軽自動車協会内	0272-61-0505
事務局長	滝沢 又	番272 "	"
群馬県スポーツ委員長	(下田 敏喜)	番272 前橋市清野町65	0272-53-1078
副委員長	白石 和利	番272 安中市板鼻2082	0273-82-5715
群馬県モトクロス委員長	下田 敏喜	番272 前橋市清野町65	0272-53-1078
副委員長	浅香 哲也	番371 前橋市敷島町247-15	0272-34-2287
群馬県トライアル委員長	宮野入 禮司	番370 高崎市九藏町53	0273-22-3797
副委員長	後藤 藤一	番370 高崎市下豊岡町114-4	0273-26-6761
茨城県会 長	鬼沢 喜一郎	番310 水戸市住吉町307 茨城県軽自動車協会内	0292-47-5832
事務局長	佐野 臣一	番310 "	"
茨城県スポーツ委員長	小室 文男	番310 水戸市住吉123 小室モーターズ内	0292-47-5215
栃木県会 長	阿子島 俊一	番320 宇都宮市西川町田字東原1664-3 栃木県軽自動車協会内	0286-45-0958
事務局長	伊藤 喜代美	番320 "	"
栃木県スポーツ委員長	松本 栄太郎	番320 "	"
栃木県モトクロス委員長	入江 美雄	番322 宇都宮市石井町2731	0286-61-3560
副委員長	五江 潤 皓	番324 大田原市戸野内417	02872-3-0812
山梨県会 長	原 茂 賢	番406 山梨県八代郡石和町唐柏791-1 山梨県軽自動車協会内	05526-2-7548
事務局長	古 星 保	番406 "	"
山梨県スポーツ委員長	西谷 裕司	番404 山梨県東八代郡一宮町橋立95 スポーツショップ西谷内	05534-7-1476
新潟県会 長	中池 村 義郎	番950 新潟市大形木町1173 新潟県軽自動車協会大形事務所内	0252-75-5704
副委員長	加地 芳男	番950 "	"
新潟県スポーツ委員長	池田 藤俊	番950 "	"
副委員長	(池田 芳男)	番950 "	"
新潟県モトクロス委員長	中池 村 義郎	番950 "	"
副委員長	斉藤 正利	番950 新潟県中蒲原郡亀田町袋津6-2-39	0253-81-2917
新潟県トライアル委員長	長谷川 敏郎	番951 新潟市牡丹山3-2-5 (アカミチバイクセンター内)	0252-75-5092
新潟県スノーモービル委員長	小林 繁晴	番951 新潟市本町1-1-23	02504-2-2724
長野県会 長	小原 正雄	番950 新津市下新409-3	02502-3-0320
事務局長	高橋 正則	番951 新潟市関屋大川前1 (市川サイクル内)	0252-66-7324
長野県スポーツ委員長	高橋 和雄	番950 新潟県南魚沼郡塩沢町南田中423 (高喜屋内)	02578-3-2403
長野県会 長	山田 幸人	番380 長野市大字西和田字東和田境438-3 長野県軽自動車協会内	0262-43-1967
事務局長	小西 清人	番380 "	"
長野県スポーツ委員長	西 牧 徳光	番390 松本市出川町1643 モトショップヒロ内	0263-25-6539

()は兼任

中部 (静岡・愛知・富山・石川・福井・岐阜・三重)

中部モーターサイクル協会会長	島田 紀夫	番920 石川県金沢市柳橋町甲3 株式会社自販北陸	
副会長	仲田 積夫	番457 愛知県名古屋市中南区南野1丁目72 愛知スズキ販売㈱	052-612-2151
副会長	仲 神 桂	番507 岐阜県多治見市本町7丁目43 ㈱ホンダ二輪岐阜	0573-65-2032
事務局長	西出 永夫	番921 石川県金沢市入江3-134 石川県二輪車安全普及協会内	0762-91-7111
スポーツ委員長	藤井 璋美	番513 三重県鈴鹿市住吉町6786 ホンダワールド㈱	0593-78-1455
トライアル委員長	鈴木 唯一	番900 愛知県愛知郡東郷町諸輪字東輪59-99	05613-8-0736
愛知県顧問	西野 新兵衛	番460 愛知県名古屋市中区新栄1-1-31 名古屋三菱自動車販売	
愛知県理事	福田 実孝	番466 愛知県名古屋市中区昭和区単人町5-5 ㈱ホンダ二輪愛知	
愛知県理事	岡島 孝	番463 愛知県名古屋市中区守山区守山字関根71-1 カワチキ中日本販売㈱名古屋営業所	052-793-7671
愛知県理事	森 好信	番462 愛知県名古屋市中区北区辻本通2-34 ヤマハ名古屋㈱	052-913-2121
愛知県理事	寺尾 之男	番466 愛知県名古屋市中区昭和区天白町大字八事字富士見ヶ丘110-6 愛知県軽自動車協会	052-833-9276
愛知県運営委員	福垣 幸雄	番466 愛知県名古屋市中区昭和区天白町大字八事字富士見ヶ丘110-6 愛知県軽自動車協会	052-832-2575
三重県顧問	長崎 芳三	番515 三重県松坂市船江町689-1 三重ダイハツ販売㈱	
三重県常任理事	野 嶋 博	番457 愛知県名古屋市中南区元塩町6-24 ㈱スズキ自販中部	
三重県理事	服部 逸男	番510 三重県四日市市午起2-4 ㈱第一自動車	0593-31-7321
三重県理事	福田 守保	番515 三重県松坂市大塚町381-1 三重スーパーカブ販売㈱	
三重県理事	福井 守	番514 三重県津市東丸の内14-32 カワチキ中日本販売㈱三重営業所	0592-26-2713
三重県監事	巻井 清人	番515 三重県松坂市藤田町962 ㈱スズキ自販中部三重統括本部	
三重県運営委員	伊藤 實信	番514 三重県津市港町19-12 三重県軽自動車協会	0592-24-1111
静岡県顧問	山田 勝哉	番420 静岡県静岡市古庄135 ㈱スズキ自販静岡	
静岡県常任理事	鈴木 洪太	番435 静岡県浜松市北島町818 鈴木モーター販売㈱	
静岡県理事	飯尾 昌久	番422 静岡県静岡市中島191 ㈱ホンダ二輪静岡	0542-83-9111

中部モーターサイクル協会静岡理事	桑原弘	☎422 静岡県静岡市曲金6-8-47 ヤマハ静岡モータース㈱	0542-83-7661
// 静岡理事	伊藤良智	☎424 静岡県清水市楠新町212-1 カワサキ東日本販売㈱静岡営業所	0534-45-4118
// 静岡監事	田田芳	☎430 静岡県浜松市植松町1490-1 東海スーパーカブ販売㈱	
// 静岡運営委員	戸長幹雄	☎422 静岡県静岡市吉田32-7 静岡県軽自動車協会	0542-61-4455
// 岐阜県顧問	村上義勝	☎500 岐阜県岐阜市金園町9-7 岐阜ダイハツ販売㈱	
// 岐阜県理事	渡美圭二	☎422 静岡県静岡市中島191 ヤマハ名古屋岐阜営業所	0582-47-1521
// 岐阜県理事	後藤忠七	☎500 岐阜県岐阜市金町6-16 岐阜スズキ販売㈱	0582-64-8131
// 岐阜県理事	岡島孝	☎463 愛知県名古屋守山区守山字間黒71-1 カワサキ中日本販売㈱名古屋営業所	052-793-7671
// 岐阜県運営委員	山村真夫	☎500 岐阜県羽島郡柳津町大字高桑字立野3276-1 岐阜県軽自動車協会	05832-6-5982
// 石川県常任理事	木原清	☎921 石川県石川郡野々市町二日市町540-1 ヤマハ京北㈱北陸本社	0762-49-5210
// 石川県理事	戸井暗	☎200 石川県金沢市古府町東159 ㈱ホンダ二輪北陸	0762-52-1231
// 石川県理事	安養宰	☎920 石川県金沢市春日町8-6 カワサキ中日本販売㈱金沢営業所	0762-91-7111
// 石川県理事	三松	☎921 石川県金沢市入江3丁目134 石川県軽自動車協会	0762-91-7111
// 石川県運営委員	(西出永夫)	☎921 石川県金沢市入江3丁目134 石川県二輪車安全普及協会	
// 富山県顧問	早川治	☎930 富山県富山市荒川100 富山三菱自動車販売㈱	
// 富山県常任理事	斉藤正義	☎930 富山県富山市公文38-5 ㈱バイクショップ富山カワサキ	0764-51-2666
// 富山県理事	丸山武	☎930 富山県富山市新庄町銀座163-1 ㈱ホンダ二輪北陸富山営業所	0764-33-5763
// 富山県理事	徳永英和	☎930 富山県富山市下赤江1-2-5 ヤマハ京北㈱富山営業所	0764-25-3950
// 富山県理事	黒川俊雄	☎930 富山県富山市掛尾町416-1 ㈱スズキ自販富山	0764-24-6420
// 富山県運営委員	黒瀬秀吉	☎930 富山県富山市藤木521-1 富山県軽自動車協会	
// 福井県顧問	金子佛三郎	☎910 福井県福井市文京2丁目12-26 福井三菱自動車販売㈱	
// 福井県常任理事	伊藤正樹	☎910 福井県福井市花堂中1丁目6-12 ㈱ホンダ二輪北陸福井営業所	0776-38-0530
// 福井県理事	長谷部勝	☎910 福井県福井市今市町54-7 ㈱スズキ自販北陸福井支店	0776-27-3626
// 福井県理事	森正敏	☎910 福井県福井市成和2丁目1023 ヤマハ京北㈱福井営業所	0776-38-0558
// 福井県理事	安養宰	☎920 石川県金沢市春日町8-6 カワサキ中日本販売㈱金沢営業所	0776-38-0558
// 福井県運営委員	漆崎信弘	☎910 福井県福井市浅水町138字上植木11-2 福井県軽自動車協会	

()は兼任

関西 (滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)

関西モーターサイクル協会会長	西海義治	☎653 神戸市長田区房王寺町1-4-15	078-642-1785
// 事務局長	中林稔弘	☎673 神戸市西区玉津町居住67-1 兵庫県軽自動車協会内	078-927-7701
関西モーターサイクルスポーツ委員会委員長	池田徳寛	☎661 尼崎市神崎町43-11	06-499-7566
// 副委員長	田中隆	☎578 東大阪市吉田2-9-26	0729-62-0768
関西モーターサイクルトライアル委員会委員長	山本陸	☎675 加古川市野口町良野261-3 山本レーシングサービス内	0794-23-2335
関西モーターサイクルロードレース委員会委員長	金谷秀夫	☎658 神戸市東灘区森南町1-7-8	078-431-0211
関西モーターサイクル協会滋賀県支部支部長	渡部清	☎500 大津市唐崎3-17-1 滋賀県軽自動車会館内	0775-79-2233
// 京都府支部支部長	桜井伊蔵	☎612 京都市伏見区竹田向代町51-5 京都自動車会館内京都府軽自動車協会二輪部会	075-671-5887
// 大阪府支部支部長	福井文夫	☎550 大阪市西区立売堀1丁目7-14 大阪府軽自動車協会内	06-532-4781
// 兵庫県支部支部長	(西海義治)	☎653 神戸市長田区房王寺町1-4-15	078-642-1785
// 奈良県支部支部長	小島末太郎	☎630 奈良市南宮町2-321-1 奈良県軽自動車協会内	0742-24-5593
// 和歌山県支部支部長	黒川栄	☎641 和歌山県西浜字中川向ヒノ坪1660-389 和歌山県二輪車安全普及協会内	0734-31-6133

()は兼任

中国 (鳥取・島根・岡山・広島・山口)

中国モーターサイクル協会会長	吉井幸三	☎730 広島市大手町3-1-29 ㈱ホンダ二輪広島	082-241-4274
西日本スポーツ委員会委員長	大野弘雄	☎730 広島市南区松川町3-19 ㈱広島英油内	082-261-8386
// 事務局長	原田茂樹	☎730 " "	"
西日本トライアル委員会委員長	松田義彦	☎733 広島市西区横川町1-7-19	082-232-2632
// 副委員長	石川増美	☎700 岡山市南中央町12-3 ㈱梅木商会内	0862-31-5031
// 副委員長	西本恵啓	☎734 山口県光市虹ヶ浜2-7-26	
山陰スポーツ委員会委員長	立脇才三	☎683 米子市天神町2-49 立脇モータース内	08592-2-4583
// 副委員長	郷原和雄	☎691 平田市西郷町551	08536-3-2145
鳥取県支部支部長	規浦兵造	☎680 鳥取市丸山町248 鳥取自動車会館内 鳥取県軽自動車協会内	0857-23-3271
島根県支部支部長	原三弘	☎690 松江市八幡町725 島根県二輪車協会内	0852-38-1685
// 事務局長	原三弘	☎690 " "	"
岡山県支部支部長	山本角一	☎710 倉敷市沖8番地1 東中国スズキ自動車㈱	0864-24-1211
// スポーツ委員長	福岡康男	☎710 " "	"
// スポーツ副委員長	岡崎信機	☎710 倉敷市沖64-1	0864-22-5001
// モトクロス委員長	西田鉄男	☎712 倉敷市連島町連島35-34	0864-45-1145
// トライアル委員長	(石川増美)	☎700 岡山市南中央町12-3 ㈱梅木商会内	0862-31-5031
広島県スポーツ委員会委員長	下江照三	☎730 広島県福山市都新町新市甲11813	0847-51-3043
// モトクロス委員長	石川稔彦	☎733 広島市中区江波本町4-26	082-293-2940
// モトクロス副委員長	小笠原幸	☎730 広島市中区平野町2-20	082-246-0548
// トライアル委員長	(松田義彦)	☎733 広島市西区横川町1丁目7-19	082-232-2632
山口県支部支部長	佐々木吉雄	☎755 宇部市南浜町2-7-21 佐々木モータース㈱内	0836-21-8181
// スポーツ委員長	若木恭一	☎740 岩国市平田町4-21-30	0827-32-1555
// トライアル委員長	(西本恵啓)	☎743 山口県光市虹ヶ浜2-7-26	
// ロードレース委員	山本明	☎751 下関市秋根南町2-1-15	0832-56-1406

()は兼任

四 国 (徳島・香川・愛媛・高知)

M F J 四国地方本部	本部長	前田 秀雄	徳760 高松市三条町113 脚スズキオート香川	0878-66-8411
M F J 四国スポーツ委員会	委員長	同村 義樹	徳760 高松市西宝町3-11-7	0878-34-1634
//	副委員長	同 同	徳763 丸亀市西本町1-1-1	08772-2-2921
//	モトクロス委員長	宮川 雅夫	徳763 丸亀市今津町886	08772-2-9512
//	トライアル委員長	富浪 雅夫	徳770 徳島市西新町4丁目7 富浪商店内	0886-22-5545
//	事務局長	(宮川 雅夫)	徳763 丸亀市今津町886	08772-2-9512
//	顧問	(前田 秀雄)	徳760 高松市三条町113 脚スズキオート香川	0878-66-8411
//	顧問	藤沢 智和	徳670 明石市二見町福里506-18	07894-2-8297
//	顧問	藤沢 智和	徳105 東京都港区新橋1-1 日比谷ビル8階カワサキオートバイ販売機	03-503-2581
徳島県支部	支部長	宮本 恒夫	徳770 徳島市南矢三町2-1-58 徳島県二輪自動車協会内	0886-53-8513
//	事務局長	笹田 満	"	"
//	スポーツ委員長	半田 良和	徳770 徳島市大松町榎原77の3 MC半田	0886-69-3688
//	事務局長	(半田 良和)	"	"
//	モトクロス委員長	林 正明	徳774 阿南市西路見町元村30-3	0884-22-0710
//	トライアル委員長	岸 正裕	徳770 徳島市徳島本町3丁目8	0886-54-2233
香川県支部	支部長	(前田 秀雄)	徳760 高松市三条町113 脚スズキオート香川	0878-66-8411
//	副支部長	(宮川 雅夫)	徳763 丸亀市今津町886	08772-2-9512
//	スポーツ委員長	(同 義明)	徳763 丸亀市西本町1-1-1	08772-2-2921
//	事務局長	近 孝	徳762 坂出市旭町3丁目1-11	08774-6-3385
//	モトクロス委員長	湯浅 進	徳760 高松市木太町2343-6	0878-33-9625
//	トライアル委員長	堀家 修	徳763 丸亀市城西町1丁目1の6 バイクショップホリケ	08772-4-2406
愛媛県支部	支部長	我光 四郎	徳790 松山市南高井町1812-3 愛媛県軽自動車協会内	0899-75-7310
//	事務局長	居 靖雄	"	"
//	スポーツ委員長	三原 森雄	徳790 松山市三番町7丁目13-11 松山カワサキみはら内	0899-32-6151
//	事務局長	(三原 森雄)	"	"
//	モトクロス委員長	章 修	徳790 松山市高岡町61	0899-73-0467
//	トライアル委員長	井 修	徳790 松山市下伊台町74-42 バイクショップ井原	0899-77-6505
高知県支部	支部長	同 猪之助	徳790 高知市横浜1657 高知県軽自動車協会内	0888-32-0178
//	事務局長	笠井 福次	"	"
//	スポーツ委員長	門田 洋一	徳780 高知市南御座22	0888-83-7272
//	事務局長	西 健二	徳780 高知市瀬戸町2-285	0888-42-2987
//	モトクロス委員長	横 修二	徳783 南国市大涌甲1615	0888-44-3348
//	トライアル委員長	川 竹 健二	徳780 高知市潮新町2-38-10 ライダーハウス	0888-31-4848

()は兼任

九 州 (福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

M F J 九州地方本部	本部長	内野 庄八	徳812 福岡市東区箱崎ふ頭2-5-16 福岡県軽自動車協会内	092-641-0431
//	スポーツ委員長	川 清志	徳810 福岡市中央区港2-5-32 サポートハイツ101	092-771-5508
//	モトクロス委員長	池 享正	徳812 福岡市東区箱崎ふ頭2-5-16 福岡県軽自動車協会内	092-641-0431
//	トライアル委員長	内野 徳助	徳834 八女市大字吉田1328	09432-4-3629
//	副委員長	築島 一典	徳800 久留米市大善寺町黒田447-2	0942-26-6376
//	副委員長	富田 永二	徳862 熊本市長嶺町2042-122 モトショップトミナガ	0963-65-1069
//	事務局長	庄司 正美	徳812 福岡市東区箱崎ふ頭2-5-16 福岡県軽自動車協会内	092-641-0431
福岡県支部	支部長	野村 篤	徳812 福岡市東区箱崎ふ頭2-5-16 福岡県軽自動車協会内	092-641-0431
//	事務局長	(庄司 正美)	"	"
//	トライアル委員長	(内野 徳助)	徳834 八女市大字吉田1328	09432-4-3629
佐賀県支部	支部長	松野 保	徳840 佐賀市高木瀬町大字高木五本杉1240-10	0952-30-8442
//	事務局長	上野 繁次	" 佐賀県軽自動車協会内	"
//	トライアル委員長	宮地 秀和	徳840 佐賀市高木瀬町大字長瀬249	0952-30-2408
長崎県支部	支部長	福小 和武	徳850 長崎市平間町400-3 第2総合事務所内	0958-38-3245
//	事務局長	小 隆	"	"
//	トライアル委員長	村木 隆夫	徳852 長崎市本川内町694 筑後木材内	0958-24-3321
熊本県支部	支部長	吉野 昭夫	徳862 熊本市東町4-26 熊本県軽自動車協会内	0963-69-7920
//	事務局長	西村 喜徳	"	"
//	トライアル委員長	(富永 勇二)	徳862 熊本市長嶺町2042-122 モトショップトミナガ	0963-65-1069
大分県支部	支部長	渡瀬 文治	徳870 大分市三ツ上1-4-35 大分県軽自動車協会内	0975-58-4861
//	事務局長	原 平久	"	"
//	トライアル委員長	戸高 清久	徳870 大分市北下郡年の神1544-1 ホンダショップ大分内	0975-69-5559
宮崎県支部	支部長	小日 洪之	徳880 宮崎市田代町7-1 宮崎県軽自動車協会内	0985-27-1471
//	事務局長	小日 洪之	徳880 宮崎市曾師町273 日高アパート202号	0985-27-9446
鹿児島県支部	支部長	下野 実二	徳890 鹿児島市谷山港2-4-3 鹿児島県軽自動車協会内	0992-61-4011
//	事務局長	湯 啓	"	"
//	トライアル委員長	今村 孝弘	徳892 鹿児島市南林寺町29-11 今村ホンダ内	0992-23-5525
//	スポーツ委員長	前田 真弘	徳890 鹿児島県国分市松木732 プロショップ前田	09954-5-5678

()は兼任

MFJ国内競技規則

1984年版

総則²⁰

付則1

ロードレース

- GPフォーミュラロードレース²⁷
- プロダクションフォーミュラロードレース³⁴
- プロダクションロードレース⁴²
- '84全日本選手権大会特別規則⁴⁷

付則2

モトクロス

- '84全日本選手権大会特別規則⁶⁷

付則3

トライアル

- '84全日本選手権大会特別規則⁷⁶

ミニバイク競技会指導要綱⁸⁴

付録

MFJ公認車輛・公認部品・承認部品・公認ヘルメット・歴代チャンピオン・全日本選手権ランキング基準・ライセンス昇降格規定・MFJ選手共済制度など

昭和59年1月1日発行

日本モーターサイクル協会

MFJ(エム・エフ・ジェイ) The Motorcycling Federation of Japan

〒104 東京都中央区銀座1-9-12 西山興業東銀座ビル Tel.03-561-8566

MFJ 国内競技規則 (総則)

本国内競技規則は、国際モーターサイクリスト連盟 (Fédération Internationale Motocycliste—略称FIM)の国際スポーツ憲章、FIM競技規則にもとづいて作成され、日本国内のモーターサイクルスポーツ

の国内規則の一部として発行する。

本国内競技規則は、総則と付則に大別され、競技種目によって内容に差異のある事項は付則に示される。



(1) MFJ国内競技規則について……………	21	(13) 車輛検査……………	24
(2) 公示、特別規則および公式通知……………	21	(14) ライダーおよび車輛の変更……………	24
(3) ライセンス……………	21	(15) 走行中の遵守事項……………	24
(4) 参加者およびライダー……………	22	(16) レース……………	25
(5) 出場申込み……………	22	(17) 優勝者、入賞者および完走者……………	25
(6) 出場料、保険料および選手共済費……………	23	(18) 入賞車の検査……………	25
(7) 配布物品……………	23	(19) レース結果および記録の公表……………	25
(8) 賞および得点……………	23	(20) レースの延期、中止および打ち切り……………	26
(9) 出場車輛……………	23	(21) 抗議……………	26
(10) 公道での走行禁止……………	24	(22) 損害の補償……………	26
(11) 器具および装備品……………	24	(23) 競技規則の違反行為に対する罰則……………	26
(12) 燃料およびオイル……………	24		

〔1〕 MFJ 国内競技規則について

MFJ 国内競技規則は、日本国内のモーターサイクルスポーツのための規則であり、国際モーターサイクリスト連盟 (Fédération Internationale Motocycliste — 略称 FIM) の国際スポーツ憲章、FIM 競技規則にもとづいたものである。

日本モーターサイクル協会 (略称 MFJ) は FIM の日本における代表機関として、モーターサイクルスポーツの国内管理、一般的モータリゼーションの普及、振興等の目的のために本国内競技規則を制定、施行する。

1. 適用の範囲

本国内競技規則は日本国内のすべてのモーターサイクルスポーツ国内競技会に適用され、各種目の共通事項は総則に、競技種目によって、内容に差異のある事項はそれぞれの付則に記載する。

2. 競技規則の解釈

競技会開催期間中の判定および競技規則全般の解釈は、本国内競技規則にもとづいて、競技会審査委員会 (以下大会審査委員会という) だけがおこない、大会審査委員会の判定および解釈を最終的なものとする。

〔2〕 公示, 特別規則および公式通知

1. 競技会

競技会は、この国内競技規則にもとづいておこなわれ、競技会の運営上、競技の細部の規則並びに指示は公示、特別規則、および公式通知によって示される。

2. 公示, 特別規則, および公式通知

公示, 特別規則, および公式通知は、競技会主催者 (以下主催者という) が発行する。

3. 特別規則

特別規則には次の各項が示される。

- 1) 競技会の名称
- 2) 主催者の名称, 所在地および連絡先
- 3) 開催日時
- 4) 開催場所 (コース)
- 5) 競技の内容と参加者, ライダーの資格
- 6) 出場申込み受付場所
- 7) 出場申込み期間
- 8) 出場料と保険料金

- 9) クラス区分
- 10) 出走者の定員
- 11) 賞およびその詳細
- 12) 運営組織
- 13) その他, 国内競技規則に定められた事項

4. 競技会の運営

競技会運営の細部にわたる規則, 指示等については公示, または特別規則に記載し得なかった事項は, 公式通知によって示される。

〔3〕 ライセンス

ライセンスとは国際モーターサイクリスト連盟の国際スポーツ憲章, FIM 競技規則に準拠して, MFJ が会員に対して発行する競技者認定証であり, 国内のモーターサイクル競技会に参加する必要な証書である。

1. ライセンス区分

ライセンスには下表のライセンス資格区分がある。

2. ライセンス新規取得者の資格

新たにライセンス取得申請をおこなう者は下記の条件をみたしていなければならない。

1) 日本にスポーツ国籍を有する者。

注: 日本国内に3カ月以上継続的に居住した外国人がその期間を証明できる書類を提出すれば, スポーツ国籍は日本にあるものとみなされる。ただし, 当人が所属する国の代表機関の書面による承諾を必要とする。

2) 運転免許証所持者。

3) 職業選手でないこと。また過去に職業選手として登録し, または登録されたことのある者は, 登録取消し後1年以上経過した者でなければならない。

注: 職業選手とは, 日本小型自動車振興会所管のレースのために登録された者, およびスタントカー, サーカス等に所属している者をいう。

4) ロードレース・ノービスライセンス取得申請の場合は, サーキットの3時間走行証明または MFJ 公認ロードレーシングスクール修了証を得ている者。

5) ロードレース B ライセンス取得申請の場合は, サーキットのライセンス講習会受講証明を得ている者。

3. ライセンスの停止

下記の場合, ライセンスは停止される。

- 1) 日本にスポーツ国籍がなくなった場合。
- 2) 運転免許証取消処分または停止処分を受けた場合。

■ ライセンスの資格区分

ライセンス 名称	種 目			ライセンス カラー	適 用
	ロードレース	モトクロス	トライアル		
国際 A 級	○	○	○	赤色	スポーツ専用車を含む競技を対象として種目別に発行される競技者認定証
国際 B 級	○	○	○	赤色	
ジュニア	—	—	○	赤色	
ノービス	○	○	○	赤色	
ピットクルー	○	○	—	水色	メカニック, ヘルパー, ピット・サインマン
B	対象種目=プロダクション・ロードレース, ミニモトクロス, ミニエンデューロ			赤色	一般市販車を含む競技を対象として発行される競技者認定証

(停止の場合はその期間満了の日まで)

- 3) 職業選手として登録された場合。
- 4) MFJの認めない競技会に出場した場合。
- 5) MFJ資格審査委員会の裁定により停止処分を受けた場合。(資格審査委員会の定める期間)

4. ライセンス資格の昇格および降格

1) 自動昇格

(1) ジュニア部門以上のライセンス有資格者の昇格はMFJ資格審査委員会の定める規定にもとづいて審査され、昇格される。

(2) ノービス部門以下のライセンス有資格者の昇格はMFJ地方スポーツ委員会の審査によって昇格される。

2) 特別昇格および降格

(1) ライセンス資格の昇格を希望し、MFJが定める期間内ライセンス昇格規定(94頁参照)に、規定にもとづき、地方スポーツ委員会の推薦によって申請した者で、MFJ資格審査委員会の審査によって昇格が認められた者が上級ライセンス有資格者となる。

(2) ライセンス資格の降格を希望し、MFJが定めた期間内ライセンス降格規定(95頁参照)に規定にもとづき、地方スポーツ委員会の推薦によって申請した者で、MFJ資格審査委員会の審査によって降格が認められた者は、特別にライセンス資格を降格することができる。

ただし、降格後MFJ資格審査委員会によって、そのスポーツ技術、能力が降格したライセンス資格にふさわしくないと判断された者は元のライセンス資格へ戻されるものとする。(94、95頁のライセンス昇・降格規定を参照のこと)。

[4] 参加者およびライダー

1. 参加者(エントラント)

- 1) MFJに所属していて、「参加の申請」をおこなった個人およびクラブ。
- 2) MFJに登録されている車輛メーカー、その部品関連産業メーカーおよびディーラーで、「参加者の申請」をおこなった者。

2. ライダー

ライダーとはMFJ会員で、当該競技会に「出場申込み」をおこなった者。

3. ライダーの資格

- 1) 当該競技会出場申込みのときに、日本にスポーツ国籍を有する者で、運転免許証およびMFJの競技者ライセンスを所有する者に限る。ただし、満20歳未満の者は親権者の承諾書を必要とする。
- 2) 主催者は競技会当日、運転免許証(または、自動車安全運転センター発行の運転記録証明書、高等学校発行の免許証保管書でも可)とMFJ競技者ライセンスおよび健康保険証の提示を求め、当日の資格を判定する。
- 3) ライダーは過去6ヵ月以内に重大な刑法上または道

路交通法違反によって処罰された者であってはならない。

- 4) ライダーは、医師によってレース出場可能な健康体であると診断された場合、レース出場資格者、もしくはレース継続資格者としてみとめられる。

主催者は、どのライダーに対しても、指定した医師による健康診断を要求することができる。またこの診断をもって最終とする。

- 5) 開催期間中、転倒事故等により負傷したライダーは指定医師の承認を得なければ再び出走することはできない。

4. メカニック(ピットクルー)

メカニックとは、16歳以上のMFJ会員でMFJピットクルーライセンスを所有し当該競技会に「参加の申請」をおこなった者とする。

5. ピットサインマンおよびヘルパー(ピットクルー)

ピットサインマンおよびヘルパーとは、16歳以上のMFJ会員でMFJピットクルーライセンスを所有しライダーまたはメカニックを援助する当該競技会に「参加の申請」をおこなった者。

6. 参加者、ライダー、メカニック、ピットサインマンおよびヘルパーの遵守事項

参加者(ライダー、ピットクルーを含む)は次の事項を守らなければならない。

- 1) 競技会中は、MFJ国内競技規則にしたがって行動し、参加者はすべての行動に対して責任を持たなければならない。
- 2) 国内競技規則および競技管理上のあらゆる規定や競技役員への指示にしたがい、かつレース場以外では交通法規を守らなければならない。
- 3) 常にスポーツマンとしての態度を保ち、野卑な言動は厳に慎まなければならない。
- 4) 競技に関する業務については、飲酒あるいは薬品によって精神状態をつくろってはならない。
- 5) 競技会中は参加の身分証を必ず携帯していなければならない。(ライセンス、運転免許証等)

[5] 出場申込み

1. 申込み方法

- 1) 申込み期間、申込み場所、その他の詳細については当該特別規則に示される。
- 2) 主催者より支給された用紙の記載事項のすべてに指示どおり記入し、この競技規則を厳守することを誓約しなければならない。
- 3) 主催者は、参加者、ライダー およびピットクルーのいずれに対しても、その理由を明らかにすることなく申込みを拒否、または無効とする権限を有する。

2. 定員

- 1) レース出走者数または出場申込み者数の定員は特別規則に示される。
- 2) 出場申込み者数が10名に満たない場合は、そのクラスのレースを中止することがある。

3. 出場車輛の登録

出場申込み者は、「出場申込み書」により競技会に使用する出場車輛（以下車輛という）を主催者に登録しなければならない。

〔6〕 出場料、保険料および選手共済費

1. 出場料

参加者またはライダーは、出場申込みのときに出場料を（金額は特別規則に明示）払込まなければならない。

2. MFJ選手共済費および保険料

各ライダーは、出場申込みのときにMFJ選手共済費および指定保険料の実費を主催者に払込まなければならない。選手共済費、保険料の内容の詳細は特別規則に示される。（96頁参照）

3. 出場料等の払戻し

いったん、主催者に受理された出場料等は払戻しされない。

〔7〕 配布物品

参加賞および配布物品は主催者（大会事務局）から交付される。時期および詳細は特別規則に示される。

〔8〕 賞および得点

1. 賞

賞およびその詳細は特別規則に示される。

2. 競技会において与えられる得点は次のとおりである。

順位	得点	順位	得点	順位	得点
1位	20点	6位	10点	11位	5点
2位	17点	7位	9点	12位	4点
3位	15点	8位	8点	13位	3点
4位	13点	9位	7点	14位	2点
5位	11点	10位	6点	15位	1点

3. 出走台数による賞および得点

出走台数が30台に満たない場合、次のとおり賞および得点を制限する。ただし賞は原則として6位までとする。（出走台数12台以上の場合）

出走台数	得点	出走台数	得点
30台以上	15位迄	16台～17台	8位迄
28台～29台	14位迄	14台～15台	7位迄
26台～27台	13位迄	12台～13台	6位迄
24台～25台	12位迄	10台～11台	5位迄
22台～23台	11位迄	8台～9台	4位迄
20台～21台	10位迄	6台～7台	3位迄
18台～19台	9位迄	5台	2位迄

⑤：出走台数とは、そのクラスの決勝レースのスタートラインに並んだ台数をいう。ただし予選がある場合は、その総台数をいう。

〔9〕 出場車輛

1. クラスの区分

車輛は排気量によって原則として次のようにわけられ、付則に示される。

1) ロードレース

クラス	最小排気量	最大排気量
50cc	—	50cc
80cc	51cc～	80cc
125cc	81cc～	125cc
250cc	126cc～	250cc
350cc	251cc～	350cc
500cc	351cc～	500cc
750cc	501cc～	750cc

2) フォーミュラ・ロードレース

クラス	2サイクル		4サイクル	
	最小排気量	最大排気量	最小排気量	最大排気量
フォーミュラ1	351cc	500cc	601cc	750cc
フォーミュラ2	251cc	350cc	401cc	600cc
フォーミュラ3	126cc	250cc	251cc	400cc
フォーミュラ4	51cc	125cc	51cc	250cc

3) プロダクション・ロードレース

クラス	最小排気量	最大排気量
125ccクラス	81cc～	125cc
250ccクラス	126cc～	250cc

4) モトクロス

クラス	最小総排気量	最大総排気量
50cc	—	50cc
80cc	51cc～	80cc
125cc	100cc～	125cc
250cc	175cc～	250cc
500cc	350cc～	500cc

5) トライアル

排気量によるクラス区分は設けない。

2. 総排気量の算出基準

総排気量は下記の計算式により算出する。ただしシリンダー内径・ピストン行程(m/m)は小数点以下1位まで四捨五入し、小数点以下を切り捨てて表示する。この際内径はクランク軸方向とその直角方向を測定し平均する。

$$\text{総排気量(cc)} = 0.7854 \times \text{内径}^2 \times \text{行程} \times 10^{-3} \times \text{気筒数}$$

3. 仕様

車輛は付則に示す「改造の限度」と「仕様」に合致し、かつ特別規則の条件をみだし、安全上完全に整備されているものでなければならない。

4. 危険な車

車検長または大会審査委員会より危険であると判断された車輛は、理由のいかんを問わずレースに使用することはできない。

〔10〕 公道での走行禁止

1. 公道の走行禁止

主催者に登録された、またはそれに近い構造の車によって一般公道を走行することはいっさい禁止する。

2. 走行禁止の例外

主催者に登録された車輛であっても、車輛保安基準に適合した安全な車はその限りではない。

3. レース用車輛

車輛保安基準に適合した安全な車でも、レース・ナンバープレートを着用して一般公道を走行することはいっさい禁止する。

〔11〕 器具および装備品

1. レースナンバープレート

1) ナンバープレートの大きさ

ナンバープレートの大きさは、付則に示される。

2) 取り付け方法

(1) 付則に示される枚数のナンバープレートはライダー等によりかくれることなく、明瞭に見えるように取り付けなければならない。

(2) 取り付けは安全な方法により確実に装着されなければならない。ハリガネなど安易な方法にたよってはならない。

2. ヘルメット

1) ライダーは予選、レース中を問わず、走行中は必ずヘルメットを着用しなければならない。

2) ヘルメットは付則に定められた性能を有するもので主催者の検査に合格したものでなければならない。

⑨：MFJの公認したヘルメットには認証マークが貼付されている。

3. ライダーの服装

1) ライダーの服装は競技中ライダーの身体の安全を確保し、操縦技術を妨げるものであってはならない。

2) ライダーは指示されたゼッケンは必ず着用しなければならない。ただし、ナンバー固定者でライダースーツの上着にゼッケンを縫い込んだものは認可される。

3) その他、付則による。

〔12〕 燃料およびオイル

1. 燃料

レースに使用する燃料は、一般市販ガソリンでなければならない。また主催者が指定しレース場内にて供給する場合、ガソリンの銘柄およびその他の詳細は特別規則に示される。

2. オイル

オイルの銘柄は指定しない。

3. その他の規定

1) ガソリンおよびオイルには、オクタン価や燃料効率を高めるような添加剤あるいは起爆剤を加えてはならない。

2) ガソリンにオイルを混合する必要があるときは、安

全を確認して作業しなければならない。また主催者より作業場所の指定がある場合は必ずその指示にしたがわなければならない。

〔13〕 車輛検査

1. 車輛検査

1) 車輛は、競技規則にもとづいた車輛検査を受けなければならない。車輛検査の時刻、および場所は特別規則に示される。

2) 車輛は、レース直前に車輛検査を受けたままの状態に保たれているかどうかのチェックを受けなければならない。チェックの時刻およびチェック場所は大会公示に示される。

2. 使用部品の登録（車輛改造申告書）

ライダーは、車輛検査時に大会事務局より支給された車輛改造申告書をもって、使用する車輛、部品等の銘柄、型式の登録をしなければならない。

〔14〕 ライダーおよび車輛の変更

1. ライダーの変更

ライダーの変更は認められない。

ただし、耐久レースの場合はこの限りではない。

2. 車輛の変更

出場登録した車輛の変更は許されない。

1) ただし、破損など止むを得ず出場登録済の車輛を変更する必要が生じた場合は、規定の書式にしたがって車輛の変更申請をおこない、競技総監督がこれを認めた場合に限り車輛の変更が認められる。

2) 紛争に際して、銘柄についての立証の責任は参加者側にあるものとする。

3) その他、特別規則に示される。

3. ライダーと車輛

ライダーと車輛の双方を変更することはできない。

〔15〕 走行中の遵守事項

1) 走行中、必要以外にハンドルから手を離したり、足をフットレストから離したり、外につき出したりするような危険な姿勢をとってはならない。

2) 走行中、故意に他のライダーの走行を妨害するような走りかたをしてはならない。

3) 走行中、車輛はそれ自身が持つ動力、およびライダーの筋力、または重力などの自然現象以外の方法で、走ったり、加速したりしてはならない。

4) 走行中、他の人の援助を一切受けてはならない。他の人による援助とは、そのレースに参加しているライダー、きめられた位置についている担当のメカニックおよび業務執行中の役員以外の人が車輛に触れることをいう。

5) 走行中、車輛にいかなる他人も同乗させてはならない。

6) ライダーはレース中、酒気をおびたり、または医薬品等（興奮剤、麻薬等）により故意に精神状態をつく

ろってはならない。

[16] レース

1. 予 選

出場者数が多い場合等は、予選またはタイムトライアルによって決勝レース出場者を決定することがある。その詳細については付則および特別規則に示される。

2. スタート

付則、および特別規則に示される。

3. 合図旗および合図 (12頁参照)

1) レース中、大会役員が次の合図用旗を示した場合、各ライダーはただちにそれに従わなければならない。

- (1) シグナル緑または国旗…スタート
- (2) 赤 旗……全ライダーの走行停止
- (3) 黄 旗

① 静止……危険予告

② 振る……コース上に重大な危険あり、徐行、安全確認、追越し禁止

注：重大な危険とは、コース上に事故車輛またはライダーの存在および役員等による事故等の処理作業中のため、コースの全面または部分的閉鎖を意味する。

- (4) 緑 旗……先に示された合図の解除
- (5) 3本の黄色縦縞のある赤旗…コース上オイルあり
- (6) 青 旗……追越し車あり、進路ゆずれ
- (7) 白旗または赤十字旗…コース上に救急車またはサービス車あり、またはコース上にて救急作業がおこなわれている。
- (8) ライダーのナンバーを付した黒旗…当該ライダー走行停止
- (9) 白と黒のイチマツ模様 (チェッカー・フラッグ) ……レース終了 (ゴールイン)

この合図用旗の使用は、役員にのみ許され、他のいかなる合図旗またはそれとまぎらわしいものの使用はいっさい認められない。

4. 停 止

- 1) レース中、コース内で停止する場合には、ライダーはただちに車輛をコースの脇によせ、他のライダーの走行の邪魔にならないよう十分に注意しなければならない。
- 2) レース中、車輛をコースの進行方向と逆方向に移動してはならない。ただし、大会役員の指示、監督のある場合はこの限りではない。
- 3) 事故、または車輛故障などの理由によってリタイア (中途退場) する場合は、その地点からもっとも近い大会役員 (コース審判) に報告し、用意してある用紙によってリタイア届けを提出しなければならない。
- 4) ライダーは、リタイア届けを提出した大会役員に車輛をあずけて退場しなければならない。
- 5) ライダーは停止車輛をそのレースが終了するまで大会役員の管理下におかななければならない。

ただし、そのレースに支障のない地点まで車輛を移動させることをコース審判 (大会役員) から指示された場合にはこれに従わなければならない。

5. レースの終了

レースの終了は、チェッカー・フラッグによりトップ走者がゴールしたのち付則および特別規則に示す時間を経過した時点である。

[17] 優勝者、入賞者および完走者

付則に示す。

[18] 入賞車の検査

レース終了後、各クラスの1位から6位までの車輛は暫定結果発表後30分以上保管され、必要に応じて検査される。

[19] レース結果および記録の公表

- 1) 大会審査委員会はレース終了直後、暫定結果の公表をおこなう。
- 2) レース正式結果は、レース終了後3時間以内に、大会審査委員会から公表される。



あたりのざわめきが急激に静まって緊張の瞬間が訪れる。スタートは間近だ。

- 3) 参加者、ライダーは公表されたレース正式結果に対して抗議することはできない。

[20] レースの延期、中止および打ち切り

- 1) レースは特別な理由のない限り、打ち切ったり、中止したりされない。
- 2) 大会審査委員会が、特別な理由によってレースのいずれかを延期、または放棄しなければならないと判断したときに限り、レースを延期または中止することができる。
- 3) すべての関係者は大会審査委員会の決定にしたがわなければならない。
- 4) 特にやむを得ぬ理由によって、トップ走者がそのレースにきめられた周回数、または時間の3分の2を完走しないうちにレースを打ち切った場合は、そのレースは無効となる。
- 5) トップ走者が決められた周回数または時間の3分の2以上を完走した場合でレースを打ち切った時は、大会審査委員会はそのレースの判定結果に条件を付して発表する。
- 6) レースまたは大会が中止された場合、参加者が支払った出場料は返還されるが、他のいっさいの損害賠償を主催者に請求することはできない。
- 7) 大会審査委員会が下した裁定に対してはいっさい抗議することはできない。

[21] 抗議

- 1) 参加者、ライダーおよびメカニックのみが抗議申し立てができる。
- 2) 抗議しようとするときは、定められた手続によって大会事務局に申し入れをしなければならない。
抗議手続は、大会事務局に備え付けの抗議申し立て書に記載し、1項目につき、抗議保証金10,000円をそえて大会事務局に提出しなければならない。
- 3) 暫定結果に対する抗議は発表後30分以内に限り受付られる。
- 4) 正式の手続きをふんで提出された抗議申し立て書だけが受付られ、大会審査委員会において審議される。
- 5) 大会審査委員会は、証人を必要と認めた場合は証人をたて、その証言を求め、十分に実情を調査したうえで裁定をくだすものとする。
- 6) 大会審査委員会が下した裁定に対してはいっさい抗議することはできない。
- 7) 抗議保証金 抗議が成立した場合のみ返還される。

[22] 損害の補償

1. 車輛の破損

- 1) 車輛およびその附属品等が破損した場合、その責任は参加者が負わなければならない。ただし、車輛が車検長または大会審査委員会によって保管されている期間をのぞく。
- 2) 車検長または大会審査委員会は、車輛を保管してい



歓声がスタンドにこだまして栄光のゴールノ 闘いは終わった。
る期間中に、これらの車輛がなんらかの理由によって破損した場合には、一台当たり10万円を最高限度額としてその所有者に補償する。

2. 損傷の責任

競技会開催期間中、またはその前後に起された損傷は自らが責任を負うものとする。

3. 大会役員の責任

ライダーおよびメカニック等の参加者は、大会役員がいっさいの損害補償の責任を免ぜられていることを知っていなければならない。すなわち大会役員はその職務に最善を尽すが、仮りに大会役員の行為によって起きた参加者、ライダー、メカニックおよび車輛等の損傷に対しても、大会役員はいっさいの責任のないことをいう。

[23] 競技規則の違反行為に対する罰則

大会中(競技会)における違反行為に対しては、その軽重によって大会審査委員会ならびに競技総監督の権限で下記の罰則を課すことができる。

- 1) 注意処分(口頭による注意または注意処分通告書)
- 2) 嚴重戒告(戒告通知を受けたものは始末書提出)
- 3) 罰金(1万円以上5万円以下)
- 4) 競技結果に対する1分以内の加算
- 5) 競技結果に対する1分以上の加算または1周以上の減算
- 6) 失格

違反の判定は、競技総監督の判断を優先するが、罰則の裁量や適用は、大会審査委員会の決定を優先するものとする。

罰則は、大会審査委員会の報告にもとづき、MFJ資格審査委員会によってさらに事後の出場停止、資格停止にまでおよびかどうか、審査、裁定され、30日以内に通告される。

ROAD RACE GP FORMULA

●ロードレース



●GPフォーミュラ

- (1) 適用の範囲……………⑦
- (2) ロードレース……………⑦
- (3) レース出場車輛……………⑦
- (4) ライダーの装備……………⑧
- (5) 公式予選(オフィシャル・プラクティス)……⑧
- (6) レース……………⑧
- (7) 優勝者、入賞者順位、完走者および得点……⑧

〔1〕 適用の範囲

以下に記す規則は、総則と共にすべてのロードレース競技会に適用される。

〔2〕 ロードレース

ロードレースとは、舗装され、完全にクロズドされたサーキットでおこなわれるレースであり、規則およびこの付則により管理される。

〔3〕 レース出場車輛

出場車輛(以下車輛という)は、下記の改造の限度と仕様をみたし、安全上完全に整備されているものでなければならない。なお、改造されて型式(モデル)が判明できないような車輛は出場することができない。

1. 車輛の排気量区分

車輛のクラス区分は原則として次のように分けられ、開催種目および運用は特別規則に示される。

クラス	最小排気量	最大排気量
50 cc	—	50 cc
80 cc	51 cc～	80 cc
125 cc	81 cc～	125 cc
250 cc	126 cc～	250 cc
350 cc	251 cc～	350 cc
500 cc	351 cc～	500 cc
750 cc	501 cc～	750 cc

2. 車輛の改造限度(GPフォーミュラ)

競技の公平および安全性に関連して次のような改造制限を定める。

国際A級

(1) 車輛の銘柄、形式は制限されない。

車両区分

クラス	排気量区分	最大気筒数	最大ミッション	最大タンク容量
125 cc	81cc～125cc	2 気筒	6 段	32 ℓ
250 cc	126cc～250cc	2 気筒	6 段	32 ℓ
500 cc	351cc～500cc	4 気筒	6 段	32 ℓ

(2) 半乾燥重量は下記の最低重量をみたしていなければならない。

半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車輛重量をいう。ただし、分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

クラス	最低重量
125 cc (単気筒)	70 kg
125 cc (2 気筒)	75 kg
250 cc	90 kg
350 cc	95 kg
500 cc	100 kg
750 cc	110 kg

なお、上記の最低重量をみたすために、ダミーウエイトを装備してはならない。

(3) 車輛が発生する騒音については、次の条件をみたすものとする。

ROAD RACE

① 車輻には、有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていなければならない。

② 騒音はFIM方式による測定方法で、4ストローク車の場合=110+5db(A)、2ストローク車の場合=110db(A)以下でなければならない。

FIM方式とは排気管後方0.5m、45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4ストロークの場合11m/s、2ストロークの場合13m/sでエンジンが回転しているときの騒音を測定する方法をいう。

(4) 下記の部品および構造にチタニウムを使用してはならない。

フレーム、フロントフォーク、フロントフォーク・ブラケット、スイングアーム、スイングアーム・スピンドル、ハンドルバー、ホイールスピンドル、ステアリングシャフト。

(5) 過給は認められない。

国際B級

車輻は一般生産型モーターサイクルで、MFJ公認車輻またはFIMフォーミュラ・レース用公認車輻またはMFJプロダクションフォーミュラの公認車輻でなければならない。

改造をおこなう場合は、下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

(1) 下記の諸点について車輻は公認仕様と異なっていない。

ただし、公認車輻の部品および公認部品の組合わせはこの限りではない。

① エンジン型式

気筒数、ピストンストローク

② シリンダーのポアアップは公認された車輻の排気量区分をオーバーしてはならない。

③ 4ストロークの場合のシリンダーパレルの鋳造および材質

④ 2ストロークの場合のシリンダーパレルの鋳造および材質とポート数

⑤ シリンダーヘッドの鋳造および材質

⑥ クランクケースの鋳造および材質

⑦ 変速機ケースの鋳造および材質

⑧ 一次減速方式

⑨ 変速機のギヤ段数

⑩ 吸気および排気方式

⑪ 気化器(キャブレター)方式

(2) 燃料タンク容量は最少限6ℓ、最大限32ℓとする。

(3) 半乾燥重量は、次の最低重量をみたしていなければならない。

半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車輻重量をいう。ただし、分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

なお、上記の最低重量をみたすために、ダミーウエイトを装着してはならない。

クラス	最低重量
125cc (単気筒)	70kg
125cc (2気筒)	75kg
250cc	90kg
350cc	95kg
500cc	100kg
750cc	110kg

(4) 車輻が発生する騒音については下記の条件をみたすものとする。

① 車輻には、有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていなければならない。

② 騒音はFIM方式による測定方法で、4ストローク車の場合=110+5db(A)、2ストローク車の場合=110db(A)以下でなければならない。

FIM方式とは排気管後方0.5m、45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4ストロークの場合11m/s、2ストロークの場合13m/sでエンジンが回転しているときの騒音を測定する方法をいう。

(5) 下記の部品および構造にチタニウムを使用してはならない。

フレーム、フロントフォーク、フロントフォーク・ブラケット、スイングアーム、スイングアーム・スピンドル、ハンドルバー、ホイールスピンドル、ステアリングシャフト。

(6) 過給は認められない。

ノービス

車輻は一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。その銘柄、型式の詳細は公示される。

機械加工または仕上げによる修正、調整、軽量化もしくは形状の変更をおこなう場合は、下記各項に限定されている事項を遵守しなければならない。

(1) 機械的伸長、他の物質の添加または分子構造や金属面に変更をもたらすような処理(焼き入れ等)および材質の変更をしてはならない。

(2) フレームの基本骨格は車輻公認時のものでなければならない。

ただし、250cc以下の車輻はこの限りではない。

なお、補強等はおこなってもよい。

(3) 異なった機種エンジンとフレームの組合せをしてはならない。

ただし、250cc以下の車輻はこの限りではない。

(4) クランクケース本体やクランクシャフト・アッセンブリーは公認型式のものでなければならない。

① クランクウェブのバランス穴の充填は認められる

② ユニット・コンストラクション(単体構造エンジン)の場合のクランクケース本体とは変速機部分も含まれる。

(5) 変速機のギヤ段数は6段を限度とする。

ただし、変速ギアはクランクケースおよび変速機ケース外に増設してはならない。

- (6) 冷却方式の変更は公認されたものでなければならない。
- (7) 弁形式を変更してはならない。
- (8) 燃料吸入方式を変更（フェューエルインジェクターの取りつけ等）してはならない。
- (9) 気化器は車輛公認申請時の型式のものを使用しなければならない。
- (10) 半乾燥重量は下記の最低重量をみたしていなければならない。

- ① 半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車輛重量をいう。ただし、分離給油方式の場合のエンジン潤滑オイルは燃料とみなす。
- ② 車輛最低重量は次の通りである。

クラス	最低重量
80cc (単気筒)	65kg
125cc (単気筒)	70kg
125cc (2気筒以上)	75kg
250cc	90kg

- ③ 車輛が最低重量より軽い場合には、ダミーウエイトを取付けなければならない。ただし、ダミーウエイトは5kgを越えてはならない。
- ④ ダミーウエイトは、ボルトまたは溶接によりフレームに完全に固着したもので、転倒などの際に危険でないものとし、車輛検査において封印を受けなければならない。

- (11) 車輛が発生する騒音については下記の条件をみたすものとする。

- ① 車輛は有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていなければならない。
- ② 騒音はFIM方式による測定方法で、4ストローク車の場合=110+5db(A)、2ストローク車の場合=110db(A)以下でなければならない。
- ③ FIM方式とは排気管後方0.5m、45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均のスピードを4ストロークの場合11m/s、2ストロークの場合13m/sでエンジンが回転しているときの騒音を測定する方法をいう。

- (12) 構成部品

- ① 下記の部品はMFJが公認したものでなければならない。(MFJ公認部品)
シリンダー、シリンダーヘッド、変速機、フロント・クッション、リア・クッション
- ② チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

- (13) 過給は認められない。

3. 仕様

車輛は、安全のために次の各項のすべてをみたしていなければならない。

1) ブレーキ

車輛は前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを備えなければならない。

2) リムとタイヤ

車輛は下記に示す呼称寸法以上のリムおよびタイヤを装着しなければならない。

■前輪

クラス	リム		タイヤ	
	最小寸法		最小寸法	
	インチ		インチ	
50cc			2.00	
80cc				
125cc	1.60		2.50	
250cc	1.85		2.50	
350cc	1.85		2.75	
500cc	2.15		3.00	
1000cc	2.15		3.25	

■後輪

クラス	リム		タイヤ	
	最小寸法		最小寸法	
	インチ		インチ	
50cc			2.00	
80cc				
125cc	1.60		2.50	
250cc	1.85		2.75	
350cc	2.15		3.00	
500cc	2.50		3.25	
1000cc	2.50		3.50	

注：タイヤはすべてワイヤ入りリードでなければならない。

3) ハンドルバー

- (1) ハンドルの端から端までの幅は450mm以上でなければならない。

ただし、50ccクラス以下に限り400mm以上であればよい。

- (2) 中心線または中央位置の両側に対するハンドルの回転角度は20度以上でなければならない。

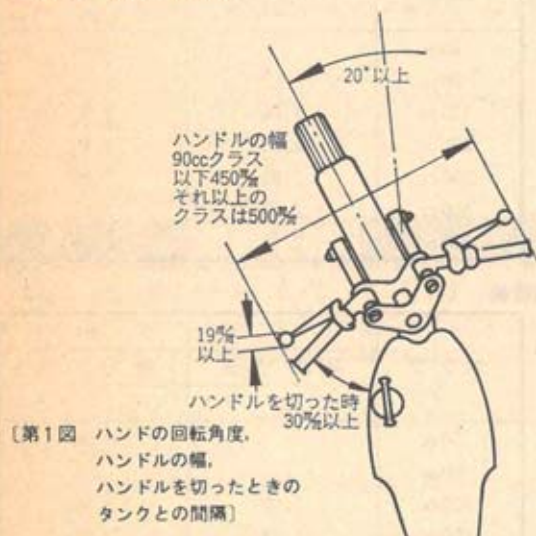


固い決意を示す鋭い眼光。きょうの走りの成果はいかに。

ROAD RACE

4) ハンドルバーのクリアランス

- (1) ハンドルバーのいかなる位置においても、またいかなるその付属品をも含めて、ハンドルバーの先端部と流線形覆い（カウリング）とのクリアランスは50mm以上でなければならない。
- (2) ハンドルの回転角度を左右いっばいに切ったときライダーの指をささないように、ハンドルバーと燃料タンクとの間に最低30mmの間隔を確保するために、止め具か他の装置を必ず取り付けなければならない。（第1図参照）



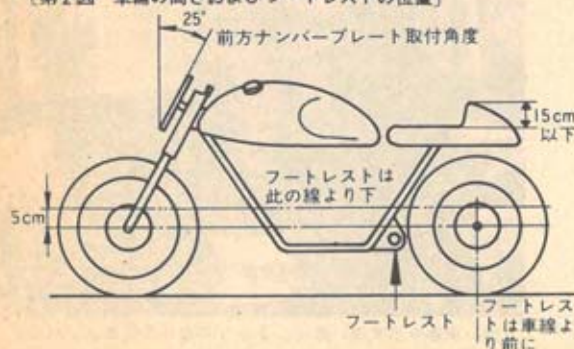
5) クラッチおよびブレーキレバー

ハンドルに取りつけられるクラッチレバーおよびブレーキレバーは、その末端が球状に作られ、その球（レバーエンドボール）は直径19mm以上で容易に取れたり外れたりするものであってはならない。

6) フートレストおよびペダル

- (1) フートレストは、前後車輪の中心を通る線の50mm上方より下側に、そして後輪の中心を通る垂線の前側になるように取り付けられ、どのコントロール・ペダルも容易に操作できる位置になければならない。
- (2) フートレストおよびペダル類の先端の角は安全上

〔第2図 車輻の高さおよびフートレストの位置〕



丸められていなければならない。

7) 車輻の高さ

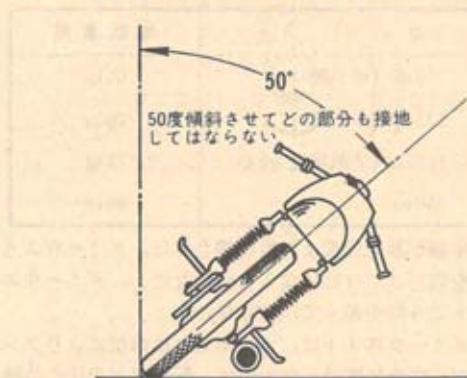
シートの後方の部分が150mm以上の高さであってはならない。（第2図参照）

8) 排気管

排気はすべて側方に開口のない管により、車輻の後方に排出されなければならない。その排気管は車輻の進行方向になるべく平行でなければならない。また排気管は後輪最後端垂線より突出してはならず、排気がほこりを立てるように排出されたり、後続のライダーに迷惑を与えるように排出されてはならない。

9) 車輻の傾斜角

車輻の傾斜角は無負荷で、タイヤを除きどの部分も接地することなく垂線に対して50°傾斜させることが可能でなければならない。（第3図参照）



〔第3図 車輻の傾斜角度〕

10) フェンダー（泥よけ）

フェンダーは、前後とも取りのぞいてもかまわない。ただし取りつける場合は第4図に示すとおり確実に装備しなければならない。

11) 取りはずさなければならないもの

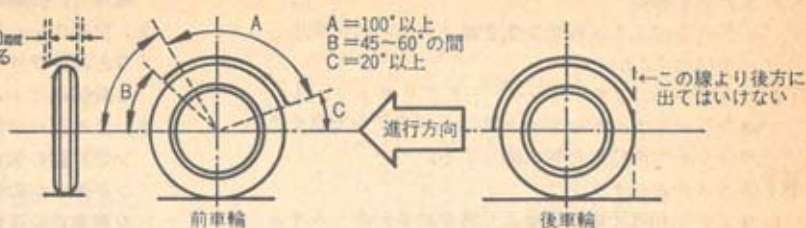
ライト類、バックミラー、スタンド類、荷合、チェーンケース、およびキックアームは取りはずさなければならない。

12) カウリング

カウリングを使用する場合は次の条件をそなえたものでなければならない。〔第5図参照〕

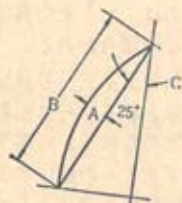
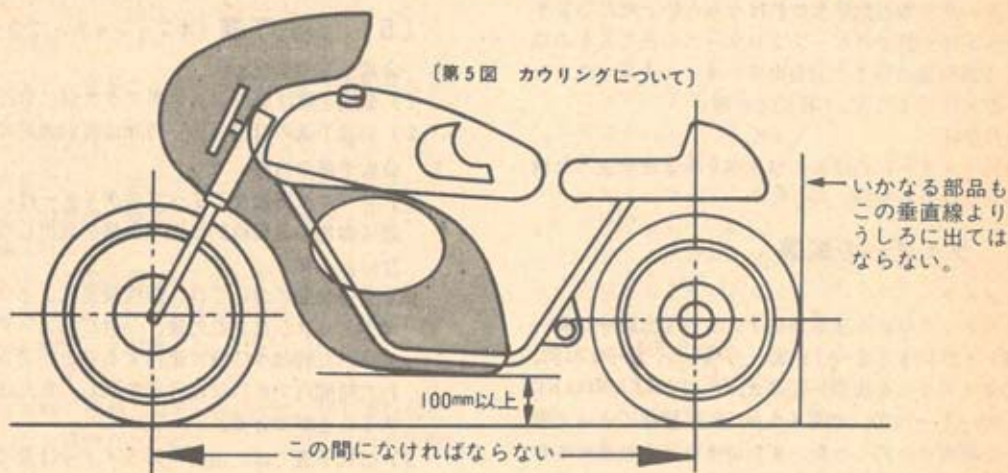
- (1) タイヤを除く前輪は両側に明瞭に見えなければならない。
- (2) 前後輪の車輪を通る垂線の間になければならない
- (3) カウリングの下端と地面との間隔は100mm以上でなければならない。
- (4) ライダーが普通に乗車した状態でライダーの両前腕部以外は上方、後方、両側面から見えなければならない。
- (5) 上記の適用を避けるために透明な物質を使用することはできない。
- (6) カウリングの前端部の形状は第6図に示す範囲でなければならない。

泥ヨケの幅
タイヤの幅より10mm
以上囲まれている



〔第4図 フェンダーの規正(角度)〕

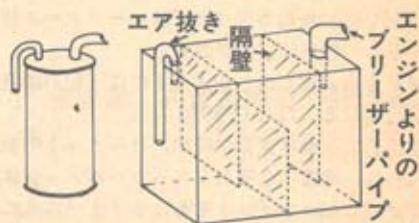
〔第5図 カウリングについて〕



〔第6図 カウリングおよび
その前面の丸みと傾斜角度〕



〔第7図 ナンバープレートの大きさ〕



〔第8図 オイルキャッチタンク〕

13) レースナンバープレート

(1) ナンバープレートの大きさ

ナンバープレートは、車輪の前面に取りつけるものは左右285mm以上、上下235mm以上の大きさの楕円形のもので、第7図左に示されているものでなければならず、車輪の左右に取りつけるのは、第7図右に示されてあるように左右300mm以上、上下250mmの方形のものでなければならない。

(2) 取り付け方法

ナンバープレートは1枚は車輪の前面に、前向きに、垂直から25度以内の角度をつけて取り付け(大きさは第7図の限りではない)、車輪の両側面にも各

1枚垂直方向に取りつけなければならない。

(3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通りである。

ノービス部門=白地に黒文字

国際B級部門=緑地に白文字

国際A級部門=赤地に白文字

(4) ナンバーの字体および寸法

ナンバーの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。角ばった字体や斜体であってはならない。

ナンバーの文字寸法は、高さ200mm、幅は25mmとする。誤読されないよう書体には注意。

14) 後輪の可視範囲

後輪のリムは後輪の垂直線の後部円周180度にわたって明瞭に見えなければならない。

15) 部品の最後端

いかなる部品も後輪最後端垂線よりうしろに突出してはならない。

16) ワイヤロック

エンジンのドレーンボルト類は必ずドリルで穴をあけワイヤで所定の位置に固定する。

17) オイルキャッチタンク

全ての車輛はその排気量より容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けなければならない。ただし2サイクル車はクランクケースよりホースの出てるもののみその排気量の5%より容量の多いオイルキャッチタンクを取りつけること。(第8図参照)

18) 危険防止

他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような構造をしてはならない。

〔4〕 ライダーの装備

1. ヘルメット

1) ヘルメットは日本工業規格 J I S—T8133—1982—C種および同 J I S—T8133—2種(J I S—T8133, 1982年8月までの規格) USA, S. I. STANDARD—Z90—1—1970, 米国スネル1980年規格によって示された検査に合格したか、またはそれ以上の性能を有するフルフェイス型のものでMFJが公認したものでなければならない。

2) 米国スネル規格1980のフルフェイス型のもので、MFJが公認したのものについてはロードレース用ヘルメットとして特別に推薦される。

3) MFJの公認したヘルメットには下記の認証マークが貼付される。(107頁参照)

4) 競技会の車輛検査受付時に、ヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでも、ライダー本人の安全上使用を禁止する。

5) MFJの公認認証マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料(1,000円)を支払い、新規に検査を受けなければならない。



ヘルメットには特別推薦を示すホワイト地、またはゴールド地の認証マークがついてなければならない。

2. ゴoggles

ゴogglesにはガラスが使用されてはならず、また枠は柔軟なものでなければならない。

3. ライダーの服装

1) ライダーの服装は、競技中ライダーの身体の安全を

確保し、操縦を妨げるものであってはならない。

2) 皮製のレーシングスーツ、皮製の手袋およびブーツなどは、フックなどが外部に突出していないライダーの身体にピッタリしたものでなければならない。

3) ライダーは競技会中、合成繊維(ナイロン、テロン等)製の肌着を着用してはならない。皮製のレーシングスーツの裏地は、耐熱および耐火処理をほどこした難燃性の布製のものでなければならない。

〔5〕 公式予選 (オフィシャル・プラクティス)

1. 公式予選の日程

1) 公式予選は原則として各クラス別におこなわれる。
2) 公式予選の日程および時間は特別規則に示される。

2. 公式予選の内容

1) レースに出場するすべてのライダーは、必ず公式予選に参加し、最終的に出場資格を取得しなければならない。

2) 公式予選においては、競技役員による車輛の安全上のチェックがなされた後、一台ごとにスタートし、与えられた時間を任意に走行することができる。与えられた時間内であれば走行を中断し、または再スタートすることができる。

3) 公式予選では、走行中のライダーは常にラップタイムが測定されている。この測定で、ベスト・ラップタイムがはなはだしくおとるものは、たとえ定員以内であっても出場資格を与えられない場合がある。

4) 公式予選において測定された各ライダーの最高ラップタイムにより、特別規則に示されるレース出場台数を限度としてスタート位置が定められる。最高ラップタイムが同じ場合は次のラップタイムの順位による。

5) 各クラスの公式予選義務周回数は3周以上とする。なお、最初の1ラップ目は計測されないが、周回数には算定される。

6) 2種目以上に出場するライダーは、出場全種目の公式予選に出場しなければならない。

〔6〕 レース

1. スタート位置

1) 各クラスともレースのスタート位置は、各ライダーに与えられている車番とは関係なく最高ラップタイムによって決定される。

2) レースにおけるスタート位置の発表は、公式予選の終了後、審査委員会がおこなう。

2. チーム

チーム参加の場合のチーム編成、チーム競技の成立等は特別規則に示す。

3. スタートまでの行動

1) スタートまでの行動は原則として次の時間割による
スタート 約60分前 給油およびレース前車輛チェック開始、終了後ただちに待機区域に入る。待機区域コースへ誘導。

スタート 15分前 ウォーミングアップ開始

- // 5分前 スタート位置整列
- // 3分前 エンジン停止
- // 2分前 表示 メカニック離れる
- // 1分前 表示
- // 30秒前 表示
- // 10秒前 表示

スタート 青色シグナルまたは国旗にて表示

2) 決められた時間以外にエンジンを始動させてはならない。

4. スタート

1) スタートは、原則として、押しがけによる同時スタートとする。

2) スタート位置は、すべて正規のスタートラインからなされたものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップはいっさい考慮されない。

3) スタートの合図は原則としてシグナル・ランプによっておこなわれる。ただし特別の理由により旗によっておこなわれることがある。

5. ピット

ピットとは車輛の修理、調整、部品交換、燃料補給などの作業をおこなう目的のためにライダーに与えられた区域のことである。

6. ピットイン

1) ピットインする時は、ピット前のコース上に区画された減速地帯、即ちイエローラインとホワイトラインの間を減速走行し、停車については他の車輛が走行できる通行余地を残して停車し、必ずエンジンを停止しなければならない。

2) 審判員の指示または危険回避以外の目的でイエローラインをカットして走ってはならない。

3) 自分のピットを通り越し、なおピットインする場合はエンジンを停止し、その後、ピット競技役員承認を得た上で戻すことができる。

7. ピットアウト

ピットアウトは、必ず競技役員承認を確認し、車輛を自力で押しがけてスタートさせなければならない。また減速地帯を走行し、コースに入るが、コース走行はコースの内側を走行しながら次のコーナーを通過しなければならない。

8. ピット作業

1) レース中における車輛の修理、調整、部品交換は、ピットに準備してある部品と工具によっておこない。必ずエンジンは停止しておこななければならない。

2) ピットに準備してある部品、工具による作業は、正規にピットインした車輛に対してのみおこなうことができる。

3) エンジンアッセンブリーおよびフレームアッセンブリーを交換してはならない。また当該アッセンブリーをピットに持ち込んではいならない。

4) ピット区画内にオイルをこぼしたり、汚したりした

場合は、ただちにきれいに掃除しておかなければならない。

9. ピット作業人員

1) ライダーはその車輛のメカニックを2名まで持つことができる。

2) レース中にピットインし、エンジンを停止した車輛に対しての作業は、2名のメカニックと、その車輛のライダーの計3名だけに限られる。

3) ライダーに対するピットクルー（メカニック、ピットサインマンおよびヘルパー）の合図は、大会競技役員の使用する合図用旗にまぎらわしいものであってはならず、また「ピット区画」のみで合図を送ることができる。

4) ピット作業をおこなう者はすべてピットクルーライセンス所持者で、大会に参加の申請がなされた者でなければならない。

5) ピットクルーは開催期間中を通じてどの大会役員の指示にもしたがわなければならない。

6) ピットクルーが守らなければならないことに違反した時は、そのピットクルーの担当のライダーが責任を問われ、ペナルティが課せられる。

10. レースの終了

各レースの終了は、チェッカーフラッグによりトップ走者がゴールしたのち特別規則に示す時間を経過した時(注)であり、チェッカーフラッグ・マーシャルが指定位置より退場したことにより示される。

注：原則的にコースの1周の距離を1kmにつき1分として定められる。

〔7〕 優勝者、入賞者順位、完走者および得点

1. 優勝者

優勝者は、規定の周回数を最短時間で完走したライダーである。

2. 入賞者および順位の優先順序

入賞者および入賞順位は、チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定され、同周回数の場合はゴールライン通過の順位による。

3. その他の優先順序

周回数の多い者を優先する。同周回数の場合はゴールラインの通過順位による。

4. 完走者

1) 各クラスのレースとも、優勝者の75%以上の周回数を完了したライダーが完走者である。

2) レース途中でリタイヤ届を提出したライダーも完走周回数を完了しているライダーは完走者とみなされる。

5. 得点

1) 得点は総則〔8〕の2および3（23頁参照）によって与えられる。

ROAD RACE PRODUCTION FORMULA

●ロードレース・プロダク



ション・フォーミュラ●

- (1) 適用の範囲……………③
- (2) ロードレースおよび耐久レース……………③
- (3) レース出場車輛……………③
- (4) ライダーの装備……………③
- (5) 公式予選(オフィシャル・プラクティス)……………③
- (6) レース……………③
- (7) 優勝者、入賞者順位、完走者および得点……………①

〔1〕 適用の範囲

以下に記す規則は、総則と共にすべてのロードレース競技会に適用される。

〔2〕 ロードレースおよび耐久レース

ロードレースとは、舗装され、完全にクローズドされたサーキットでおこなわれるレースであり、総則およびこの付則により管理される。

ただし耐久レースについては、本規則に定められたものの変更、または追加が特別規則によって示される。

〔3〕 レース出場車輛

出場車輛(以下車輛という)は、下記の改造の限度と仕様をみだし、安全上完全に整備されているものでなければならない。なお、改造されて型式(モデル)が判明できないような車輛は出場することができない。



ライダー、マシンともに万全であってのテールツノーズ。

1. 車輛の排気量区分

車輛のクラス区分は原則として次のように分けられ、開催種目および運用は特別規則に示される。

クラス	最小排気量		最大排気量	
	2サイクル	4サイクル	2サイクル	4サイクル
フォーミュラ1	351 cc	601 cc	500 cc	750 cc
フォーミュラ2	251 cc	401 cc	350 cc	600 cc
フォーミュラ3	126 cc	251 cc	250 cc	400 cc
フォーミュラ4	51 cc	176 cc	125 cc	250 cc

注: エンジン各クラスの上限を15%越える排気量のFIM公認車輛のものまで、ベース車輛として選択できるが、ボアダウンによって当該クラスのリミット内に排気量を下げなければならない。(ストロークダウンはできない)

国際A級・B級

2. 国際A・B級の車輛

フォーミュラ・モーターサイクルは、現在生産されているモーターサイクルで、一般ユーザーが容易に入手し得るものであり、下記の条件をみたしていなければならない。

- (1) フォーミュラ・ロードレース出場車輛(以下、車輛という)は、通常の販売ルートを通じて一般ユーザーに市販され、毎年3月1日以前に、その型式の車輛について1000台以上販売されたことがFIMによって審査、認可されたものでなければならない。FIMへの審査申請はFIM加盟代表機関(日本ではMFJ)によってFIMに申請される。また生産台数の証明は文書によっておこなわれる。

- 1) エンジンは市中のガソリンスタンドで得られる通常のタイプの燃料によって作動しなければならない。
- 2) その車輛の生産国が、協定の署名国でない場合であっても、車輛はすべての点において1949年ジュネーブ協定に適合していなければならない。
- 3) すべての車輛は正常に作動する完全な電気装置を備えていなければならない。追加の電気装置も認められる。
- 4) すべての車輛は、始動装置と正常作動の発電機を備えていなければならない。(最低出力100W)

3. 国際A・B級の改造の限度

- 1) すべての車輛は、総則および付則1に示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。
- 2) 下記のものについて、認可型式に変更を加えることは禁止される。
 - (1) エンジンの型式
 - (2) シリンダーの数
 - (3) ピストンストローク
 - (4) シリンダー、シリンダーヘッド、クランクケースおよび変速機ケースの材質および構造

3) 吸排気装置

- ① 4ストロークエンジンのバルブ数
 - ② 2ストロークエンジンのポート数
 - ③ キャブレターの数
- 4) 安全と騒音コントロールのために、排気管とマフラーの改造が認められる。
 - 5) 6速に限定されるギアの数はその範囲内で、ギアボックス・シェルに変更を加えない限り変えることができる。

6) 燃料タンク最大容量は下記に制限される。

- フォーミュラ1=24リッター
 フォーミュラ2=20リッター
 フォーミュラ3=18リッター
 フォーミュラ4=15リッター

7) 下記の制限内で改造をおこなうことができる。

- (1) シリンダーのキャスト(鋳造)を変更することなくボアを拡大することができる。ただし、この拡大が当該車輛本来の出場を認められるクラスの排気量の限度を超えないことを条件とする。
 - (2) 安全上の理由により、ヘッドライト、電装品、ホーン、ナンバープレート、スピードメーターおよび競技規則にうたわれているその他の部品を取り外すことが認められる。
- 8) 車輛には、有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていなければならない。
 - ① 騒音はFIM方式による測定方法で、4ストローク車の場合=110+5db(A)、2ストローク車の場合=110db(A)以下でなければならない。
 - ② FIM方式とは排気管後方0.5m、45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4ストロークの場合11m/s、2ストロークの場合

13m/sでエンジンが回転しているときの騒音を測定する方法をいう。

9) 下記の部品および構造にチタニウムを使用してはならない。

フレーム、フロントフォーク、フロントフォーク・ブラケット、スイングアーム、スイングアーム・スピンドル、ハンドルバー、ホイールスピンドル、ステアリングシャフト。

10) 耐久レースの場合のライト

- ① 夜間あるいは悪天候の時、競技総監督の指示においてフロントおよびリアのライトを点灯しなければならない。また、点灯の解除の指示があるまで点灯していなければならない。車輛のライトが点灯しない場合、その競技車輛はライト点灯の修理が完了するまでピットに停止していなければならない。
- ② ライトの電源は最低100Wの出力をもつエンジン駆動のジェネレーターで得なければならない。

③ ライトの型式

フロント=15W以上、レンズの直径100mm以上のものとする。赤色は除く。

リア=5W以上、反射板225cd以上の赤色のものとする。

11) 過給は2:1の比率で認められる。

ノービス

4. ノービス部門の車輛

車輛は市販レーサーを除く一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。

5. ノービス部門の改造の限度

1) 下記のものについて、認可型式に変更を加えることは禁止される。

- (1) エンジンの型式
- (2) シリンダーの数
- (3) ピストンストローク
- (4) シリンダー、シリンダーヘッド、クランクケースおよび変速機ケースの材質および構造
- (5) フレームの基本骨格は車輛公認時のものでなければならない。ただし補強はおこなってもよい。

2) 吸排気装置

- ① 4ストロークエンジンのバルブ数
- ② 2ストロークエンジンのポート数
- ③ キャブレターの数
- ④ キャブレターは車輛公認申請時のキャブレターを使用しなければならない。

3) 安全と騒音コントロールのために、排気管とマフラーの改造が認められる。

4) 6速に限定されるギアの数はその範囲内で、ギアボックス・シェルに変更を加えない限り変えることができる。

5) 燃料タンク最大容量は下記に制限される。

フォーミュラ3=18リッター

ROAD RACE

フォーミュラ4=15リッター

なお耐久レース以外のレースでは車輛公認時の燃料タンクがそのまま使用できる。

6) 下記の制限内で改造をおこなうことができる。

- (1) シリンダーのキャスティング(鋳造)を変更することなくボアを拡大することができる。ただし、この拡大が当該車輛本来の出場を認められるクラスの排気量の限度を超えないことを条件とする。
- (2) 安全上の理由により、ヘッドライト、電装品、ホーン、ナンバープレート、スピードメーターおよび競技規則にうたわれているその他の部品を取り外すことが認められる。

7) 車輛が発生する騒音については下記の条件をみたすものとする。

- ① 車輛は有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていないなければならない。
- ② 騒音はFIM方式による測定方法で、4ストローク車の場合=110+5db(A)、2ストローク車の場合=110db(A)以下でなければならない。
- ③ FIM方式とは排気管後方0.5m、45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストン平均スピードを4ストロークの場合11m/s、2ストロークの場合13m/sでエンジンを回転しているときの騒音を測定する方法をいう。

8) 構成部品

- ① 変速機はMFJが公認したものでなければならない。(MFJ公認部品)
- ② チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

9) 過給は認められない。

6. 仕様

車輛は安全のために下記各項のすべてをみたしていなければならない。

1) ブレーキ

車輛は前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを備えなければならない。



チームワークがモノをいう耐久レースでの燃料補給。

2) リムとタイヤ

車輛は下記に示す呼称寸法以上のリムおよびタイヤを装着しなければならない。

■前輪

クラス	リム	タイヤ
	最小寸法	最小寸法
	インチ	インチ
50cc		2.00
80cc		
125cc	1.60	2.50
250cc	1.85	2.50
350cc	1.85	2.75
500cc	2.15	3.00
1000cc	2.15	3.25

■後輪

クラス	リム	タイヤ
	最小寸法	最小寸法
	インチ	インチ
50cc		2.00
80cc		
125cc	1.60	2.50
250cc	1.85	2.75
350cc	2.15	3.00
500cc	2.50	3.25
1000cc	2.50	3.50

注: タイヤはすべてワイヤ入りビードでなければならない。

3) ハンドルバー

(1) ハンドルの端から端までの幅は450mm以上でなければならない。

ただし、50ccクラス以下に限り400mm以上であればよい。

(2) 中心線または中央位置の両側に対するハンドルの回転角度は20度以上でなければならない。

4) ハンドルバーのクリアランス

(1) ハンドルバーのいかなる位置においても、またいかなるその付属品をも含めて、ハンドルバーの先端部と流線形覆い(カウリング)とのクリアランスは50mm以上でなければならない。

(2) ハンドルの回転角度を左右いっばいに切ったときライダーの指をはさまないように、ハンドルバーと燃料タンクの間最低30mmの間隔を確保するために、止め具か他の装置を必ず取り付けなければならない。(第1図参照)

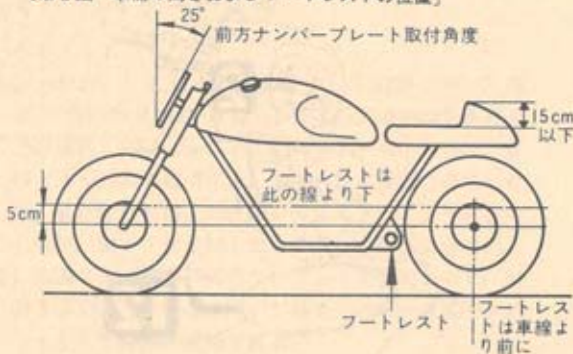
5) クラッチおよびブレーキレバー

ハンドルに取りつけられるクラッチレバーおよびブレーキレバーは、その末端が球状に作られ、その球(レバーエンドボール)は直径19mm以上で容易に取れ



〔第1図 ハンドルの回転角度、ハンドルの幅、ハンドルを切ったときのタンクとの間隔〕

〔第2図 車輻の高さおよびフートレストの位置〕



るものであってはならない。

6) フートレストおよびペダル

(1) フートレストは、前後車輪の中心を通過する線の50mm上方より下側に、そして後輪の中心を通過する垂線の前側になるように取り付けられ、どのコントロール・ペダルも容易に操作できる位置になければならない。

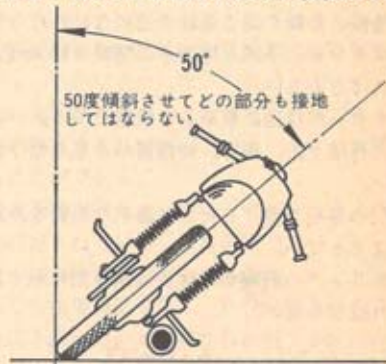
(2) フートレストおよびペダル類の先端の角は安全上丸められていなければならない。

7) 車輻の高さ

シートの後方の部分が150mm以上の高さであってはならない。〔第2図参照〕

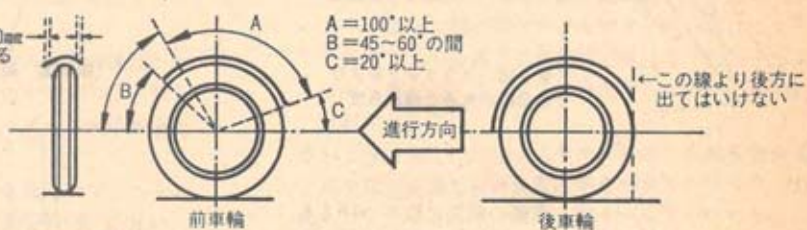
8) 排気管

排気はすべて側方に開口のない管により、車輻の後方に排出されなければならない。その排気管は車輻の進行方向になるべく平行でなければならない。また排気管は後輪最後端垂線より突出してはならず、排気がほこりを立てるように排出されたり、後続のライダーに



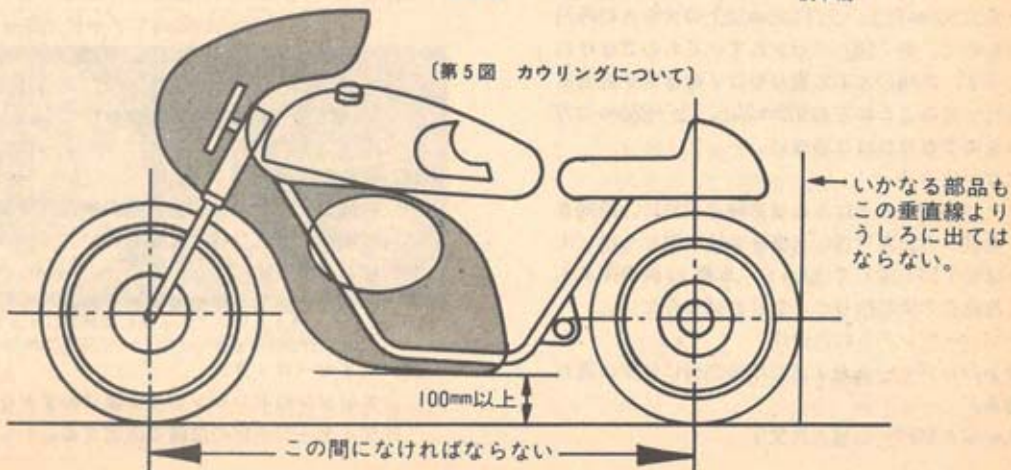
〔第3図 車輻の傾斜角度〕

泥ヨケの幅
タイヤの幅より10mm
以上開かれている



〔第4図 フェンダーの規正(角度)〕

〔第5図 カウリングについて〕



迷惑を与えるように排出されてはならない。

9) 車輻の傾斜角

車輻の傾斜度は無負荷で、タイヤを除きどの部分も接地することなく垂線に対して50°傾斜させることが可能でなければならない。〔第3図参照〕

10) フェンダー（泥よけ）

フェンダーは、前後とも取りのぞいてもかまわない。ただし取りつける場合は第4図に示すとおり確実に装備しなければならない。

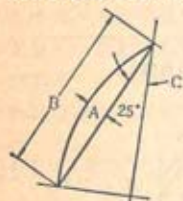
11) 取りはずさなければならないもの

ライト類、バックミラー、スタンド類、荷台、チェーンケース、およびキックアームは取りはずさなければならない。

12) カウリング

カウリングを使用する場合は次の条件をそなえたものでなければならない。〔第5図参照〕

- (1) タイヤを除く前輪は両側に明瞭に見えなければならない。
- (2) 前後輪の車輪を通る垂線の間になければならない
- (3) カウリングの下端と地面との間隔は100mm以上でなければならない。
- (4) ライダーが普通に乗車した状態でライダーの両前輪部以外は上方、後方、両側面から見えなければならない。
- (5) 上記の適用を避けるために透明な物質を使用することはできない。
- (6) カウリングの前端部の形状は第6図に示す範囲でなければならない。



A : 25mm以下
B : 230mm (ナンバーの高さ)
C : ナンバーの取り付け角度

〔第6図 カウリングおよびその前面の丸みと傾斜角度〕

13) レースナンバープレート

(1) ナンバープレートの大きさ

ナンバープレートは、車輻の前面に取りつけるものは左右285mm以上、上下235mm以上の大きさの楕円形のもので、第7図左に示されているものでなければならない。車輻の左右に取りつけるのは第7図右に示されてあるように左右300mm以上、上下250mmの方形のものでなければならない。

(2) 取り付け方法

ナンバープレートは1枚は車輻の前面に、前向きに、垂直から25度以内の角度をつけて取り付け（大きさは第7図の限りではない）、車輻の両側面にも各1枚垂直方向に取りつけなければならない。

(3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通りである。

ノービス部門=白地に黒文字

国際B級部門=緑地に白文字

国際A級部門=赤地に白文字

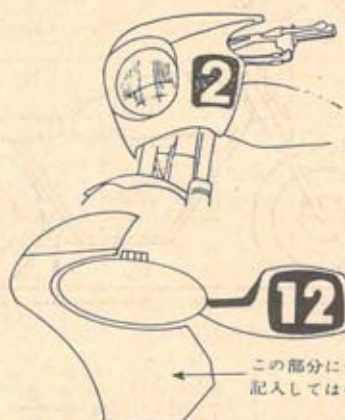
(4) ナンバーの字体および寸法

ナンバーの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。角ばった字体や斜体であってはならない。

ナンバーの文字寸法は、高さ200mm、幅は25mmとする。誤読されないよう書体には注意。



〔第7図 ナンバープレートの大きさ〕



〔第8図 耐久レースのナンバー位置〕



〔第9図 正規のナンバー字体〕

14) 後輪の可視範囲

後輪のリムは後輪の垂直線の後部円周180度にわたって明瞭に見えなければならない。

15) 部品の最後端

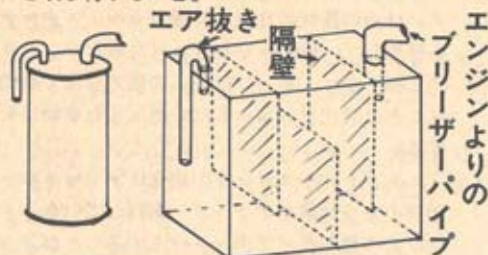
いかなる部品も後輪最後端垂直線よりうしろに突出してはならない。

16) ワイヤロック

エンジンのドレーンボルト類は必ずドリルで穴をあけワイヤーで所定の位置に固定する。

17) オイルキャッチタンク

全ての車輛はその排気量より容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けなければならない。ただし2サイクル車はクランクケースよりホースの出てるもののみその排気量の1/2より容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けること。



〔第10図 オイルキャッチタンク〕

18) 危険防止

他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような改造をしてはならない。

〔4〕 ライダーの装備

1. ヘルメット

- ヘルメットは日本工業規格 JIS-T 8133-1982-C 種および同JIS-T8133-2種 (JIS-T8133の1982年8月までの規格) USA, S. I. STANDARD-Z90-I-1970, 米国スネル1980年規格によって示された検査に合格したか、またはそれ以上の性能を有するフルフェイス型のもので、MFJが公認したものでなければならない。
- 米国スネル規格1980のフルフェイス型のもので、MFJが公認したのものについてはロードレース用ヘルメットとして特別に推薦される。
- MFJの公認したヘルメットには下記の認証マークが貼付される。
- 競技会の車輛検査受付時に、ヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでも、ライダー本人の安全上使用を禁止する。
- MFJの公認認証マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料(1,000円)を支払い、新規に検査を受けなければならない。



ヘルメットには特別推薦を示すホワイト地、またはゴールド地の認証マークがついてなければならない。

2. ゴoggles

ゴogglesにはガラスが使用されてはならず、また枠は柔軟なものでなければならない。

3. ライダーの服装

- ライダーの服装は、競技中ライダーの身体の安全を確保し、操縦を妨げるものであってはならない。
- 皮製のレーシングスーツ、皮製の手袋およびブーツなどはフックなどが外部に突出していないライダーの身体にピッタリしたものを着用しなければならない。
- ライダーは競技会中、合成繊維(ナイロン、テトロン等)製の肌着を着用してはならない。皮製のレーシングスーツの裏地は、耐熱および耐火処理をほどこした難燃性の布製のものでなければならない。

〔5〕 公式予選 (オフィシャル・プラクティス)

1. 公式予選の日程

- 公式予選は原則として各クラス別におこなわれる。
- 公式予選の日程および時間は特別規則に示される。

2. 公式予選の内容

- レースに出場するすべてのライダーは、必ず公式予選に参加し、最終的に出場資格を取得しなければならない。
- 公式予選においては、競技役員による車輛の安全上のチェックがなされた後、一台ごとにスタートし、与えられた時間を任意に走行することができる。与えられた時間内であれば走行を中断し、または再スタートすることができる。
- 公式予選では、走行中のライダーは常にラップタイムが測定されている。この測定で、ベスト・ラップタイムがはなはだしくおとるものは、たとえ定員以内であっても出場資格を与えられない場合がある。
- 公式予選において測定された各ライダーの最高ラップタイムにより、特別規則に示されるレース出場台数を限度としてスタート位置が定められる。最高ラップタイムが同じ場合は次のラップタイムの順位による。
- 各クラスの公式予選義務周回数は3周以上とする。なお、最初の1ラップ目は計測されないが、周回数には算定される。
- 2種目以上に出場するライダーは、出場全種目の公式予選に出場しなければならない。

〔6〕 レース

1. スタート

1) スプリントレースのスタート

- 各クラスともレースのスタート位置は、各ライダーに与えられている車番とは関係なく最高ラップタイムによって決定される。
- レースにおけるスタート位置の発表は、公式予選の終了後、審査委員会がおこなう。
- スタートまでの行動
 - スタートまでの行動は原則として次の時間割による

スタート 約60分前 給油およびレース前車輛チェック開始、終了後ただちに待機区域に入る。待機区域コースへ誘導。

ROAD RACE

- スタート 15分前 ウォーミングアップ開始
 // 5分前 スタート位置整列
 // 3分前 エンジン停止
 // 2分前 表示 メカニック離れる
 // 1分前 表示
 // 30秒前 表示
 // 10秒前 表示

スタート 青色シグナルまたは国旗にて表示

- ② 決められた時間以外にエンジンを始動させてはならない。
 (4) スタート
 ① スタートは、原則として、押しがけによる同時スタートとする。(F-1はエンジンスタートとする)
 ② スタート位置は、すべて正規のスタートラインからなされたものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップはいっさい考慮されない。
 ③ スタートの合図は原則としてシグナル・ランプによっておこなわれる。ただし特別の理由により旗によっておこなわれることがある。

2) ル・マン式スタート (耐久レース)

- (1) 各ライダーのスタート位置は公式予選のタイム順とし、全車同時にスタートするものとする。
 (2) スタートラインは公式予選においてベストタイムを記録したライダーとする。
 (3) 指定された時間割により各チームは燃料供給、走行直前の車輻チェックをうけたのち指定されたポジションに整列する。
 (4) 整列した車輻はウォーミングアップ開始の表示までエンジンを始動することはできない。
 (5) ウォーミングアップ終了の時間とともに車輻はプラットホーム側のポジションに整列し、スタートライダーは反対側(グラウンドスタンド)のサークルの中に入りスタートの合図があるまで自分の車輻の方に動いてはならない。
 (6) ひかえのライダーは、プラットホームより車輻の後尾をささえ待機し、他のチーム員はプラットホーム内およびピット内に退避しなければならない。こ



この喜びを何にとえよう。青春ばんざい。

のときまで車輻の整備を行なうメカニックの人数は制限しない。

- (7) スタート合図はシグナルとする。スタート合図があったときスタートライダーはコースを横断して自分の車輻にかけよりスタートする。
 (8) エンジンは、ライダーが単独でキックスタートあるいは他の機械的な始動装置(セル・スターター)を使用して、始動させなければならない。スタート時に押しがけ、あるいは他人の協力を得て始動させることは禁止される。これに違反した車輻は失格とする。
 (9) エンジンノースタートの場合はプラットホーム最前方の安全地域までライダーが押しがけ、メカニックの作業を受けて再スタートすることができる。このときは役員の指示にしたがっておこなうものとする。
 (10) ル・マン式スタートの時間割は原則として次の順序によって行われる。

スタート	約 120分前	給油・待機
スタート	約 60分前	スタート位置整列、ウォーミングアップ
スタート	約 30分前	エンジン停止、ライダー定位置へ(ライダー紹介)
スタート	5分前	ボード表示メカニック退場合図
スタート	3分前	電光表示(シグナル赤)
スタート	2分前	// (//)
スタート	1分前	// (//)
スタート	30秒前	// (//)
スタート	10秒前	// (シグナル→)
スタート		シグナル青および「GO」

5. ピット

ピットとは車輻の修理・調整、部品交換、燃料補給などの作業をおこなう目的のためにライダーに与えられた区域のことである。

6. ピットイン

- 1) ピットインする時は、ピット前のコース上に区画された減速地帯、即ちイエローラインとホワイトラインの間を減速走行し、停車については他の車輻が走行できる通行余地を残して停車し、必ずエンジンを停止しなければならない。
 2) 競技役員の指示または危険回避以外の目的でイエローラインをカットして走ってはならない。
 3) 自分のピットを通り越し、なおピットインする場合はエンジンを停止し、その後、ピットの競技役員の承認を得た上で戻すことができる。

7. ピットアウト

ピットアウトは、必ず競技役員の合図を確認し、車輻を自力で押しがけしてスタートさせなければならない。また減速地帯を走行し、コースに入るが、コース走行はコースの内側を走行しながら次のコーナーを通過しなければならない。

8. ピット作業

- 1) レース中における車輛の修理、調整、部品交換は、ピットに準備してある部品と工具によっておこない、必ずエンジンは停止しておこなわなければならない。
- 2) ピットに準備してある部品、工具による作業は、正規にピットインした車輛に対してのみおこなうことができる。
- 3) エンジンアッセンブリーおよびフレームアッセンブリーを交換してはならない。また当該アッセンブリーをピットに持ち込んではいない。
- 4) ピット区画内にオイルをこぼしたり、汚したりした場合は、ただちにきれいに掃除しておかななければならない。

●耐久レースの場合の追加項目

ピットインして1時間以上経過してもピットアウトできない車輛はレースから除外される。また、コース上、グリーン上、同一場所に1時間以上停止している車輛もレースから除外される。

9. ピット作業人員

- 1) ライダーはその車輛のメカニックを2名まで持つことができる。
- 2) レース中にピットインし、エンジンを停止した車輛に対しての作業は、2名のメカニックと、その車輛のライダーの計3名だけに限られる。

耐久の場合はピット要員2名とライダー2名の計4名とする。ただし、燃料補給の際チーム監督が消火器を持って作業中待機することは許される。

- 3) ライダーに対するピットクルー（メカニック、ピットサインマンおよびヘルパー）の合図は、大会競技役員の使用する合図用旗にまぎらわしいものであってはならず、また「ピット区画」のみで合図を送ることができる。
- 4) ピット作業をおこなう者はすべてピットクルーライセンス所持者で、大会に参加の申請がなされ許可された者でなければならない。
- 5) ピットクルーは開催期間中を通じてどの大会役員の指示にもしたがわなければならない。
- 6) ピットクルーが守らなければならないことに違反した時は、そのピットクルーの担当のライダーが責任を問われ、ペナルティが課せられる。

10. レースの終了

各レースの終了は、チェッカーフラッグによりトップ走者がゴールしたのち特別規則に示す時間を経過した時(注)であり、チェッカーフラッグ・マーシャルが指定位置より退場したことにより示される。

注：原則的にコースの1周を1kmにつき1分として定められる。

〔7〕優勝者、入賞者順位、完走者および得点

1. スプリントレースの場合の順位の優先順序

1) 優勝者

優勝者は、規定の周回数を最短時間で完走したライダーである。

2) 入賞者および順位の優先順序

入賞者および入賞順位は、チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定され同周回数の場合はゴールライン通過の順位による。

3) その他の優先順序

周回数の多い者を優先する同周回数の場合はゴールラインの通過順位による。

2. 耐久レースの場合の順位の優先順序

- 1) 優勝者は定められた時間で最長距離を走行したライダーとする。
- 2) 優勝者のゴールライン通過と同時に、レース終了を合図するチェッカーフラッグが、フラッグ・マーシャル合で提示される。
- 3) チェッカーフラッグは優勝者がゴールライン通過後5分間提示される。
- 4) 優勝者以外の順位は、達成された走行距離(周回数)とゴールライン通過順位によって決定される。

3. 完走者

- 1) 各クラスのレースとも、優勝者の75%以上の周回数を完了したライダーが完走者である。
- 2) レース途中でリタイヤ届を提出したライダーも完走周回数を完了しているライダーは完走者とみなされる。

4. 得点

- 1) 得点は総則〔8〕の2および3（23頁参照）によって与えられる。



ドラマチックな走りの展開に万余の観客の熱い視線も走る。レース参加者はみんなが注目の的となっている。

ROAD RACE PRODUCTION

●ロードレース



プロダクション●

- [1] レースの出場車輛……………42
- [2] ライダーの装備……………45
- [3] 公式予選(オフィシャル・プラクティス)…45
- [4] レース……………45
- [5] 優勝者、入賞者順位、完走者および得点…46

[1] レースの出場車輛

1. プロダクションロードレースの車輛

プロダクション・ロードレースの車輛(以下車輛という)は市販レーサーを除く一般生産型モーターサイクルでMFJが公認したものでなければならない。

クラス	ライセンス区分	排気量区分
125cc	B(ロード)、ノービス	81cc~125cc
250cc	ノービス	126cc~250cc

2. 車輛の排気量区分とライセンス区分

3. 改造の限度

1) エンジンおよび補機類

- (1) キャブレターのジェット、ニードル類の変更, エアクリナーケースの取りはずしは自由とする。
- (2) スパークプラグの変更は自由とする。
- (3) エンジンのドレーンボルトには必ずワイヤーロックをほどこさなければならない。

2) フレーム

フレームコンプリートの改造は認められない。

3) フロントおよびリヤサスペンション

改造, 変更は認められない。

4) フロントおよびリヤフォーク

ステアリングシステム, トップブリッジを含み改造, 変更は認められない。

5) ホイールアッセンブリー

改造, 変更は認められない。

6) タイヤ

一般に市販されていて, 通常ルートで購入出来るも

のみ使用が認められる。スリックタイヤ(レーシンググレイン, インターミディエイト, グルーピングした物を含む)の使用は認められない。

7) スプロケットおよびチェーン

ドライブ, ドリブンスプロケットの歯数の変更は認められるが, チェーンサイズの変更は認められない。

8) チェーンケース

取りはずしは自由とするが, ライダーの足がチェーンにまき込まれないようにカバーを取り付けることは認められる。

9) ハンドルバー

ハンドルバーの変更は認められるが, グリップエンド位置はトップブリッジよりも上とする。

10) カウリング

車輛公認時に装着されているもののみ認められる。

11) メーター類

改造, 変更は自由とする。

12) シート, シートカウル

シートラバースポンジの改造のみ認められる。シートカウルの取りはずしは認められない。

13) ガソリンタンク

形状の改造, 変更は認められない。コックの改造は認められる。

14) サイドカバー

取りはずしは認められない。また脱落しないようにボルトで固定しなければならない。

15) フェンダー

(1) フロント

取りはずしてはならない。

(2) リヤ

取りはずしてもよい。

- 16) ステップおよびペダル
改造変更は認められない。

17) ブレーキ

前後ブレーキシステムの変更は認められない。ただしパッド材質、ブレーキホースの変更は認められる。

18) オイルキャッチタンク

全ての車輛はその排気量より容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けなければならない。ただし、2サイクル車は、その排気量の $\frac{1}{2}$ 以上とし、クランクケースよりホースの出ているもののみ取り付けなければならない。

19) ラジエーターカバーおよびライトステー、ウインカーステー、ホーンステー

取りはずしは自由とする。

20) サイドおよびメインスタンド

取りはずさなければならない。ただしステーは自由とする。

21) 過給は認められない。

4. 仕様

車輛は、安全のために下記各項のすべてをみたしていなければならない。

1) ブレーキ

車輛は前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを備えなければならない。

2) リムとタイヤ

車輛は下記に示す呼称寸法以上のリムおよびタイヤを装着しなければならない。

■前輪

クラス	リ ム		タ イ ヤ	
	最 小 寸 法	最 小 寸 法	イ ン チ	イ ン チ
50 cc				2.00
80 cc				
125 cc	1.60			2.50
250 cc	1.85			2.50
350 cc	1.85			2.75
500 cc	2.15			3.00
1000 cc	2.15			3.25

■後輪

クラス	リ ム		タ イ ヤ	
	最 小 寸 法	最 小 寸 法	イ ン チ	イ ン チ
50 cc				2.00
80 cc				
125 cc	1.60			2.50
250 cc	1.85			2.75
350 cc	2.15			3.00
500 cc	2.50			3.25
1000 cc	2.50			3.50

注：タイヤはすべてワイヤ入りビードでなければならない。

3) ハンドルバー

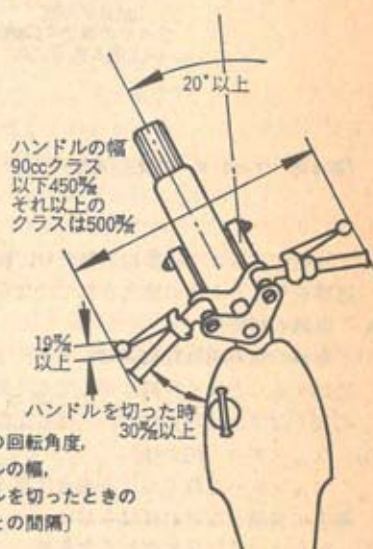
- (1) ハンドルの端から端までの幅は450mm以上でなければならない。

ただし、50ccクラス以下に限り400mm以上であればよい。

- (2) 中心線または中央位置の両側に対するハンドルの回転角度は20度以上でなければならない。

4) ハンドルバーのクリアランス

ハンドルの回転角度を左右いっばいに切ったときライダーの指をはさまないように、ハンドルバーと燃料タンクの間には最低30mmの間隔を確保するために、止め具か他の装置を必ず取り付けなければならない。(第1図参照)



〔第1図 ハンドルの回転角度、ハンドルの幅、ハンドルを切ったときのタンクとの間隔〕

5) クラッチおよびブレーキレバー

ハンドルに取りつけられるクラッチレバーおよびブレーキレバーは、その末端が球状に作られ、その球(レバーエンドボール)は直径19mm以上で容易に取れたり外れたりするものであってはならない。

6) フートレストおよびペダル

- (1) フートレストは、前後車輪の中心を通過する線の50mm上方より下側に、そして後輪の中心を通過する垂線の前側になるように取り付けられ、どのコントロール・ペダルも容易に操作できる位置になければならない。

- (2) フートレストおよびペダル類の先端の角は安全上丸められていなければならない。

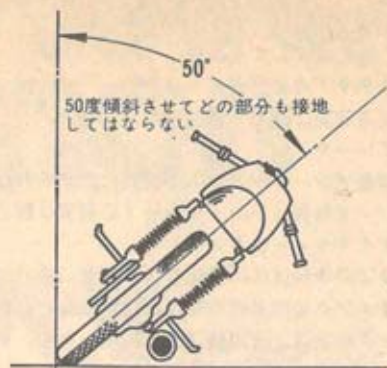
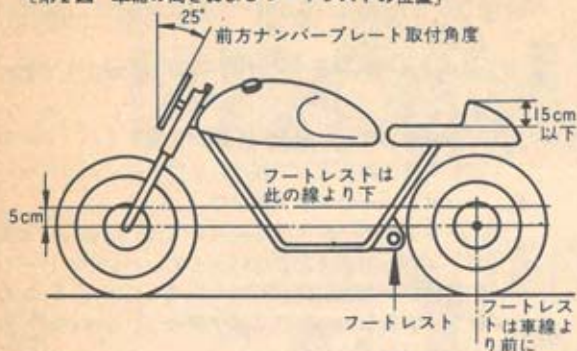
7) 車輛の高さ

シートの後方の部分が150mm以上の高さであってはならない。(第2図参照)

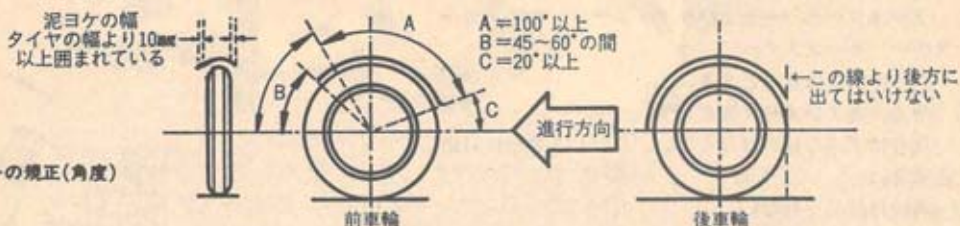
8) 排気管

排気はすべて側方に開口のない管により、車輛の後方に排出されなければならない。その排気管は車輛の進行方向になるべく平行でなければならない。また排気管は後輪最後端垂線より突出してはならず、排気がほ

〔第2図 車輻の高さおよびフートレストの位置〕



〔第3図 車輻の傾斜角度〕



〔第4図 フェンダーの規正(角度)〕

こりを立てるように排出されたり、後続のライダーに迷惑を与えるように排出されてはならない。

9) 車輻の傾斜角

車輻の傾斜角は無負荷で、タイヤを除きどの部分も接地することなく垂線に対して50°傾斜させることが可能でなければならない。(第3図参照)

10) フェンダー(泥よけ)

フェンダーを取りつける場合は第4図に示すとおり確実に装備しなければならない。

11) 取りはずさなければならないもの

ライト類、バックミラー、スタンド類、荷台、チェーンケースおよびキックアームは取りはずさなければならない。

12) レースナンバープレート

(1) ナンバープレートの大きさ

ナンバープレートは、車輻の前面に取りつけるものは左右285mm以上、上下235mm以上の大きさの楕円形のもので、第7図左に示されているものでなければならない。車輻の左右に取りつけるのは、第7図右に示されてあるように左右300mm以上、上下250mmの方形のものでなければならない。

(2) 取り付け方法

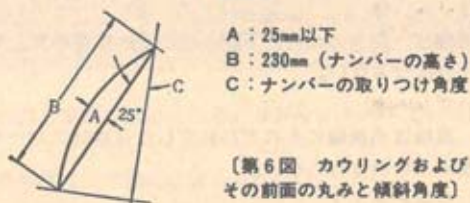
ナンバープレートは1枚は車輻の前面に、前向きに、垂直から25度以内の角度をつけて取り付け(大きさは第7図の限りではない)、車輻の両側面にも各1枚垂直方向に取りつけなければならない。

(3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通りである。

白地に黒文字

(4) ナンバーの字体および寸法



〔第6図 カウリングおよびその前面の丸みと傾斜角度〕



〔第7図 ナンバープレートの大きさ〕

ナンバーの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。角ばった字体や斜体であってはならない。

ナンバーの文字寸法は、高さ200mm、幅は25mmとする。誤読されないよう書体に注意。

13) 後輪の可視範囲

後輪のリムは後輪の垂直線の後部円周180度にわたって明瞭に見えなければならない。

14) 部品の最後端

いかなる部品も後輪最後端垂線よりうしろに突出してはならない。

15) ワイヤロック

エンジンのドレーンボルト類は穴アケ加工を施し締付け後、必ずワイヤロックを施すものとする。

16) オイルキャッチタンク

全ての車輻はその排気量より容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けなければならない。ただし2サイクル車はクランクケースよりホースの出ているもののみその排気量のほより容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けること。

17) 危険防止

他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような改造をしてはならない。

〔2〕ライダーの装備

1. ヘルメット

- ヘルメットは日本工業規格 JIS-T 8133-1982-C種および同 JIS-T 8133-2種 (JIS-T8133の1982年8月までの規格)、USA, S, I. STANDARD-290-1-1970米国スネル1980年規格によって示された検査に合格したか、またはそれ以上の性能を有するフルフェイス型のものでMFJが公認したものでなければならない。
- 米国スネル規格1980年のフルフェイス型のもので、MFJが公認したものについてはロードレース用ヘルメットとして特別に推薦される。
- MFJの公認したヘルメットには下記の認証マークが貼付される。
- 競技会の車輛検査受付時にヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでも、ライダー本人の安全上使用を禁止する。
- MFJの公認認証マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料(1,000円)を支払い、新規に検査を受けなければならない。



ヘルメットには特別推薦を示すホワイト地、またはゴールド地の認証マークがついていなければならない。

2. ゴoggles

ゴogglesにはガラスが使用されていないならず、また枠は柔軟なものでなければならない。

3. ライダーの服装

- ライダーの服装は、競技中ライダーの身体の安全を確保し、操縦を妨げるものであってはならない。
- 皮製のレーシングスーツ、皮製の手袋およびブーツなどは、フックなどが外部に突出していないライダーの身体にピッタリしたものでなければならない。
- ライダーは競技会中、合成繊維(ナイロン、テロン等)製の肌着を着用してはならない。皮製のレーシングスーツの裏地は、耐熱および耐火処理をほどこし

た難燃性の布製のものでなければならない。

〔3〕公式予選 (オフィシャル・プラクティス)

1. 公式予選の日程

- 公式予選は原則として各クラス別におこなわれる。
- 公式予選の日程および時間は特別規則に示される。

2. 公式予選の内容

- レースに出場するすべてのライダーは、必ず公式予選に参加し、最終的に出場資格を取得しなければならない。
- 公式予選においては、競技役員による車輛の安全上のチェックがなされた後、一合ごとにスタートし、与えられた時間を任意に走行することができる。与えられた時間内であれば走行を中断し、または再スタートすることができる。
- 公式予選では、走行中のライダーは常にラップタイムが測定されている。この測定で、ベスト・ラップタイムがはなはだしくおとるものは、たとえば定員以内であっても出場資格を与えられない場合がある。
- 公式予選において測定された最高ラップタイムの順位により、レース出場台数のスタート位置が定められる。最高ラップタイムが同じ場合は次のラップタイムの順位による。
- 各クラスの公式予選義務周回数3周以上とする。なお、最初の1ラップ目は計測されないが、周回数には算定される。
- 2種目以上に出場するライダーは、出場全種目の公式予選に出場しなければならない。

〔4〕レース

1. スタート位置

- 各クラスともレースのスタート位置は、各ライダーに与えられている車番とは関係なく最高ラップタイムによって決定される。
- レースにおけるスタート位置の発表は、公式予選の終了後、審査委員会がおこなう。

2. チーム

チーム参加の場合のチーム編成、チーム競技の成立等は特別規則に示す。

3. スタートまでの行動

- スタートまでの行動は原則として次の時間割による

スタート	約60分前	給油およびレース前車輛チェック開始、終了後ただちに待機区域に入る。待機区域コースへ誘導。
スタート	15分前	ウォーミングアップ開始
//	5分前	スタート位置整列
//	3分前	エンジン停止
//	2分前	表示 メカニック離れる
//	1分前	表示
//	30秒前	表示
//	10秒前	表示
スタート		青色シグナルまたは国旗にて表示

ROAD RACE

2) 決められた時間以外にエンジンを始動させてはならない。

4. スタート

1) スタートは、原則として、押しがけによる同時スタートとする。

2) スタート位置は、すべて正規のスタートラインからなされたものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップはいっさい考慮されない。

3) スタートの合図は原則としてシグナル・ランプによっておこなわれる。ただし特別の理由により国旗によっておこなわれることがある。

5. ピット

ピットとは車輛の修理・調整、部品交換、燃料補給などの作業をおこなう目的のためにライダーに与えられた区域のことである。

6. ピットイン

1) ピットインする時は、ピット前のコース上に区画された減速地帯、即ちイエローラインとホワイトラインの間を減速走行し、停車については他の車輛が走行できる通行余地を残して停車し、必ずエンジンを停止しなければならない。

2) 競技役員の指示または危険回避以外の目的でイエローラインをカットして走ってはならない。

3) 自分のピットを通り越し、なおピットインする場合はエンジンを停止し、その後、ピットの競技役員の承認を得た上で戻ることができる。

7. ピットアウト

ピットアウトは、必ず競技役員の合図を確認し、車輛を自力で押しがけしてスタートさせなければならない。また減速地帯を走行し、コースに入るが、コース走行はコースの内側を走行しながら次のコーナーを通過しなければならない。

8. ピット作業

1) レース中における車輛の修理、調整、部品交換は、ピットに準備してある部品と工具によっておこない、必ずエンジンは停止しておこななければならない。

2) ピットに準備してある部品、工具による作業は、正規にピットインした車輛に対してのみおこなうことができる。

3) エンジンアッセンブリーおよびフレームアッセンブリーを交換してはならない。また当該アッセンブリーをピットに持ち込んではいない。

4) ピット区画内にオイルをこぼしたり、汚したりした場合は、ただちにきれいに掃除しておかななければならない。

9. ピット作業員

1) ライダーはその車輛のメカニックを2名まで持つことができる。

2) レース中にピットインし、エンジンを停止した車輛に対しての作業は、2名のメカニックと、その車輛のライダーの計3名だけに限られる。

3) ライダーに対するピットクルー（メカニック、ピットサインマンおよびヘルパー）の合図は、大会役員が使用する合図用旗にまぎらわしいものであってはならない。また合図を送る場合も「ピット区画」のみに限定される。

4) ピット作業をおこなう者はすべてピットクルーライセンス所持者で、大会に参加の申請がなされ、許可された者でなければならない。

5) ピットクルーは開催期間中を通じてどの大会役員の指示にもたがわなければならない。

6) ピットクルーが守らなければならないことに違反した時は、そのピットクルーの担当のライダーが責任を問われ、ペナルティが課せられる。

10. レースの終了

各レースの終了は、チェッカーフラッグによりトップ走者がゴールしたのち特別規則に示す時間を経過した時(注)であり、チェッカーフラッグ・マーシャルが指定位置より退場したことにより示される。

注：原則的にコースの1周の距離を1kmにつき1分として定められる。

〔5〕 優勝者、入賞者順位、完走者および得点

1. 優勝者

優勝者は、規定の周回数を最短時間で完走したライダーである。

2. 入賞者および順位の優先順序

入賞者および入賞順位は、チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定され、同周回数の場合はゴールライン通過の順位による。

3. その他の優先順序

周回数の多い者を優先する。同周回数の場合はゴールラインの通過順位による。

4. 完走者

1) 各クラスのレースとも、優勝者の75%以上の周回数を完了したライダーが完走者である。

2) リタイア届を提出したライダーも完走周回数を完了しているライダーは完走者とみなされる。

5. 得点

1) 得点は総則(8)の2および3(23頁参照)によって与えられる。

ROAD RACE

'84全日本選手権大会特別規則

全日本選手権ロードレース大会は、日本モーターサイクル協会(MFJ)公認のもとに、MFJ国内競技規則にしたがい開催される。本特別規則は、1984年度全日本選手権シリーズのすべての大会に適用される。

[1] 開催競技会の日程、名称、主催、開催場所、出場申込み期間.....①	[12] レース出場車輛.....⑩	[25] レース.....⑩
[2] 運営実行組織.....②	[13] 競技者番号(ナンバー).....⑩	[26] レース中の合図.....⑩
[3] 公式通知、タイムスケジュール.....③	[14] ライダーの装備.....⑩	[27] 停車指示.....⑩
[4] 開催種目.....④	[15] ガソリンおよびオイル.....⑩	[28] 棄権(リタイア)と停止.....⑩
[5] 競技内容.....⑤	[16] ビット割当て.....⑩	[29] レース終了.....⑩
[6] 参加定員.....⑥	[17] 出場受付.....⑩	[30] 優勝者、入賞者、完走者および順位.....⑩
[7] 参加資格.....⑦	[18] 車輛および装備の検査.....⑩	[31] レース終了後の車輛の保管と再検査.....⑩
[8] 出場申込み.....⑧	[19] ライダーの変更.....⑩	[32] レースおよび大会の延期・中止等.....⑩
[9] 出場料、保険料および選手共済費.....⑧	[20] 出場車輛の変更.....⑩	[33] 抗議.....⑩
[10] 参加受理.....⑨	[21] 公式予選.....⑩	[34] 違反に対する罰則.....⑩
[11] 賞および得点.....⑨	[22] 決勝レース出場台数.....⑩	[35] 本規則の解釈.....⑩
	[23] スタート.....⑩	[36] 本規則の施行.....⑩
	[24] スタートにおける反則.....⑩	

[1] 開催競技会(次頁に提示)

[2] 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される。

[3] 公式通知、タイムスケジュール

公式通知およびタイムスケジュールの詳細は、申込み締切り後に発送される。

[4] 開催種目

1. 競技部門およびクラス区分

全日本選手権シリーズの競技部門、クラス区分は下記の通りである。

部門 クラス	ノービス (N)	国際B級	国際A級
F-3	○	○	○
125cc	○	○	○
250cc	○	○	○
500cc	—	○	○
F-1	—	○	○

1) ただし国際B級に昇格し、500ccまたはF-1に出場を希望する場合、全日本選手権シリーズ大会250ccまたはF-3クラスに出場し、その成績をそえて、MFJ

資格審査委員会の認可を受けなければならない。

2) 全日本選手権シリーズ・ロードレース大会に次のレースが併催される。

- (1) SS400=第7戦、
- (2) 全日本選手権ロードレース大会および主要ロードレース大会、耐久レース(世界選手権)の開催種目および併催レース種目は49頁掲載の表の通りである。

[5] 競技内容

1. レース区分は下記の通りである。ただし、参加台数、天候などの都合により変更される場合がある。
2. 全日本選手権シリーズ第10戦日本GPロードレース大会および第7戦鈴鹿200kmレース大会の国際A、B級部門は、国際格式によって開催される。

[6] 参加定員

参加定員は定めない。

[7] 参加資格

1. 参加者およびライダー

参加者およびライダーは、1984年度版MFJ国内競技規則・総則[4](22頁)に合致していなければならない。

[8] 出場申込み

- 1) 出場申込み場所は各主催者の住所とする。
- 2) 出場申し込み手続き

(1) 各部門とも所定の申込み書に必要な事項をすべて記入し、出場料および保険料を添えて大会事務局に提出しなければならない。

ROAD RACE

〔1〕 開催競技会の日程、名称、主催、開催場所、出場申込み期間

'84全日本選手権シリーズはグランプリを含め下表の11戦をおこなう。

日 程	大 会 名 称	主 催 (出場申込み先)	開 催 場 所	出場申込み期間
3月10日(土) 11日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 Big 2 & 4 レース (鈴鹿)	テクニカルスポーツ 〒513 三重県鈴鹿市住吉町6786 ホンダワールド棟内 ☎0593(78)1455	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	1月30日(月) ↓ 2月9日(木)
3月24日(土) 25日(日)	全日本選手権シリーズ第2戦 筑波ロードレース大会	財団法人オートスポーツセンター 〒105 東京都港区虎の門2-6-7 和孝第10ビル8階3号 ☎03(591)6056	筑波サーキット ☎0296(44)3146	2月13日(月) ↓ 2月23日(木)
4月7日(土) 8日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 SUGO ロードレース大会	SUGO スポーツクラブ 〒989-14 宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランド SUGO 内 ☎022483-3111	スポーツランド SUGO ☎022483-3111	2月29日(水) ↓ 3月8日(木)
4月21日(土) 22日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 鈴鹿ロードレース大会	テクニカルスポーツ 〒513 三重県鈴鹿市住吉町6786 ホンダワールド棟内 ☎0593(78)1455	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	3月12日(月) ↓ 3月22日(木)
5月12日(土) 13日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 筑波ロードレース大会	MFJ関東信越モーターサイクル協会 〒108 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内 ☎03(472)6241	筑波サーキット ☎0296(44)3146	4月2日(月) ↓ 4月12日(木)
5月26日(土) 27日(日)	全日本選手権シリーズ第6戦 SUGO ロードレース大会	SUGO スポーツクラブ 〒989-14 宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランド SUGO 内 ☎022483-3111	スポーツランド SUGO ☎022483-3111	4月16日(月) ↓ 4月26日(木)
6月9日(土) 10日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 鈴鹿200kmレース大会	テクニカルスポーツ 〒513 三重県鈴鹿市住吉町6786 ホンダワールド棟内 ☎0593(78)1455	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	4月28日(土) ↓ 5月10日(木)
6月23日(土) 24日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 筑波ロードレース大会	財団法人オートスポーツセンター 〒105 東京都港区虎の門2-6-7 和孝第10ビル8階3号 ☎03(591)6056	筑波サーキット ☎0296(44)3146	5月14日(月) ↓ 5月24日(木)
8月25日(土) 26日(日)	全日本選手権シリーズ第9戦 SUGO ロードレース大会	SUGO スポーツクラブ 〒989-14 宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランド SUGO 内 ☎022483-3111	スポーツランド SUGO ☎022483-3111	7月16日(月) ↓ 7月26日(木)
9月8日(土) 9日(日)	全日本選手権シリーズ第10戦 日本GP ロードレース大会(鈴鹿)	日本モーターサイクル協会 〒104 東京都中央区銀座1-9-12 西山興業東銀座ビル ☎03(561)8566	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	7月19日(木) ↓ 7月30日(月)
10月27日(土) 28日(日)	全日本選手権シリーズ第11戦 筑波ロードレース大会	財団法人オートスポーツセンター 〒105 東京都港区虎の門2-6-7 和孝第10ビル8階3号 ☎03(591)6056	筑波サーキット ☎0296(44)3146	9月14日(金) ↓ 9月26日(水)

POWERED BY MOTORSPORTS BRED
SPEED LINE II 210

サーキット・インテリジェンスをフル装備！

モータースポーツで蓄積された高度なインテリジェンスをテクニカルベースに開発されたSPEED LINE II 210シリーズ。その端緒から、それはハイパフォーマンスを約束されていた。

セミレーシングコンパウンドと2段グループを採用！
すぐれたドライ&ウェットグリップ特性。

新開発のハイグリップコンパウンドと高い排水性を実現するワイドなストレートグループ&セミストレートグループの組み合わせ。2段グループは、高い剛性確保へのインテリジェンスだ。

トレッド展開幅とバンク角を大きく設定！
高次元コーナリング特性。

大きなバンク角で、トレッド接地面積の急激な低下をカバーするために、トレッド展開幅を大きく設定。安定したコーナリング特性を確保。

F210は、ストレートグループ、

R210は、ストレート&セミストレートリブ！

セミレーシングパターン。

レーシングライクなルックスを指向したパターンは、洗練され、パワーアップ著しいスーパースポーツフォーターやミドルにジャストフィットだ。

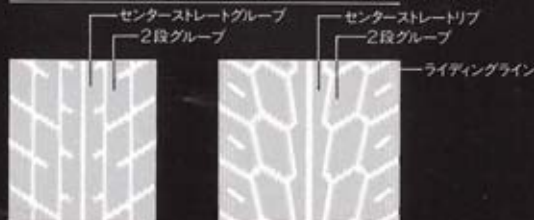
その摩耗状態で、

コーナリング時のタイヤ接地範囲の認知が可能！

R210にライディングライン。

レーシングライクなライディングラインの採用は、コーナリング時に、マシンをどれだけバンクさせたのかを想定できる。

210/TREAD PATTERNS



SIZE

F210	100/90-16 T/L	R210	100/90-18 T/L
Front	90/90-18 T/L	Rear	110/90-18 T/L
	90/90-19 T/L		110/80-18 T/L



We'll Win, SWANS!



PET-AFとは?

戦闘的な走りをするレーサーにとって、目からの情報は正確でなければならない。スワンスではこの命題を克服する為にキズのつきやすい外側レンズにベトロイド、くもりやすい内側レンズにくもり止め加工を施した夢のゴーグルを完成!!

- 924MX PET-AF(ベトロイド) ¥8,000
- 924MX G(グラデーション) ¥7,500
- 924MX P(偏光) ¥7,500
- 924MX PET(ベトロイド) ¥6,000



FG-3 924-MX専用フェイスガード ¥2,500

SWANS
SPORTS

BATTLAX

そのコーナリングポテンシャルは
想像をはるかに超えていた。
いま、バトラックス新登場。

NEW

コーナリングでの圧倒的なロードホールディング性能を得るために、過酷なテストが繰り返された。その成果と結論が、このバトラックス。コンパウンドが違ふ。パターンが新しい。グリップ性能は想像をはるかに超えるものとなった。ウェットの路面でも安定したコーナリングを実

現。テストライダーたちは「これはすでにレーシングスピリットをもっている」といった。ワインディングロードをマシンと一体になって駆けぬけるヨーロッパライダーの熱望に応えて、バトラックス
いま新登場。



BT-01	BT-02
タイヤサイズ(前輪)	タイヤサイズ(後輪)
100/90-16 54H	100/90-18 56H
90/90-18 51H	110/90-18 61H
90/90-19 52H	120/90-18 65H
100/90-19 57H	110/80-18 58H

※すべてチューブレスです。



BRIDGESTONE

PIRELLI



ピレリーチャレンジカップ いよいよスタート!!

参加資格：MFJ国際B級ライセンス保持者で、MFJ公認'84全日本モトクロス選手権に参加予定の方

参加条件：国際B級125cc、250cc全日本シリーズにピレリータイヤをF/R2本又はF、Rどちらか1本を装着した場合のみポイントの対象とする。ポイントは決勝ヒートの1位から6位までの選手を対象とし、装着本数によりポイントが異なる。

	1	2	3	4	5	6
F/R 2本	15point	12	10	8	6	5
F又はR1本	10point	8	6	5	4	3

賞金、賞品：年間トータルポイント上位3名に賞金とピレリータイヤを、4位から6位までの3名にピレリータイヤを支給

	1	2	3	4	5	6
賞金	¥100,000	¥50,000	¥30,000			
賞品	F/R 40本	20本	10本	10本	8本	6本

(年間トータルポイントが同ポイントの場合、上位入賞回数の多い選手から順位を決定する)

申し込み方法：下記の申し込み用紙又はハガキに必要事項を記入の上、

〒101 東京都千代田区神田美土代町3 (株)阿部商会企画部ピレリーチャレンジカップ係宛

☎03(233)2212

キリトリ線

ピレリーチャレンジカップ参加申込書

お名前	印	昭和	年	月	日生	年令	才
ご住所(〒)							
所属クラブ名				TEL.()			
ライセンスNo.				競技車種名		排気量 cc.	

阿部商会 東京☎03(233)2222/札幌☎011(841)1371/仙台☎0222(95)4268/横浜☎045(622)2611/名古屋☎052(931)5361

大阪☎06(458)7751/広島☎082(292)0553/福岡☎092(472)2411/北関東☎0289(76)3471

安全性を極めたら、ヘルメットは ここまで軽くなった。



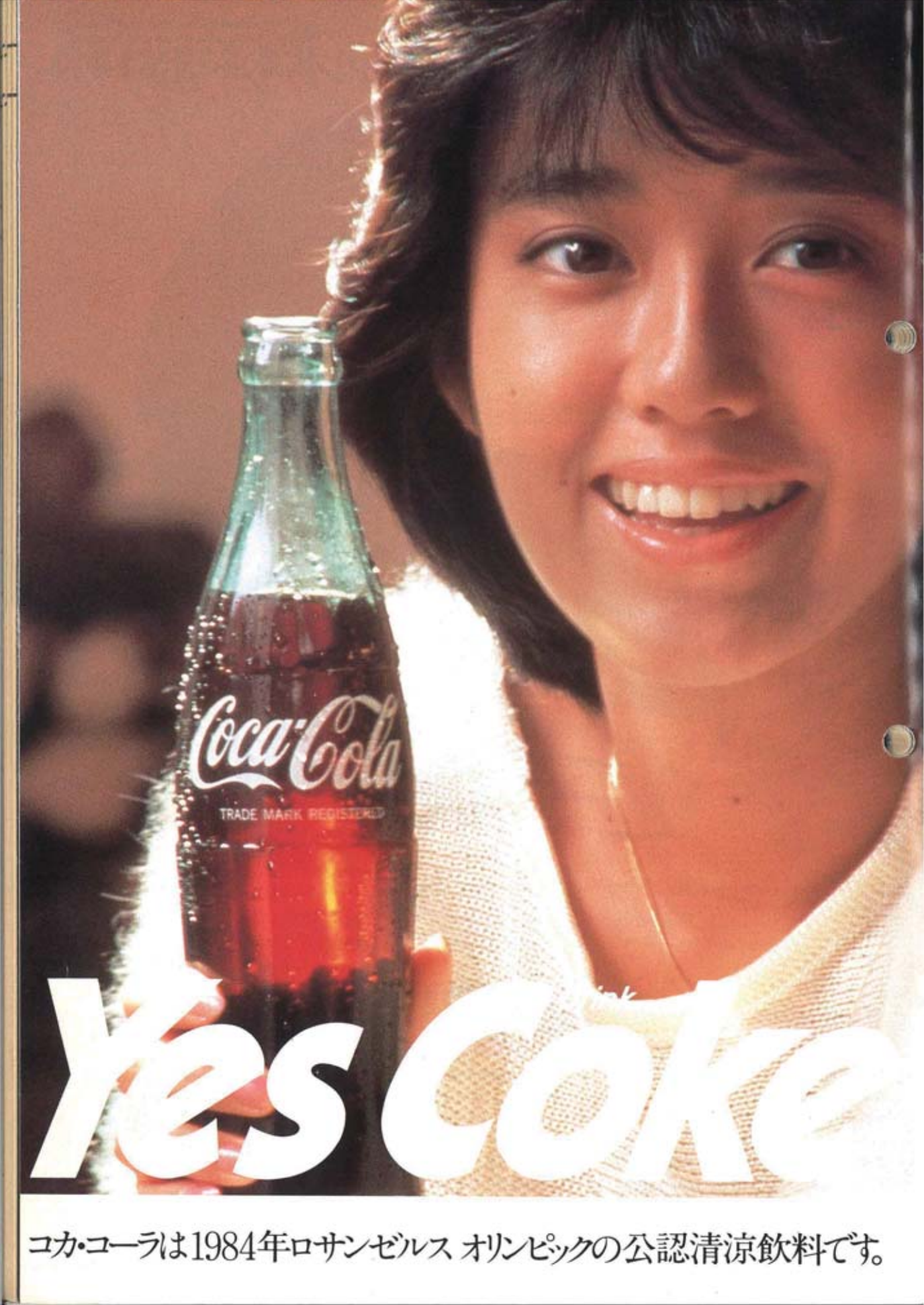
パーフェクトな安全性の追求——トータルバランス。走りだけを追い求めれば、ヘルメットはむしろ煩わしい存在といえるでしょう。しかし、ヘルメットなしに安全性は語れません。そこでGPAは、ヘルメット自体の強度のみに固執せず、衝撃を吸収するという、トータルバランス思想を見出しました。その思想から生まれたGPAヘルメットの軽さは、より高い安全性を提供します。なぜなら、ある物体とある物体が衝突した時、その物体が軽ければ軽いほど、生じる衝撃は弱くなるからです。しかもライダーの負担を軽くし、より高度なライディングへと導きます。この優れた軽さを実現するため、GPA独自のヘルメット素材「TNP」を開発しました。だから、SJは1,350g。まさにヘルメットの頂点。ストラップの問題点を一掃したリテンションシステムを装備して、なおこの軽さ。ライダーの信頼に応える、安全性のためのあらゆる機能と性能、デザインをも極めました。

Le Sommet Jamais Atteint

GPA[®]

株式会社
大沢商会

自動車用品事業部 開発課
〒108 東京都港区芝浦4-2-8 TEL.(03)455-0111



Coca-Cola
TRADE MARK REGISTERED

Yes Coke

コカ・コーラは1984年ロサンゼルス オリンピックの公認清涼飲料です。

コーク、好きっ。

早見
優

Yes

スカッとさわやか コカ・コーラ

Coca-Cola, Diet Coke, Coca-Cola Zero Sugar are The Coca-Cola Company's registered trademarks.

Official Soft Drink of
The Games of The XXIII Olympiad Los Angeles 1984



TM © 1984 U.S. Olympic Committee

Crash & Bump PART I

モトクロス版 珍プレー・好プレー集

ナレーション●みのもんだ

'83全日本選手権シリーズモトクロスの中からズームアップした珍プレー・好プレーの数々をみのもんだの軽快なナレーションで綴る他のモトクロスビデオでは絶対に見る事のできない場面を盛り沢山に編集したモトクロス版“珍プレー・好プレー集”

COLOR 30min. ¥6,800



ALL JAPAN CHAMPIONSHIPS MOTOCROSS

MX-SPOKESMAN

COLOR 60min. ¥9,800

日本各地を転戦する全日本選手権シリーズを4台の大型カメラを駆使して全11戦を収録。緻密な編集による画像は迫力満点。観賞用、記録用に//好評発売中。

- MX-1 第1戦関東大会
- MX-2 第2戦中国大会
- MX-3 第3戦関西大会
- MX-4 第4戦鈴鹿大会
- MX-5 第5戦東北大会
- MX-6 第6戦四国大会
- MX-7 第7戦札幌大会
- MX-8 第8戦東北大会
- MX-9 第9戦九州大会
- MX-10 第10戦北陸大会
- MX-11 第20回日本GP



制作/株式会社アップル・東洋レコーディング株式会社 協力/日本モーターサイクル協会・各地モーターサイクル協会・各地MFJスポーツ委員会

取扱店

セフティラビ機 011(782)4786 ドライブショップヤマト(宇都宮) 0286(48)5511 ホンダモトショップオンタリオ 03(973)5521 日本オフロード 03(841)1099 コーリンパーツセンター 03(842)0581 コミネオートセンター 03(862)9811 モトレオン 03(834)1444 パーツサロン・モト・メカニク 03(841)7829 パーツサロン・モト・アクション 03(844)9135 パーツサロンヘルメット 03(841)7380 野口ホンダ 03(831)9271 マイウェイ 03(498)4844 ビロータ(八王子) 0426(44)2006 オートセンタークニヨシ(静岡) 0542(62)2332 R5タイチ(大阪) 0720(74)5315 レーシングワールド(大阪) 0726(53)0298 スーパーモーター(大阪) 0729(64)3177 ワールドパワー(兵庫) 078(967)3164 広島美油(広島) 082(261)8386 ライダーショップピークル(福岡) 092(861)7076



株式会社 アップル

〒153 東京都目黒区上目黒3-19-13 カガミビル
TEL. 03-792-2631(代)

その他全国有名デパート、電気店、レコード店、カメラ店、ビデオショップ等で取扱っています。なお取扱店がない場合は直接当社へお問合せ下さい。

「レースは鏡だ。
走るほど自分が見えてくる。」
片山敬清(バギー・アドバイザリースタッフ)

敬清の走りまで

縫いあげた。

KATAYAMA REPLICA



●片山レプリカセパレート (A-116)
¥135,000 売価 ¥29,960 ●サイズ M,LL

●片山レプリカワンピース (A-115)
¥125,000 売価 ¥19,960 ●サイズ M,LL



●B-026 ¥28,000
●カラー ブラック・ブルー ●サイズ 24.0-27.5cm



●E-172 ¥9,800
●レースタイプスーパーレプリカグローブ



●E-169 ●E-170 ●E-171
●¥11,000 ●¥9,800 ●¥8,800



とどろきわたる集中心のぶつかり合う世界GP戦。
そこでは、ツナギひとつで走りが変わる。

レーススーツをはじめとするバギーの
各種モーターサイクルギヤは、
世界GPレーサー片山敬清選手を
アドバイザリースタッフとして迎え、研究開発されたもの。
片山選手のナマの走りのノウハウまでもが
縫い込まれている。
肩・肘・袖・腰・膝——機能、スタイル、カラーリング。
これ以上革ツナギに望まれるものは…
何もない。



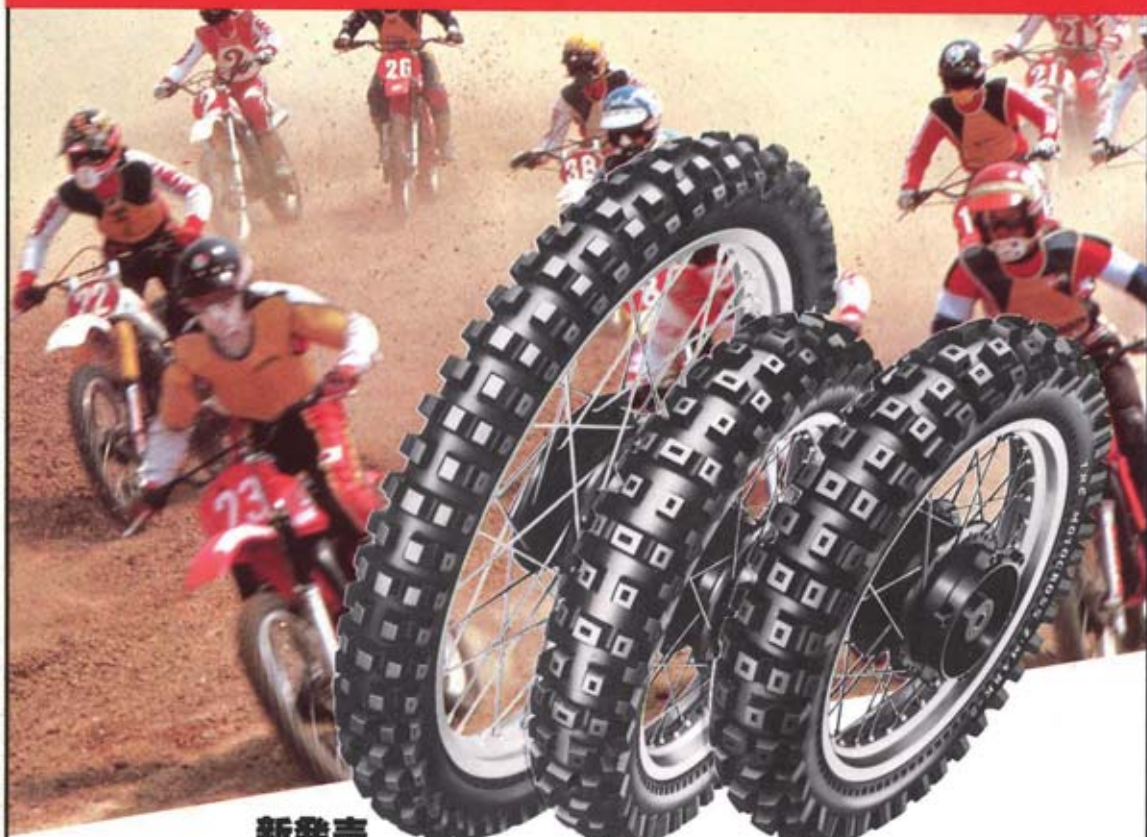
大塚市西成区千手町1丁目B22-H 〒557
TEL.(06)659-5192 (PL) FAX.(06)658-8091
ITALY OFFICE: VIA VOGHERA 27/20144 MILANO ITALY TEL.B357063

●すべてのバギー商品は厳選された牛皮を使用。●有名二輪用品店、オートバイ
販売店、パンダロール特約店、24時間特約店でお求めください。

世界のブランド



IRC



新発売
ウェットスペシャル

M1A

M0B

M0C

トラクション自在。
バランスのZ
「マークII」登場。

バランスのZ

MARK II

- M1A 100/90-21
- M0B 2.50-10・3.00-12・4.10-14・4.10-18
5.10-18
- M0C 3.00-12・4.10-14・5.60-17・4.10-18
110/90-18・5.10-18・140/90-18

INOAC GROUP
井上ゴム工業株式会社

■タイヤ事業部/名古屋市中川区八家町三丁目28番地
〒454 ☎(052)361-8661
■東京支店/東京都品川区大崎2丁目9番12号
〒141 ☎(03)491-6041

0/20オークレイ
 ゴーグルより視界がいい
 ものと言うならば、
 それは何もつけないことぐらい!

速く走ればそれだけよく見えなければならぬのは
 当然のこと。チャンピオン、マーク・バーネット(SUZUKI)
 ジョニー・オマラ(HONDA)、ジェフ・ワード(KAWASAKI)
 をはじめ世界のトップライダーが オークレイ0/20を選んだ
 のもその完璧な設計、抜群の差感があるからです。



ゴーグル/新・黄・白・青・グレー・黒 ¥7,000(レキサンレンズ付)マスク ¥2,500
 スペアレンズ ¥1,500(レキサン) ¥2,500(ノーフォックポラロイド) ¥3,500
 (レキサン・ティアオフレンズセット)

アルバイスター・オークレイJTレーシング日本総代理店
 INTERNATIONAL HEADS SHOP
RS TACHI INC
RSタイチ
 〒574 大阪府大東市中壇内3-1-25
 商品部: TEL. 0720(74)2688
 業務部: TEL. 0720(74)5315

さあ行こう……大自然とのたたかいに!



Yamamoto Racing Service

〒675 兵庫県加古川市野口町良野261-3 ☎0794(23)2335

山本レーシング

各種トライアルマシン&パーツ&グッズは25年
 間の物(マシン)を見る目で貴方にアドバイス
 各種モデファイ等御相談お受けいたします。



'84年 ショウエイ賞

賞金総額
2700万円

グランドチャンピオン賞は誰の手に……

常に一流ライダーたちから信頼され、愛されつづけてきたショウエイのヘルメット。

そのショウエイが(日本のモーターサイクルの発展に、少しでもお役に立ちたい)

という主旨で設けたショウエイ賞も、

今年でいよいよ5年目をむかえることになりました。

年々充実するショウエイ賞は、国際A級ライダーたちの注目の的です。

ロードレース、モトクロス、トライアルの全日本選手権シリーズの各イベントに2,200万円を、

そして年間を通しての、ショウエイ賞のグランドチャンピオンの方には、

海外レース視察費を贈呈するものです。

さあ、今年のグランドチャンピオンは誰か。鍛えぬかれた体と磨きぬいたテクニックで、

思い切りチャレンジするヒーローを、ショウエイは今年も期待しています。

'84年ショウエイ賞募集要項

ショウエイがホンダオリジナルヘルメット(ショウエイ製)を着用し、MFJ公認全日本選手権シリーズの下記イベントに出走し、入賞されたライダーに規定の賞金を贈り、その栄誉をたたえます。

○対象レース区分(全日本選手権シリーズ)

ロードレース	500cc/250cc/125cc/F-1・F-3	国際A級決勝
モトクロス	250cc/125cc	
トライアル	オープン	

○適用期日および条件

- 昭和59年度ロードレース全日本第一戦より最終戦まで。および鈴鹿8時間耐久レース、T.B.C.杯ビッグロードレース。
- 昭和59年度モトクロス全日本第一戦より最終戦まで。
- 昭和59年度トライアル全日本第一戦より最終戦まで。

○参加方法および条件

ショウエイ賞の趣旨に賛同し、賞金制度の適用を望まれる国際A級ライダーの方。ショウエイステッカーおよびワッペン等を、ヘルメット・マシン・レーシングスーツに貼付けることが条件となります。特典として、ショウエイヘルメットを提供します。

○ショウエイ賞に参加ご希望の方は

①氏名②住所(〒番号)③年齢④電話番号⑤所属クラブ⑥MFJ会員番号⑦ゼッケンナンバー⑧賞金振込先(銀行・支店・口座番号)⑨ヘルメットのサイズ⑩参加クラスを明記の上、下記まで、ハガキで3月末日までにお申し込みください。

〒105東京都港区新橋2-9-2 鎌田ビル
昭栄化工株式会社
モータースポーツショウエイ賞係

○賞金額(単位:万円)

ロードレース		1位	2位	3位	4位	5位	6位
500ccクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本グランプリ	20	10	8	6	4	2
	世界耐久鈴鹿8時間レース	20(4)	10(2)	8(0)	6(0)	4(8)	2(4)
	T.B.C.杯ビッグロードレース	20	10	8	6	4	2
250ccクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本グランプリ	10	6	4			
125ccクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本グランプリ	10	6	4			
F-1・F-3決勝レース	全日本第1戦-全日本グランプリ	10	6	4			

モトクロスレース		1位	2位	3位	4位	5位	6位
250ccクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本グランプリ	12	6	4	3	2	1
125ccクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本グランプリ	12	6	4	3	2	1

トライアルレース		1位	2位	3位	4位	5位	6位
オープンクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本グランプリ	6	5	4	3	2	1

○グランドチャンピオン賞

ショウエイ賞申し込み者で、賞金対象レース部門の全日本MFJランキングチャンピオンを獲得された方に対し、海外レース視察費として別項の通り賞金を贈呈します。

グランドチャンピオン賞対象		MFJ全日本ランキングチャンピオン獲得者
ロードレース	500ccクラス	100万円
	250ccクラス	50万円
	125ccクラス	50万円
モトクロス	250ccクラス	100万円
	125ccクラス	100万円
トライアルレース	オープンクラス	100万円

For better
concentration

SHOEI

- (2) 2クラス以上に出場を申込み場合は別々に申込み書を作成しなければならない。
- (3) 郵送の場合は現金書留とし、締切り日当日の消印のある者までが有効となる。
- (4) 電話による申込みおよび締切り日以後の申込みはいっさい受け付けない。

〔9〕 出場料および保険料

1. 出場料およびライダー保険料

1) 第1戦～第11戦

出場料 1クラス 6,000円・
MFJ選手共済費および保険料
1人1口 3,500円(保険金額550万円)

ただし2口以上10口までは1口 1,350円
(保険金額1口 50万円)

- 2) ビットクルー(メカニック、ビットサインマン、ヘルパー等)はMFJ会員で、ビットクルーライセンスを所持しなければならない。

- (1) ビットクルーライセンス(保険金額500万円)
ライセンス料、共済会費、雑費、1,000円(年間)
MFJ会費 3,500円
計 4,500円

(注:すでに入会しているもの、他のライセンスを所持しているものは、1,000円のみ)

- (2) 受付で提示できない場合は理由を問わず出場することができない。

ROAD RACE

'84全日本選手権シリーズ大会カレンダー

開催日	大会名	ノービス			国際A級・B級				
		125	250	F-3	125	250	500	F-3	F-1
3月10日(土) 11日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 Big 2 & 4 レース(鈴鹿)	○	○	○	○	○	○	○	○
3月24日(土) 25日(日)	全日本選手権シリーズ第2戦 筑波ロードレース大会	○	○	○	○	○	○	○	○
4月7日(土) 8日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 SUGOロードレース大会	○	○	○	○	○	○	○	○
4月21日(土) 22日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 鈴鹿ロードレース大会	○	○	○	○	○	○	○	○
5月12日(土) 13日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 筑波ロードレース大会	○	○	○	○	○	○	○	○
5月26日(土) 27日(日)	全日本選手権シリーズ第6戦 SUGOロードレース大会	○	○	○	○	○	○	○	○
6月9日(土) 10日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 鈴鹿200kmレース大会	○	○	併催 SS400	○	○	○	○	○
6月23日(土) 24日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 筑波ロードレース大会	○	○	○	○	○	○	○	○
8月25日(土) 26日(日)	全日本選手権シリーズ第9戦 SUGOロードレース大会	○	○	○	○	○	○	○	○
9月8日(土) 9日(日)	全日本選手権シリーズ第10戦 日本GPロードレース大会(鈴鹿)	○	○	○	○	○	○	○	○
10月27日(土) 28日(日)	全日本選手権シリーズ第11戦 筑波ロードレース大会	○	○	○	○	○	○	○	○
合計	11大会	9	9	9	10	10	11	10	7

- 7月28・29日 / 世界耐久選手権鈴鹿8時間耐久レース、ノービス4時間耐久レース
- 10月6・7日 / インターナショナルSUGOビッグロードレース
- 11月24・25日 / 筑波フェスティバル

ROAD RACE

<第1戦・2 & 4：鈴鹿サーキット>

	部 門	クラス	周回数	完 走 周回数
全 日 本 対 象 種 目	国際A, B級	500cc	15周	12周
	国際A, B級	F-1	15周	15周

<第2戦, 第5戦, 第8戦, 第11戦：筑波サーキット>

	部 門	クラス	周回数	完 走 周回数
全 日 本 対 象 種 目	ノービス	F-3	18周	15周
	ノービス	125cc	18周	15周
	ノービス	250cc	18周	15周
	国際A, B級	F-3	20周	16周
	国際A, B級	125cc	20周	16周
	国際A, B級	250cc	25周	20周
	国際A, B級	500cc	30周	24周

<第7戦・200km レース：鈴鹿サーキット>

	部 門	クラス	周回数	完 走 周回数
全 日 本 対 象 種 目	ノービス	250cc	13周	11周
	国際A, B級	F-3	15周	12周
	国際A, B級	125cc	12周	10周
	国際A, B級	250cc	15周	12周
	国際A, B級	500cc	15周	12周
	国際A, B級	F-1	34周	28周
併催	ノービス	SS400	10周	8周

<第4戦：鈴鹿サーキット>

	部 門	クラス	周回数	完 走 周回数
全 日 本 対 象 種 目	ノービス	F-3	10周	8周
	ノービス	125cc	10周	8周
	国際A, B級	F-3	15周	12周
	国際A, B級	125cc	12周	10周
	国際A, B級	250cc	15周	12周
	国際A, B級	500cc	17周	14周
	国際A, B級	F-1	15周	12周

<第3戦, 第6戦, 第9戦：スポーツランドSUGO>

	部 門	クラス	周回数	完 走 周回数
全 日 本 対 象 種 目	ノービス	F-3	16周	13周
	ノービス	125cc	16周	13周
	ノービス	250cc	20周	16周
	国際A, B級	F-3	20周	16周
	国際A, B級	125cc	16周	13周
	国際A, B級	250cc	20周	16周
	国際A, B級	500cc	30周	24周
	国際A, B級	F-1	20周	16周

<第9戦・日本GP：鈴鹿サーキット>

	部 門	クラス	周回数	完 走 周回数
全 日 本 対 象 種 目	ノービス	F-3	10周	8周
	ノービス	125cc	10周	8周
	ノービス	250cc	13周	11周
	国際A, B級	F-3	15周	12周
	国際A, B級	125cc	12周	10周
	国際A, B級	250cc	15周	12周
	国際A, B級	500cc	17周	14周
	国際A, B級	F-1	15周	12周

〔10〕 参加受理

- 1) 必要事項を記入した出場申込み書、必要金額を大会事務局が受理した時点で、参加受理書が送られる。
- 2) いったん受理された出場料、保険料はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかったものも同様である。
- 3) 大会が中止された場合、参加が拒否された場合（申込み者が必要な手続きを怠った場合はこれにあてはまらない）にのみ出場料、保険料が返還される。

〔11〕 賞および得点

1. 賞

- 1) 賞の詳細については公式通知に示される。
- 2) 国際A級、B級部門の合同レースの場合でも、公式通知に示された賞が入賞順に与えられる。

2. 全日本選手権ランキングの得点

- 1) 得点は総則〔8〕の2、3（23頁参照）によって与えられる。
- 2) 日本GPロードレース大会については、上記の得点に、さらに3点が加算される。
- 3) 全日本選手権ランキングの順位は上記によって与えられた得点の総合計によって決定される。その詳細は全日本選手権ランキング順位決定方法（94頁参照）に示される。
- 4) 異ったライセンス部門との合同レースの場合でも、全日本選手権ポイントは各ライセンス部門別に与えられる。

3. 賞および得点制限

- 1) 賞および得点の制限は、総則〔8〕3.（23頁参照）による

〔12〕 レース出場車輛

車輛は、付則1〔3〕（29頁参照）を厳守しなければならない。

〔13〕 競技者番号（ナンバー）

- 1) 国際A級部門のライダーには、ライディングNo166に示す通り年間指定ナンバーが割当てられる。
- 2) 他部門のライダーには、主催者によってナンバーが割当てられ、参加受理書に記入して通知される。
- 3) レース・ナンバーは、車輛検査までに、規定の書体および色分けで記入しておかなければならない。
- 4) レース・ナンバーの状態は、車輛検査時に検査員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。
- 5) レース中、ナンバープレートおよび配布されたゼッケンを装着せずに走行、また間違ったナンバーを装着して走行した場合は、その周回は記録されない。

〔14〕 ライダーの装備

- 1) ライダーの服装、ヘルメットおよびゴーグル等は、付則1〔4〕（32頁参照）による。

- 2) レーシングスーツの色は自由であるが3色以上にすることが望ましい。
- 3) レーシングスーツには、ライダー名を一カ所に記入すること。国際A・Bクラスはゼッケンナンバーは記入しなくてもよい。

〔15〕 ガソリンおよびオイル

- 1) ガソリンおよびオイルは総則〔12〕（24頁参照）による。
- 2) ガソリンの銘柄およびその詳細は公式通知に示される。
- 3) 車輛検査および公式予選中は、パドック内の所定の給油区域内においてガソリンの供給を受けなければならない。

〔16〕 ビット割当て

- 1) 各ビットの使用は、公式通知による。

〔17〕 出場受付

- 1) 出場受付の時間および場所は公式通知に示される。
- 2) 定められた時間内に必ず本人が運転免許証（または、自動車安全運転センター発行の運転記録証明書、高等学校発行の免許証保管書）、MFJライセンス、健康管理カード、参加受理書を提示して出場資格の確認を受けなければならない。
- 3) 運転免許証を所持していないものは、原則として出場が認められない。
- 4) MFJライセンスを提示できない者は、理由の如何を問わず原則として出場が認められない。



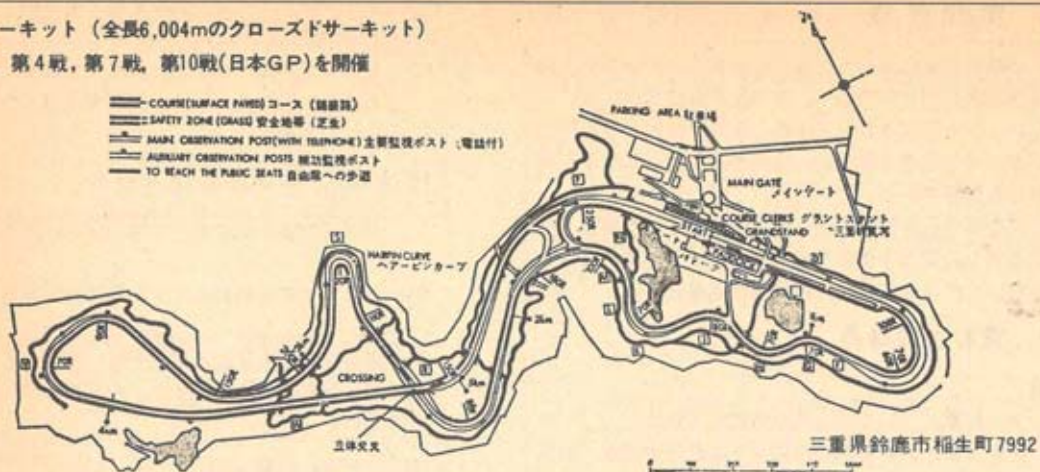
性能、技量ともに伯仲のレースにファンは陶酔する。

ROAD RACE

鈴鹿サーキット (全長6,004mのクローズドサーキット)

第1戦, 第4戦, 第7戦, 第10戦(日本GP)を開催

- COURSE (SURFACE PAVED) コース (舗装路)
- SAFETY ZONE (GRASS) 安全地帯 (芝生)
- MAIN OBSERVATION POST (WITH TELEPHONE) 主要監視ポスト (電話付)
- AUXILIARY OBSERVATION POSTS 補助監視ポスト
- TO REACH THE PUBLIC SEATS 自由席への歩道



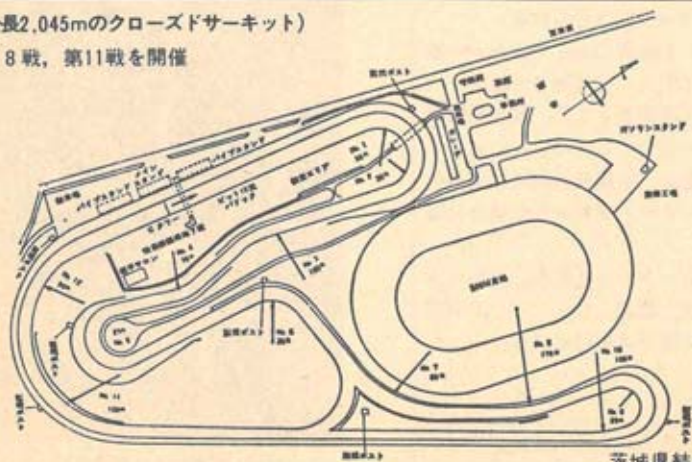
スポーツランド香生 SUGO (全長2,655mのクローズドサーキット)

第3戦, 第6戦, 第9戦を開催



筑波サーキット (全長2,045mのクローズドサーキット)

第2戦, 第5戦, 第8戦, 第11戦を開催



〔18〕 車輛および装備の検査

- 1) 車輛検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールにしたがって、パドック内の車輛検査区域においておこなわれる。
- 2) 車輛検査のための車輛はライダー本人が持参し、必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を済まなければならない。これ以後の検査は大会審査委員会が、不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外はおこなわれない。
- 3) ライダーは改造申告書を提出し、装備品一式の検査を受けなければならない。
- 4) 車輛検査持込み台数はノービスおよび国際B級部門は出場1レースにつき1台に限定、国際A級部門は2台までとする。
- 5) 車輛検査において、規則または安全上出場が不適当と判断された車輛は、公式予選を含むいっさいの走行を拒否される。
- 6) 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車輛検査をおこなうことがある。

〔19〕 ライダーの変更

ライダーの変更は、総則〔14〕(24頁参照)による。

〔20〕 出場車輛の変更

- 1) 車輛の変更は総則〔14〕(24頁参照)による。
- 2) ただし、車輛変更の申請は同部門、同クラスの車輛に限定され、手数料5,000円を添付して大会事務局に申請しなければならない。
- 3) 車輛の変更は、公式予選終了後は如何なる理由があっても認められない。

〔21〕 公式予選

- 1) 公式予選の内容は付則1〔5〕(32頁参照)による。
- 2) 公式予選の日程および時間は公式通知または公式プログラムに示される。

〔22〕 決勝レース出場台数

- 1) 決勝レース出場台数は、開催場所により原則として次の台数以下とする。
 - (1) 鈴鹿サーキット=44台
 - (2) 筑波サーキット=30台
 - (3) スポーツランドSUGO=30台

〔23〕 スタート

- 1) スタート前のウォーミングアップは、役員の指示にしたがい慎重に安全を確認して所定の区域内を、所定の巡回方向で走行しなければならない。
- 2) パドック内においてはウォーミングアップ走行することは禁じられる。
- 3) スタートまでの行動は、付則1〔6〕3.(33頁参照)による。
- 4) スタート2分前の表示が出されたあと、ただちにメカニック、ヘルパーは、所定のスタート区域からコース外へ退去しなければならない。違反したものは罰則が適用される。
- 5) スタートは、付則1〔6〕4.(33頁参照)による。
- 6) スタートでエンジンが始動しないライダーは、審判員の指示にしたがってピットにレーサーを押し入れ、整備後、再び審判員の指示にしたがって、ピットから再スタートすることができる。



互いに健闘をたたえ、ファンの声援に感謝しての“お立ち台”。キミはスターとして歩みはじめることになる。

ROAD RACE

〔24〕 スタートにおける反則

- 1) スタートラインについた車輛およびライダーは、スタート用意からスタート合図がされてスタートが終るまで出発合図の統制下にあり、スタート合図がおこなわれる前に所定の位置から前進したり、あるいはピットクルーがスタートの規制にしたがわなかった場合には、スタート審判員によって反則とみなされる。
- 2) スタートにおいて反則行為をした場合、当該ライダーはレース結果に1分を加算するか、1周の減算か、または失格の罰則が適用される。この場合できるだけ速やかに、ライダーのピットに通告されるが、判定に対する抗議は受けつけられない。

〔25〕 レース

- 1) 走行中の遵守事項は総則〔15〕(24頁参照)による。
- 2) コースは右回りの所定の走路とし、如何なる場合でも逆方向、あるいは、規定外のコースを走行してはならない。これに違反した場合は失格とする。
- 3) レースまたは予選中、グランドスタンド前直線部分では、前車を追越すために、あるいは後車のスリップ・ストリーミングを外す目的以外で、進路を著しく変更することは許されない。この範囲(区間)はイエローラインが設けられたコース直線部分とする。

〔26〕 レース中の合図

- 1) レース中の合図は、総則〔16〕3.(25頁参照)による。
- 2) 赤旗の使用は、コントロールライン上において、競技総監督、または競技総監督の命を受けた代理役員のものに限られる。

〔27〕 停車指示

- 1) レース続行が危険とみなされるライダーまたは車輛について、競技総監督は、大会審査委員会の同意を得てピットインを命じ、あるいはレースから除外することができる。この決定に対する抗議は受けつけられない。
- 2) 天災、大事故等不慮の事態が発生した場合は、競技総監督は、赤旗によって全ライダーに対し、その場に停止を指示することができる。

〔28〕 棄権(リタイア)と停止

- 1) リタイアと停止は、総則〔16〕4.(25頁参照)による。
- 2) ライダー本人が負傷その他の理由でリタイア届を提出できないときは、審判員の判定により、リタイアと認めることができる。
- 3) ピット以外の地域でリタイアする場合、ライダーは車輛をレース(または予選)終了までコース審判員の管理下におかななければならない。ただし、審判員から車輛移動を指示された場合は、これに従わなければならない。
- 4) 車輛を押してピットに帰る場合は必ずコース両サイドのいずれか片側のグリーンを歩くこと。

- 5) コース外側より、作業もしくは工具・部品等の援助を受けてはならない。この場合は失格とされる。

〔29〕 レース終了

各レースの終了は、チェッカー・フラッグによりトップのライダーがゴールインしたのち次の時間を経過したときである。

鈴鹿サーキット 4分間
筑波サーキット、スポーツランドSUGO 2分間

〔30〕 優勝者、入賞者、完走者および順位

優勝者、入賞者、完走者および順位は付則1〔7〕(33頁参照)による。

〔31〕 レース終了後の車輛の保管と再検査

- 1) チェッカー・フラッグを振られた車輛は、所定の位置より役員の誘導にしたがって車輛保管区域へ入らなければならない。
- 2) 上位入賞車輛は騒音測定およびエンジンを分解して排気量を測定するほか、規定を越える改造などについて再検査をおこなうことがある。
- 3) 上位入賞車輛は暫定結果発表後30分以上保管される

〔32〕 レースおよび大会の延期・中止等

- 1) 大会は、原則として本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。
- 2) レースまたは大会が中止された場合、参加者が支払った出場料、保険料は返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

〔33〕 抗議

- 1) 抗議は、総則〔21〕(26頁参照)による。
- 2) 車輛の分解検査に要した費用はその抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車輛の分解等に要した費用は車検長が算定する。

〔34〕 違反に対する罰則

競技規則の違反行為に対する罰則は、総則〔23〕(26頁参照)による。

〔35〕 本規則の解釈

本特別規則および競技に関する疑義は、事務局あて質疑申立てができる。なおこの解答は大会審査委員会の解釈、決定が最終的なものとして示される。

〔36〕 本規則の施行

本規則は、各競技大会の参加申込み受け日より有効となる。なお本規則に示されていない事項はMFJ国内競技規則による。

昭和59年1月1日

大会事務局長

MOTOCROSS



- (1) 適用の範囲..... 67
- (2) モトクロス..... 67
- (3) 出場車輛..... 67
- (4) ライダーの装備..... 69
- (5) 公式予選..... 70
- (6) レース..... 70
- (7) 優勝者、入賞者順位、完走者および得点..... 70

〔1〕 適用の範囲

以下に記す規則は、総則と共にすべての国内モトクロス競技会に適用される。

〔2〕 モトクロス

モトクロスとは、走路面に凹凸、急勾配、走行方向が急変化する等の地形のところで行なわれるクロスカントリー・レースであり、総則およびこの付則により管理される。

〔3〕 出場車輛

車輛は下記の改造の限度と仕様をみだし、安全上完全に整備されているものでなければならない。

なお、改造されて型式（モデル）が判明できないような車輛は出場することはできない。

1. クラス区分

車輛のクラス区分は原則として次のように分けられ、開催種目および運用は特別規則に示される。

クラス	最小総排気量	最大総排気量
50 cc	—	50 cc
80 cc	51 cc	80 cc
125 cc	100 cc	125 cc
250 cc	175 cc	250 cc
500 cc	350 cc	500 cc

2. 改造の限度

競技の公平および安全性に関連して次のような改造の

制限を定める。

1) 国際A級部門の車輛改造の限度

車輛の銘柄型式は制限しない。

改造をおこなう場合は、下記各項に規定されている事項を厳守しなければならない。

(1) 半乾燥重量は下記の最低重量をみだしてはならない。半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料をぬいた車輛重量をいい、分離給油式の場合のエンジン潤滑オイルは燃料とみなす。

① 車輛最低重量は次の通りである。

125cc=88kg 250cc=98kg 500cc=102kg

② 最低重量をみだすためにダミーウェイトを装着してはならない。

(2) 騒音は下記の条件を満たしてはならない。

① 車輛には、有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていなければならない。

② 騒音はFIM方式による測定方法で110db(A)以下でなければならない。

FIM方式とは排気管後方0.5m、後方45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均速度を4ストロークの場合11m/s、2ストロークの場合13m/sでエンジンを回転させているときの騒音を測定する方法をいう。

(3) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

2) 国際B級、ジュニア、ノービス部門の車輛改造限度
車輛は、一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。

その銘柄、型式の詳細は公示に示される。機械加工または仕上げによる修正、調整、軽量化、もしくは形状の変更をおこなう場合は、下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

- (1) 機械的伸長、他の物質の添加または分子構造や金属面に変更をもたらすような処理（焼き入れ等）および材質の変更をしてはならない。
- (2) フレームの基本骨格は公認型式のものでなければならないが、補強等はおこなってもよい。
- (3) 異った機種エンジンの、フレームの組み合わせは公認車種同士に限りおこなうことができる。ただし、小排気量車のフレームと大排気量車のエンジンを組み合わせることはできない。
- (4) クランクケース本体やクランクシャフト・アッセンブリーは公認型式のものでなければならない。
 - ① クランクウェブのバランス穴の充填は認められる。
 - ② ユニット・コントラクション（単体構造）エンジンの場合のクランクケース本体とは変速機部分を含むものとする。
- (5) 変速機のギヤ段数は6段を限度とする。ただし、クランクケースおよびミッションケース外に変速装置をつけ加えてはならない。
- (6) 冷却方式を変更してはならない。
- (7) 弁形式を変更してはならない。
- (8) 燃料吸入方式を変更（フェューエルインジェクターの取り付け等）してはならない。
- (9) 気化器は公認車種時のものを使用しなければならない。
- (10) 半乾燥重量は下記の最低重量をみだしてはならない。
 - ① 半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料をぬいた車輻重量をいう。ただし、分離給油式の場合のエンジン潤滑オイルは燃料とみなす。

- ② 車輻最低重量は次の通りである。
125cc=88kg 250cc=98kg
 - ③ 最低重量をみだすためにダミーウェイトを装着してはならない。
- 01) 騒音は下記の条件をみだしてはならない。
- ① 車輻には、有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていなければならない。
 - ② 騒音はFIM方式による測定方法で、110db(A)以下でなければならない。
FIM方式とは排気管後方0.5m、後方45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4ストロークの場合11m/s、2ストロークの場合13m/sでエンジンを回転させているときの騒音を測定する方法をいう。

02 構成部品

- ① 下記部品はMFJが公認したものでなければならない。
シリンダー、シリンダーヘッド、変速機
- ② 下記部品はMFJに市販届出申請を行ない承認されたものでなければならない。
フロントクッション、リアクッション
- ③ チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

3) Bライセンス部門の車輻改造限度

- (1) 車輻は市販レーサーを除く一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。その銘柄、型式の詳細は公示に示される。
- (2) 変更してもよい部品。

① ハンドルおよびその附属品	④ フートレスト
② コントロール・ケーブルワイヤー類	⑤ シート
③ タイヤ	⑥ 消音器の内部
⑤ フェンダー	⑦ エアクリーナー



オン・タイムでのスケジュール消化。そして熱気あふれる豪快なライディングがあってファンも拡大する。

- ⑨ 点火プラグ
- ⑩ メインスイッチ
- ⑪ ベダル類
- ⑫ スプロケット
- ⑬ チェーンケース

(3) 取りはずさなければならない部品。

- ① スタンド類
- ② キャリア類
- ③ タンデム・フットレスト
- ④ 車輻番号標板(ブラケットごと)
- ⑤ バックミラー
- ⑥ ライト類およびガラス類(ただし、レンズおよびライト類の飛散防止を施せばよい)

(4) 取り付けなければならない部品。

- ① レースナンバープレート
- ② ハンドルレバーエンド

(5) 騒音は下記の条件をみたしていなければならない

- ① 車輻は、有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていないといけない。
- ② 騒音はFIM方式による測定方法で、110db(A)以下でなければならない。

FIM方式とは排気管後方0.5m、後方45度の角度にマイクロフォンを設置、ピストンの平均スピードを4ストロークの場合11m/s、2ストロークの場合13m/sでエンジンを回転させているときの騒音を測定する方法をいう。

(6) 上記、(2)(3)(4)の各項に記された部品以外は一切変更改造をおこなってはならない。

3. 仕様

1) 排気管および消音器

- (1) 車輻は規定の騒音規制値を満足していなければならない
- (2) 排気消音器の長さは後輪後端を通る垂直線より突出してはならない。

2) タイヤ

タイヤチェーン、スパイク等を加工装備してはならない。

3) 過給

過給器を取付けたり過給したりしてはならない。

4) クラッチとブレーキレバーおよびベダル

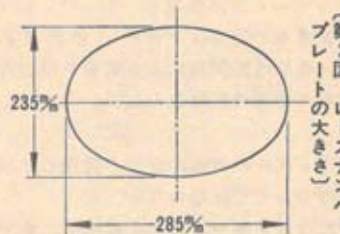
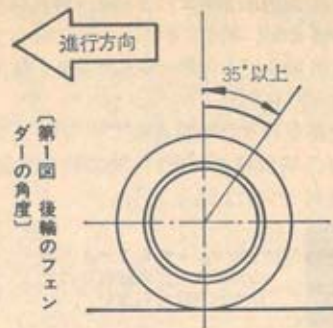
- (1) クラッチレバーおよびブレーキレバーはその末端が直径19mm以上の球状に作られ、容易にとれるものであってはならない。
- (2) ブレーキベダルおよびギヤシフトベダルの位置は自由である。ただしその先端は安全上丸められていなければならない。

5) ブレーキ

前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキをそなえていなければならない。

6) フェンダー

前後車輪には有効なフェンダーが装備されていなければならない。特に後輪はその後部上四半分の上側から35°以上覆われていることが望ましい。[第1図参照]ただし、前輪フェンダーについては、主催者が認めれば取りはずしてもよい。



7) 取りはずさなければならない部品
ライト類、バックミラー、スタンド類、荷台およびチェーンケース(プロダクションのみチェーンケースはこの限りではない)は取りはずさなければならない。

8) レースナンバープレート
(1) ナンバープレートの大きさ
ナンバープレートは、第2図に示す大きさ以上のものでなければならない。

(2) 取り付け方法

ナンバープレートは、車輻の前面に1枚を前向きに、車輻の両側面に各1枚を垂直方向に取り付けなければならない。

(3) ナンバープレートの色分け(12頁参照)

ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通りである。

Bライセンス部門——白地に黒文字

ノービス部門——白地に黒文字

ジュニア部門——黄地に黒文字

国際B級部門——緑地に白文字

国際A級部門125ccクラス——赤地に白文字

国際A級部門250ccクラス——赤地に黄文字

(4) ナンバーの字体

ナンバーの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。角ばった字体や斜体であってはならない。なお蛍光色の文字の使用は禁止する。

9) 他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような構造であってはならない。

[4] ライダーの装備

1. ヘルメット

1) ヘルメットは、日本工業規格JIS T8133-1982-C種及びJIS-T8133-2種(JIS-T8133の1982年8月までの規格)、USA S.I.STANDARD-Z90-1-1970、米国スネル規格1980によって示された検査に合格したか、またはそれ以上の性能を有するジェット型かフルフェイス型のもので、MFJが公認したものでなければならない。

2) MFJの公認したヘルメットには、認証マークが貼付されている。

- 3) 競技会の車輛検査受付時にヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでもライダー本人の安全上使用を禁止される。
- 4) MFJ公認の認証マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料金(1,000円)を支払い、特別検査を受けなければならない。



ヘルメットにはゴールド地の認証マークが貼付されていなければならない。

2. ゴoggles

ガラスを用いたゴogglesの使用はいっさい禁止される。枠は柔軟なもの、または転倒等による衝撃を受けた場合でも危険でないものでなければならない。

3. ライダーの服装

- 1) 服装はレース中ライダーの身体の安全を確保し、操縦技術を妨げるものであってはならない。
- 2) 下半身は皮製または革と同等以上の耐摩耗性、耐熱性を有する材質のズボンを着用しなければならない。
- 3) 上衣は特に規制しないが、安全で自由な動作をさまたげず、丈夫なものを着用しなければならない。
- 4) 突出部のない革、または革と同等以上の性能をもつ手袋および靴を着用しなければならない。
- 5) ライダーは競技会中、合成繊維(ナイロン、テロン等)製の肌着を着用してはならない。

[5] 公式予選

1. 公式予選の日程

- 1) 公式予選は原則として各クラス別におこなわれる。
- 2) 公式予選の日程は特別規則に示される。

2. 公式予選の内容

- 1) そのクラスの出場申込み台数が、規定の同時出走最多台数(30台)を大きく越えた場合、決勝進出者決定のための公式予選がおこなわれる。
- 2) 公式予選は、原則として大会公示に示される周回数のレースによっておこなわれる。
- 3) 決勝進出台数は特別規則に示される。

[6] レース

1. スタート位置

レースにおけるスタート位置の決定方法は特別規則に示される。

2. スタートまでの行動

- 1) ライダーは、特別規則にきめられた時間割りを厳守しなければならない。
- 2) ライダーは、レース直前のチェックの後、車輛とともに指定区域内に待機してなければならない。
- 3) エンジンのウォーミングアップは特別規則にきめられた時間内でおこなわれなければならない。

3. スタート

- 1) スタートの方法については、原則として各部門とも

エンジンランニングスタートとし、その際、必ずヘルメット上部に左手を当てて待機し、スタート合図によりスタートすることとする。

ただし、スターティングマシンを使用する場合は上記の待機姿勢をとらなくてもよい。

- 2) スタート位置は、すべて正規のスタート・ラインからなされるものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップはいっさい考慮されない。
- 3) スターティングマシンが使用される場合は、車輛の位置は原則としてスターティングマシンの後方の区画内とする。
- 4) スタートの合図は、スタート係が国旗を振ることによっておこなわれる。ただし、スターティングマシンを使用する場合はこの限りではない。
- 5) スタート合図以前にスタート・ラインを出たものがあつた場合、すなわちフライングがあつた場合は、スタート・ライン前方において赤旗が振られ、スタートをやりなおす。ただし同一ライダーが2回以上フライングをした場合はそのライダーは失格とする。

4. コースアウト

ライダーは、走行中やむをえず定められたコースを外れた場合、再びコースにもどるにははずれ出た地点より走行し直さなければならない。

5. レース終了

レースの終了は優勝者の完走後、チェッカーフラッグマーシャルが定位置を離れること、または大会役員車がコースを一巡することによって示される。

[7] 優勝者、入賞者順位、完走者および得点

1. 優勝者

優勝者は、規定のレース時間および周回数を最短時間で完走したライダーである。

2. 入賞者および順位の優先順序

入賞者および入賞順位は、チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定され、同周回数の場合はゴールライン通過の順位による。

3. その他の順位の優先順序

- 1) レース終了時までゴールラインに達しない走行中の完走者。
- 2) 完走周回数をまっとうしたのち、リタイアした者。
- 3) 上記以外の者については周回数の多い者を優先する。

4. 完走者

各レースにおいて、優勝者の80%以上の周回数を完了してチェッカーを受けたライダーが完走者である。

5. 得点

- 1) 得点は総則[8]の2.、3.(23頁参照)によって得点が与えられる。
- 2) 選手権シリーズで大会(県、地方、全日本等)の得点は原則として、上記1)によって与えられる。
- 3) レースが2ヒートでおこなわれる場合は、この得点は各ヒート毎に与えられる。

MOTOCROSS

'84全日本選手権大会特別規則

全日本選手権モトクロス大会は、日本モーターサイクル協会(MFJ)公認のもとに、MFJ国内競技規則にしたがい開催される。本特別規則は、1984年度全日本選手権シリーズのすべての大会に適用される。

(1) 開催競技会の日程、名称、主催、開催場所、出場申込み期間.....①	(11) 賞および得点.....⑩	(24) スタート.....⑩
(2) 運営実行組織.....①	(12) 出場車輛.....⑩	(25) レース.....⑩
(3) 公式通知・タイムスケジュール.....②	(13) 競技者番号(ナンバー).....⑩	(26) レース中の合図.....⑩
(4) 開催種目.....①	(14) ライダーの装備.....⑩	(27) レース終了.....⑩
(5) 競技内容.....①	(15) ガソリンおよびオイル.....⑩	(28) 優勝者、入賞者および得点.....⑩
(6) 参加定員.....②	(16) ビットエリア.....⑩	(29) 入賞車輛の検査.....⑩
(7) 参加資格.....②	(17) 出場受付.....⑩	(30) レースおよび大会の延期、中止等.....⑩
(8) 出場申込み.....②	(18) 車輛検査.....⑩	(31) 抗議.....⑩
(9) 出場料、保険料および選手共済費.....②	(19) ライダーの変更.....⑩	(32) レース中の違反行為に対する罰則.....⑩
(10) 参加受理.....②	(20) 車輛の変更.....⑩	(33) 本規則の解釈.....⑩
	(21) 部品の変更.....⑩	(34) 本規則の施行.....⑩
	(22) 自由練習および公式練習.....⑩	
	(23) 公式予選.....⑩	

[1] 開催競技会 (次頁に提示)

[2] 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される。

[3] 公式通知・タイムスケジュール

公式通知およびタイムスケジュールの詳細は、申込み締切り後に発送される。

[4] 開催種目

- 1) 全日本選手権シリーズの競技部門、クラス区分は下記のとおりでである。

部門	ジュニア	国際B級	国際A級
クラス	125cc	125cc	125cc
	250cc	250cc	250cc

- 2) 大会によりノービス部門の競技が併催されるが、ノービス部門は全日本選手権の対象とはならない。

[5] 競技内容

ノービス	10分+2周
ジュニア	15分+2周
国際B級	30分+2周
国際A級	40分+2周

注：上記競技内容は天候等の都合により、大会審査委員会の決定によって変更される場合がある。

[6] 参加定員

定員は定めない。

[7] 参加資格

1. 参加者およびライダー

- 参加者およびライダーは、MFJ国内競技規則、総則[4](22頁参照)に合致していなければならない。
- 国際A級部門のライダーは、昭和59年1月10日までにMFJに登録したクラスにのみ出場することが認められる。

2. 日本GP大会の参加資格

- ジュニア部門。8月5日までの全日本選手権シリーズ大会及び地方選手権シリーズ大会の得点合計で125cc、250cc各クラス上位の者で次に示す人数
北海道=3名 東北=10名 関東=18名 中部=15名 関西=6名 中国=2名 四国=2名 九州=4名
なお主催地方に2名を加える。
- 国際B級部門。7月21、22日の全日本選手権第7戦関西大会までの全日本選手権シリーズ大会において各クラスともランキング上位30名+2名のライダー、30名に満たない場合は主催地方及び隣接地方の選手権シリーズでの上位者。

[8] 出場申込み

- 申込み場所 申込み場所は各主催者住所とする。
- 出場申込み
 - 各部門とも所定の申込み書に必要事項をすべて記

開催競技会の日程、名称、主催、開催場所、出場申込み期間

*全日本選手権シリーズはグランプリを含め下表の10戦をおこなう。

日 程	大 会 名 称	主 催 (出場申込み先)	開 催 場 所	出場申込み期間
3月3日(土) 4日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 関東モトクロス大会 (国際A級2ヒート制)(N地方、選抜大会併催)	関東信越モーターサイクル協会 〒106 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内 ☎03(472)6241	埼玉県川島町 セーフティパーク ク埼玉	2月2日(木) ↓ 2月13日(月) 消印有効
3月24日(土) 25日(日)	全日本選手権シリーズ第2戦 四国モトクロス大会 (国際A級2ヒート制)(N地方大会併催)	MFJ四国地方本部 〒760 香川県高松市西宝町3-11 -7 岡村英樹気付 ☎0878(34)1634	香川県高松市 五色台鬼無サー キット	2月23日(木) ↓ 3月5日(月) 消印有効
4月21日(土) 22日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 中国モトクロス大会 (国際A級2ヒート制)(N地方大会併催)	MFJ西日本スポーツ委員会 〒730 広島県広島市南区松川町3 -19 榎広島英油内 ☎0822(61)8386	広島県三次市 三次総合スポ ツランド	3月21日(水) ↓ 3月31日(土) 消印有効
5月12日(土) 13日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 鈴鹿モトクロス大会 (国際A級2ヒート制)	榊ホンダ鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎0593(78)1111	三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキット モトクロスコー ス	4月12日(木) ↓ 4月23日(月) 消印有効
6月9日(土) 10日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 東北モトクロス大会 (国際A級2ヒート制)(N地方大会併催)	MFJ東北スポーツ委員会 〒980 宮城県仙台市北根1-19- 41 ☎0222(73)0475	宮城県村田町 スポーツランド SUGO	5月9日(水) ↓ 5月19日(土) 消印有効
7月7日(土) 8日(日)	全日本選手権シリーズ第6戦 札幌モトクロス大会 (国際A級2ヒート制)(N地方大会併催)	北海道モーターサイクル協会 〒065 北海道札幌市東区東雁来町 52 ☎011(782)1492	北海道留寿都村 ル ス ツ 高 原 カントリーランド	6月7日(木) ↓ 6月18日(月) 消印有効
7月21日(土) 22日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 関西モトクロス大会 (国際A級2ヒート制)(N地方大会併催)	関西モーターサイクル協会 〒673 兵庫県神戸市西区玉津町居 住67-1 兵庫県軽自動車協会内 ☎078(927)7701	大阪府大東市 オートランド 生駒	8月29日(水) ↓ 9月7日(金) 消印有効
9月1日(土) 2日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 東北モトクロス大会 (国際A級2ヒート制)(N地方大会併催)	MFJ東北スポーツ委員会 〒980 宮城県仙台市北根1-19- 41 ☎0222(73)0475	未 定	8月1日(水) ↓ 8月11日(土) 消印有効
9月15日(土) 16日(日)	全日本選手権シリーズ第9戦 九州モトクロス大会 (国際A級2ヒート制)(N地方大会併催)	MFJ九州地方本部 〒812 福岡県福岡市東区箱崎ふ頭 2-5-16 福岡県軽自動車協会内 ☎092(641)0431	熊本県菊池郡 セーフティパー ク熊本	8月15日(水) ↓ 8月25日(土) 消印有効
10月13日(土) 14日(日)	全日本選手権シリーズ第10戦 第21回モトクロス 日本グランプリ大会 (国際A級2ヒート制)	日本モーターサイクル協会 〒104 東京都中央区銀座1-9-12 西山興業東銀座ビル ☎03(561)8566	三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキット モトクロスコー ス	8月24日(金) ↓ 9月3日(月) 消印有効

入の上、出場料およびMFJ選手共済(通称MFJ保険)費を添えて提出しなければならない。

- (2) 2クラス以上に出場を申込み場合でも、申込み書は1枚でよい。ただし2クラス以上出場に必要な事項をすべて記入すること。
- (3) 郵送の場合は現金書留とし、締切り当日の消印のあるものまでが有効となる。
- (4) 締切り日以降の申込みおよび電話による申込みはいっさい受けつけない。

〔9〕 出場料およびMFJ選手共済費

国際A・B級、 ジュニア	出場料(保険料込み) (2クラス目より)	6,000円 4,000円
併催ノービス 地方大会	出場料(保険料込み) (2クラス目より)	6,000円 4,000円
日本グランプリ 大会	出場料(保険料込み) (2クラス目より)	6,000円 5,000円

(MFJ選手共済費=通称MFJ保険料1,000円を含む)

〔10〕 参加受理

- 1) 必要事項のすべてが明記された出場申込み書、必要金額が大会事務局に受理されたのちに、参加受理書が発送される。
- 2) いったん受理された出場料、共済費はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかった場合も同様である。
- 3) 大会が中止された場合、参加が拒否された場合(申込み者が必要な手続を忘れた場合はこれにはあてはまらない)にのみ出場料、共済費が返還される。

〔11〕 賞および得点

1. 賞および得点

- 1) 高松宮杯
日本GP大会における最優秀ブロックに与えられる。
- 2) その他の賞の詳細は公式通知に示される。
- 3) 全日本選手権ランキングの得点
 - (1) 得点は総則〔8〕2. 3. (23頁参照)によって与えられる。
 - (2) モトクロスGP大会については、上記の得点にさらに3点が加算される。
 - (3) レースが2ヒートでおこなわれた場合は、それぞれのヒート毎に上記の得点が与えられる。
 - (4) 全日本選手権ランキングの順位は、上記によって与えられた得点のすべてが加算され、その合計得点によって決定される。
 - (5) その詳細は全日本選手権ランキング順位決定方法(94頁参照)に示される。
- 4) 賞および得点の制限
賞および得点の制限は、総則〔8〕3. (23頁参照)による。なお国際A級の出走台数は各ヒートのレースの

スタートラインに並んだ台数とする。

2. 日本GP大会における賞の規定

- 1) 最優秀クラブ賞は、MFJ公認クラブで、そのクラブの全入賞者の得点を合計し、最多得点を獲得したクラブに授与される。
- 2) 最優秀ブロック賞、最優秀クラブ賞は、レースごとのライダーの最高得点を集計して与える。

〔12〕 出場車輛

車輛は付則2〔3〕(67頁参照)を遵守しなければならない。

〔13〕 競技者番号(ナンバー)

- 1) 国際A級および国際B級の一部(20番まで)のライダーには、年間指定ナンバーが割当てられる。
- 2) 他のライダーには、主催者によってナンバーが割当てられ、参加受理書に記入して通知される。
- 3) ナンバーは、車輛検査までに、規定の書体および色で記入しなければならない。(12頁参照)
- 4) 年間指定ナンバーを与えられているライダーは、ヘルメットの両側にナンバーを記入しなければならない。
- 5) ナンバーの状態は、車輛検査時に車検員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要



ヘルメットの側面に貼られたナンバー

求される。

- 6) レース中、ナンバープレート、配布されたゼッケンおよびヘルメットナンバーシールを装着せずに走行した場合、また、間違ったナンバーを装着して走行した場合はその周回は記録されない。
- 7) 雨天の場合、すべてのライダーはヘルメットの両側にナンバーを記さなければならない。

〔14〕 ライダーの装備

- 1) ライダーの服装等は、付則2〔4〕3. (69頁参照)による。
- 2) MFJ認証マークが貼付されていない公認ヘルメットを使用しているものについては、特別検査料金(1,000円)を支払わなければならない。

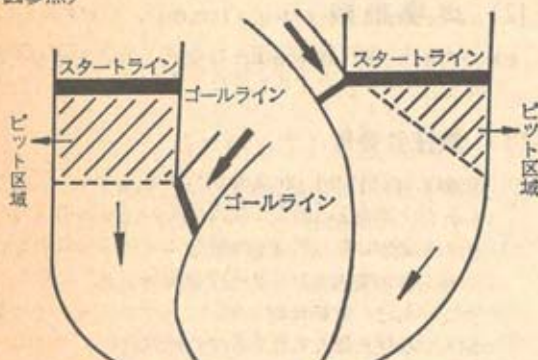
〔15〕 ガソリンおよびオイル

- 1) ガソリンおよびオイルは、総則〔12〕(24頁参照)による。
- 2) ガソリンの銘柄およびその詳細が公式通知によって

主催者から指定された時は、当該ガソリンを使用しなければならない。

[16] ピットエリア

ピットエリアは主催者により指定される。特に指定のない場合のピットエリアはスタートラインからゴールラインまでの周回走行にさしつかえないコース上である。(第1図参照)



[第1図 ピットエリア (区域)]

[17] 出場受付

- 1) 出場受付の時間および場所は公式通知に示される。
- 2) 定められた時間内に、必ずライダー本人が出頭し運転免許証(または自動車安全運転センター発行の運転記録証明書, 高等学校発行の免許証保管書), MFJライセンス, 健康保険証, 参加受理書を提示して, 出場資格の確認を受けなければならない。
- 3) 運転免許証(または自動車安全運転センター発行の運転記録証明書, 高等学校発行の免許証保管書)を所持していない者は, 原則として出場を認められない。
- 4) MFJライセンスを提示できない者は, 理由のいかんを問わずペナルティ料金(3,000円)を支払い, さらにその場でMFJ登録料, ライセンス料を支払い仮登録しなければならない。なお, 後日MFJ事務局において二重登録と判明した場合には, 仮登録の料金は本人宛返還される。

[18] 車輛検査

- 1) 車輛検査は, 公式通知に示されたタイムスケジュールにしたがって, パドック内の車輛検査区域においておこなわれる。
- 2) 車輛検査のための車輛はライダー本人が持参し, 必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を済まさなければならない。規定時間以後の車輛検査は, 大会審査委員会が不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外はおこなわれない。
- 3) 車輛検査持込み台数は1クラスにつきノービス(地方大会), ジュニアおよび国際B級部門は1台に限定, 国際A級部門のライダーは制限を設けない。
- 4) 車輛検査において, 規則または安全上出場が不適当

と判定された車輛は, 公式予選を含む一切の走行を拒否される。

- 5) 主催者は, 大会期間中, 必要に応じて随時車輛の検査をおこなうことができる。

[19] ライダーの変更

ライダーの変更は認められない。

[20] 車輛の変更

出場登録した車輛の変更は許されない。

破損など止むを得ず出場登録済の車輛を変更する必要がある場合は, 規定の書式にしたがって車輛の変更申請をおこない, 競技総監督がこれを認めた場合に限り車輛の変更が認められる。

- 1) 車輛変更の紛争に際して, 銘柄についての立証の責任は参加者側にあるものとする。
- 2) その他, 特別規則に示される。
- 3) 車輛変更申請は, 同部門, 同クラスの車輛に限定され, 手数料5,000円を添付しなければならない。
- 4) 車輛の変更は, 公式予選終了後は如何なる理由があっても認められない。
- 5) 2ヒート・システムの場合, 第1ヒート目と第2ヒート目の車輛の変更は認められない。

[21] 部品の変更

- 1) エンジン・アッセンブリーの変更は認められない。
- 2) 2ヒートの場合, 第1ヒート終了後すべての出走車輛は封印される。なお, 封印された部品以外のものの交換は許される。封印する場所はクランクケースの接合部分。

[22] 自由練習および公式練習

- 1) 競技前日の走行練習は禁止される。
- 2) ライダーは安全確保のためにも主催者が設けた公式練習に参加し, 走行しなければならない。

[23] 公式予選

- 1) 公式予選の内容は付則2[5](70頁参照)による。
- 2) 公式予選の有無, 周回数, 決勝進出台数, その他の詳細は公式通知またはプログラム等に表示される。
- 3) 公式予選の組分けは公式練習終了以前に発表される。

[24] スタート

1. スタートの方法

- 1) 原則として各部門ともスターティングマシンを使ったエンジンランニングスタートとする。
- 2) ただしスターティングマシンを使用しないエンジンランニングスタートの際は, 必ずヘルメット上部に左手を当てて待機し, スタート合図によりスタートすることとする。

2. スタート台数

原則として30台とする。

3. 予選レースのスタート位置の決定方法

スタート順位は抽選により決められ、スタート位置は自由選択とする。

4. 決勝レースのスタート位置の決定方法

スタート順位は、下記の要領にて決められ、スタート位置は自由選択とする。

- 1) タイムトライアルによるタイム順
 - 2) タイムトライアルがない場合は抽選による。
 - 3) 2ヒート制の場合、第1ヒートのスタート位置は上記による。
 - 4) 2ヒート制の場合、第2ヒートのスタート位置は第1ヒートの結果による。
5. エンジンのウォーミングアップは主催者の指示する時間内に限られる。
6. ウォーミングアップ以後、スタート係によってスタートのためのエンジン始動の合図がなされた後は（キックスタートの場合は、エンジン停止の合図がなされた後）ライダーからタイムのサインがあっても、スタート係はこれを考慮しない。

〔25〕 レース

- 1) レース中の遵守事項は総則[15] (24頁参照)による。
- 2) ビットエリア内で車輛の整備などをおこなえるメカニックは2名に限られる。
- 3) レース中、消音器またはエキシパンションチャンバーがはずれた場合は、競技役員より当該ライダーに対して黒旗が示され、ビットインし、修理の後、審判長の許可を得た上で再出走が認められる。

〔26〕 レース中の合図

- 1) レース中の合図は総則[16]3. (25頁参照)による。
- 2) 競技内容に示されている規定の時間を経過した後、トップのライダーがゴール地点に現われた時点から、残り周回数を示す合図が出される。

〔27〕 レース終了

レースの終了は付則2〔6〕5. (70頁参照)による。

〔28〕 優勝者、入賞者および得点

1. 各レースにおける優勝者、入賞者、完走者および順位は、付則2〔7〕 (70頁)による。
2. 2ヒートシステムの総合順位決定方法。
 - 1) 各ヒートごとに次の得点が与えられる。1位20点、2位17点、3位15点、4位13点、5位11点、6位10点、7位9点、8位8点、9位7点、10位6点、11位5点、12位4点、13位3点、14位2点、15位1点
 - 2) 総合順位決定は、①合計得点の多いもの、②合計周回数の多いもの、③着順上位のあるもの、④2ヒート目の成績にしたがっておこなわれる。

〔29〕 入賞車輛の検査

- 1) レース終了後、入賞となった車輛は、直ちに車検員

によって決められた区域内に管理され、暫定結果発表後30分間保管され、必要に応じて検査される。

- 2) 入賞車輛は車輛重量および騒音が測定され、規定をみたしていない車輛は失格となる。

〔30〕 レースおよび大会の延期、中止等

- 1) 大会は、本規則に発表した日程を変更または延期されることはない。
- 2) レースまたは大会が中止された場合、参加者が支払った出場料、共済費は返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

〔31〕 抗議

- 1) 抗議は、総則[21] (26頁参照)による。
- 2) 車輛の分解検査に要した費用はその抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車輛の分解等に要した費用は車検長が算定するものとする。
- 3) 車輛の分解検査に立合う者は、車検長および抗議を受けた当事者のみとする。

〔32〕 レース中の違反行為に対する罰則

レース中の違反行為については、競技総監督ならびに大会審査委員会がその権限において違反の軽重を判定、下記の罰則を課することがある。

- 1) 故意に走路を妨害した場合、失格とする。
- 2) レース中に他の援助を受けた場合、失格とする。
- 3) コース上で逆走した場合、失格とする。
- 4) コース審判により示された信号旗にしたがわなかった場合失格とする。
- 5) 1度コース外に出て他の所より再びレースに復帰した場合、1周減算または失格とする。
- 6) ウォーミングアップ中止後、役員の手許なくエンジンを始動させた場合、1周減算とする。
- 7) フライングスタートが確認された場合、黒旗をもってその旨ライダー本人に通告される。黒旗で合図されたライダーは、その場で1分間停止し、競技役員の手許によって再スタートする。
- 8) 同一ライダーがフライングを2度繰返した場合はそのライダーは失格とする。

〔33〕 本規則の解釈

本規則および競技に関する疑義は、大会事務局あて質疑申立てができる。なお、この解答は大会審査委員会の決定を最終的なものとする。

〔34〕 本規則の施行

本規則は出場申込み受付日より有効となる。
なお、本規則に示されていない事項は、MFJ国内競技規則による。

昭和59年1月1日

大会事務局長

TRIAL



- [1] トライアル……………76
- [2] 適用の範囲……………76
- [3] 賞……………76
- [4] 出場車輛……………76
- [5] ライダーの装備……………77
- [6] コース……………77
- [7] セクション……………78
- [8] タイムキーピング……………78
- [9] 競技の進行……………78
- [10] ペナルティ……………79
- [11] ペナルティの定義……………79
- [12] 競技結果……………79
- [13] 同点者の判定……………79
- ★トライアルタイヤ公認規格……………78

[1] トライアル

(オブザベーション・トライアル)

トライアルとは、自然の地形を利用してさまざまな走行条件を設定し、これを採点区間として定められた時間内に走破することで操縦技術の信頼性を試す競技である。大会は1日または2日以上にわたっておこなわれ、採点区間の成績とタイムキーピングによりその結果が表わされる。

[2] 適用の範囲

以下に記す規則は、総則と共にすべての国内トライアル競技会に適用される。

[3] 賞

原則として次の通り賞を定める。

- 1) 優勝=ベストパフォーマンス (BP)
出場者中最も減点の少ない者
- 2) 2位=ランナーアップ (RU)
二番目に減点の少ない者
- 3) ファーストクラス 優勝, 2位を含む上位20%の者
- 4) セCONDクラス 次の上位10%の者

注: セCONDクラスとは全出場者の上位30%のうち、上記の1), 2), 3)を除いた者。

[4] 出場車輛

出場車輛(以下車輛という)は下記の改造の限度と仕様をみだし、安全上完全に整備されているものでなければならない。なお、改造されて型式(モデル)が判明できない

ような車輛は出場することができない。

1. 競技が一般公道を使用する場合の車輛の改造限度
車輛は、運輸省認定車で、車輛保安基準に合致したものでなければならない。また一般公道を走れる状態のもので、次の保安部品を装着していなければならない。
登録番号プレート、ライト、スピードメーター、クラクション、フラッシャーランプ、バックミラー、ブレーキランプ、消音器等。なおガラス類には飛散防止策を施さなければならない。
2. 競技が一般公道を使用しない場合の車輛の改造限度
出場車輛の銘柄、型式は規定しない。
 - 1) 国際A級部門, 国際B級部門
改造の仕上げ、調整をする場合は、下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。
 - (1) 車輛の騒音はMFJ方式による測定方法で、80 db(A)以下でなければならない。
MFJ方式とは、排気管後方15m、地上1.2mの位置にマイクロフォンを設置し、排気量別に下記の回転数でエンジンを回転させているときの静止騒音を測定する方法をいう。

最小排気量	最大排気量	回転数
—	80 cc	6,000 rpm
81 cc	125 cc	5,500 rpm
126 cc	250 cc	5,000 rpm
251 cc	500 cc	4,500 rpm
501 cc	—	4,000 rpm

(2) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

2) ジュニア部門、ノービス部門

車輛は国内および国際的に市販されているモーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。なお、輸入車輛にあってはMFJに申請しなければならない。その銘柄、型式の詳細は公示に示される。改造の仕上げ、調整をおこなう場合は、下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

(1) 騒音はMFJ方式による測定方法で80db(A)以下でなければならない。

MFJ方式とは、排気管後方15m、地上1.2mの位置にマイクロフォンを設置し、排気量別に下記の回転数でエンジンを回転させているときの静止騒音を測定する方法をいう。

最小排気量	最大排気量	回転数
—	80cc	6,000rpm
81cc	125cc	5,500rpm
126cc	250cc	5,000rpm
251cc	500cc	4,500rpm
501cc	—	4,000rpm

(2) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

3. 仕様

1) 排気管および消音器

排気管および消音器は規定の騒音規制値を満足していなければならない。

2) タイヤ

(1) タイヤはMFJに公認申請をおこない、承認されたものでなければならない。

ただし、国際A級および国際B級部門はMFJ公認規格に合致していれば、この限りではない。

(2) タイヤに改造を加えてはならない。

(3) タイヤにチェーン、スパイク等を加工装備してはならない。

3) クラッチおよびブレーキレバー、ペダル

(1) クラッチレバーおよびブレーキレバーはその末端が直径19mm以上の球状に作られ、容易にとれるものであってはならない。

(2) ブレーキペダルおよびギアシフトレバーの位置は自由である。ただし、その先端は安全上丸められていなければならない。

4) ブレーキ

前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを備えていなければならない。

5) フェンダー

前後輪には有効なフェンダーが装備されていなければならない。

4. 競技用ナンバープレート

競技が一般公道を使用しない場合、競技用ナンバー

プレートを装着しなければならない。

1) ナンバープレートの寸法

ナンバープレートは第1図に示す大きさのものでなければならない。

2) 取り付け方法

ナンバープレートは1枚を車輛の前面に見えやすいように前向きに取りつけなければならない。

3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次のとおりである。

ノービス部門——白地に黒文字

ジュニア部門——黄地に黒文字

国際B級部門——緑地に白文字

国際A級部門——赤地に白文字

4) ナンバープレートの字体

ナンバープレートの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。正しい書体は12頁に示す。

(第1図 ナンバープレート)



なお、国際A級および国際B級部門については第1図に示すようにプレート下部に記名しなければならない。

5) 他のライダーに迷惑をおよぼすような構造をしてはならない。

[5] ライダーの装備

1. ヘルメット

1) ヘルメットは、日本工業規格JIS T8133-1982のA種、および同JIS T8133の1種(JIS T8133の1982年8月までの規格)以上のもので、MFJが公認したものでなければならない。

2) MFJの公認したヘルメットには認証マークが貼付されている。

3) 競技会の車輛検査受付時にヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでもライダー本人の安全上使用を禁止される。

4) MFJ公認の認証マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料(1,000円)を支払い、特別検査を受けなければならない。

2. ライダーの服装

1) 服装は、下半身は長ズボン、上半身は長袖でなければならない。

2) 手袋および足首以上を保護する突出部のない皮靴またはゴム長靴を着用しなければならない。

[6] コース

コースには次のコースマークが設定される。

- (1) 右折 (ターンライト) 赤いカードに "R" の黒字
- (2) 左折 (ターンレフト) 青いカードに "L" の黒字
- (3) 直進 (ストレート・オン)

白いカードに "S O" の黒字

- (4) 一般公道を使用する場合は、上記カードの他に、交差点の手前50mに進行方向を予告するカードが設定される。

〔7〕 セクション

1) セクションの表示

セクションは次のセクションカードおよびテープで表示される。

- (1) 入口
 - 右側 赤地にセクションナンバー
 - 左側 青地に "Section Begins" または "IN"
- (2) 途中
 - 右側 赤いカード
 - 左側 青いカード
- (3) 出口
 - 右側 赤地にセクションナンバー
 - 左側 青地に "Section Ends" または "OUT"

2) セクションの幅

- (1) セクションの横幅はできる限り自然の障害物で制限されるが、カードによって制限する場合は1.2m以上なければならない。
- (2) 同じ側のカードとカードの間を迂回することはできない。
- (3) 採点区間

セクションにおける採点は、前輪のスピンデル (車軸) がセクション入口のカードを過ぎた時点から開始され、前輪のスピンデルがセクション出口のカードを過ぎた時点で終了する。

〔8〕 タイムキーピング

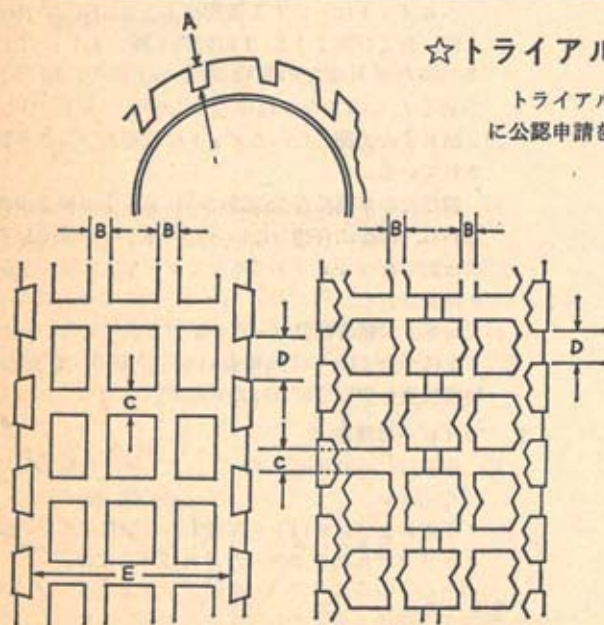
- 1) ライダーは、原則としてあらかじめ抽選で決められた順序により、1分間隔でスタートする。ただし同時スタートの場合はこの限りではない。
- 2) 決められたスタート時刻に遅れたライダーは失格となり、スタートすることができなくなる。
- 3) コース走行時の平均速度は原則として20km/h以下とする。
- 4) ライダーには全コースを走破するための時間が与えられ、これに遅れてゴールしたライダーは失格となる。
- 5) 全コースを走り終えたライダーはゴール地点でチェッカーを受け、タイムチェックを受けなければならない。

〔9〕 競技の進行

- 1) スタートの合図を受け、初めてエンジンを始動させることができる。
- 2) タイムキーピングを採用した場合、各セクションへのライダーの進入順序は自由であるが、オブザーバーによって指示された場合はこれにしたがわなければならない。
- 3) セクション間の移動はコースマークにしたがっておこなわなければならない。
- 4) ライダーはセクションに入る準備ができ次第、手を上げてオブザーバーに合図しなければならない。
- 5) オブザーバーの指示により、速かにセクションに入らなければならない。
- 6) セクション内でフルペナルティ (減点5点) を受けたライダーは、速かにセクション外へ車輛を移動させなければならない。

☆トライアルタイヤ公認規格

トライアル競技に使用するタイヤは下記各項をみだし、MFJに公認申請を行ない、承認されたものでなければならない。



A: トレッドの深さ

トレッド面に直角に測って13mm以内であること。同一円周のすべてのスタッドの深さは同一であること。

B: トレッドの幅

タイヤの幅方向では9.5mm以内であること。

C: トレッドの幅

タイヤの円筒方向では13mm以内であること。

D: 肩部スタッドのスペース

22mm以内であること。

E: トレッドのさしわたし寸法

タイヤウォールに直角に測った場合、タイヤの全幅に及んでいてはならないが、スタッドによって中断されている場合はこの限りではない。

- 7) ライダーはセクション内で一切の援助を受けてはならない。ただし、フルペナルティを受けたライダーはこの限りではない。
- 8) 競技中、車輛の整備はライダー自身でおこなわなければならない。これに違反した場合は失格となる。
- 競技中、事故を起した場合や車輛の故障等の理由で競技続行が不可能な場合は、速かに役員に申し出なければならない。

〔10〕ペナルティ

- 1) セクションにおける減点は0-1-2-3-5-10点とする。
- | | |
|-------------|-------|
| (1) クリーン | 0点 |
| (2) 足つき1回 | 1点減点 |
| (3) 足つき2回 | 2点減点 |
| (4) 足つき3回以上 | 3点減点 |
| (5) 失敗 | 5点減点 |
| (6) 放棄 | 10点減点 |
- 2) タイムキーピングによるペナルティは次のとおり課せられる。
- | | |
|-----------------------|----|
| (1) 予定されたスタート時間に遅れた場合 | 失格 |
| (2) ゴールタイムチェックの遅れ | 失格 |
- 3) ライダーの不適切な行為に対するペナルティは次のとおり課せられる。
- | | |
|------------------------------|--------|
| (1) 役員に対する不適当な態度 | 100点減点 |
| (2) セクションにおいて役員の手指示に従わなかった場合 | 10点減点 |
| (3) 定められたコースを不適当にカットした場合 | 50点減点 |

注：上記に関してさらにセクション放棄の減点が加算される。

〔11〕ペナルティの定義

セクションにおけるペナルティの定義は次のとおりとする。

- 1) 足つき
- (1) ライダーの身体のどの部分でも地面に着地した場合。
 - (2) 車輛およびライダーのどの部分でも、立木、岩または土の壁面等の障害物にもたれかかった場合。
- 2) 失敗
- (1) 停止=前輪が前進を止めた場合。なお足をつかなかった場合は停止としない。ただし、ライダーが支えなくても、それ以上車輛が姿勢を変えない状態になった場合は停止とする。
 - (2) 降車=ライダーが車輛から離れる状態になった場合。
 - (3) クロス=ライダー自身の車輛のわだちちに再び触れたり、これを踏みつけたり、越えたりした場合。
 - (4) マーカー移動=セクションを表示するものを車輛で破損または移動させた場合。
 - (5) セクション・アウト=車輛の前輪・後輪のいずれか一方でもセクションを表示するものの外側を通過した場合。または迂回した場合。
 - (6) 援助=第三者の援助を受けた場合。
- 3) 放棄
- (1) セクションを走行しなかった場合。

〔12〕競技結果

- 1) 総減点数の少ないものから順位を定める。
- 2) ワンディトライアルの場合は、原則として当日の競技結果の発表を公式とする。
- 3) 2日以上にわたって競技が行なわれる場合は、競技終了日より一週間以内に公式結果が発表される。

〔13〕同点者の判定

- 1) 同点者の判定は、次の判定順序に従っておこなう。
 - (1) クリーン数の多い者を上位とする。
 - (2) 1点減点の多い者を上位とする。
 - (3) 2点減点の多い者を上位とする。
 - (4) 3点減点の多い者を上位とする。
 - (5) 以上によって決定できない場合は同位とする。
- 2) 主催者の権限によりスペシャルステージ等で判定する場合もある。

●トライアルの減点は0-1-2-3-5-10

時間厳守とフェアプレーの精神で

減点ゼロ
おみごと/
クリーンです減点1
残念、
足つき1回減点2
無念なり、
足つき2回減点3
足バタバタ
3回以上減点5
ミスりました。
失敗です

トライを放棄すれば減点10/ それ、ゴー

TRIAL

'84全日本選手権大会特別規則

全日本選手権トライアル大会は、日本モーターサイクル協会(MFJ)公認のもとに、MFJ国内競技規則にしたがい開催される。本特別規則は、1984年度全日本選手権シリーズのすべての大会に適用される。

[1] 開催競技会の日程、名称、主催、開催場所、出場申込み期間	⑩	[8] 賞および得点	①	[18] ゴール	④
[2] 公式通知、タイムスケジュール	⑩	[9] 出場車輛	②	[19] 車輛保管	⑤
[3] 開催種目	⑩	[10] 競技者番号(ナンバー)	②	[20] 競技会の延期、中止およびうち切り	⑤
[4] 運営実行組織	⑩	[11] ライダーの装備	②	[21] 抗議	⑤
[5] 参加者およびライダー	⑩	[12] ガソリンおよびオイル	②	[22] 参加者の遵守事項	⑤
[6] 出場申込み	⑩	[13] 出場受付	②	[23] 本規則の違反、裁定	⑤
[7] 出場料およびMFJ選手共済費	⑩	[14] 車輛検査	②	[24] 本規則の解釈	⑤
		[15] ライダー	②	[25] 本規則の施行	⑤
		[16] 練習	②		
		[17] スタート	②		

[1] 84年度の開催競技会(次頁参照)

[2] 公式通知、タイムスケジュール

公式通知およびタイムスケジュールの詳細は、申込み締切り後に発送される。

[3] 開催種目

1. トライアル(オブザベーション・トライアル)

付則3[1](76頁)参照。

- 1) 全日本選手権の対象部門は、国際A級部門および国際B級部門とする。ただし、大会当日ジュニア部門の地方大会が併催されることもある。
- 2) セクション数およびタイムキーピングの方法については、公式通知に示される。
- 3) 日本グランプリ(GP)大会はジュニア部門選抜競技がおこなわれる。

[4] 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される。

[5] 参加者およびライダー

1. 参加資格

- 1) 1984年版MFJ国内競技規則、総則[4](22頁)に合致していなければならない。
- 2) 日本GP大会以外の大会では、国際A級部門および国際B級部門のみとする。ただし地方大会として併催されるジュニア部門はこの限りではない。

3) 日本グランプリ大会の参加資格

- (1) ジュニア部門。9月16日までの各地方選手権ランキング上位の者で次に示す順位の者。

北海道=4位 東北=8位 関東=20位
中部=10位 北陸=3位 関西=10位
中国=3位 四国=5位 九州=10位

- (2) 国際B級部門。9月16日までの各地方選手権ランキング上位の者で次に示す順位の者。

北海道=4位 東北=10位 関東=15位
中部=15位 北陸=3位 関西=15位
中国=5位 四国=5位 九州=10位

注：地方選手権シリーズには、大会ごとに総則[8](23頁参照)に示された得点が与えられ「全日本選手権ランキングの決定の方法」(94頁参照)に準じて地方選手権ランキングが決定される。(他ブロックに所属する者にも得点は与えられ参加した地方選手権ランキング成績として認められる。)

例：関東に所属するライダーが中部選手権シリーズ戦に得点を取り、中部選手権ランキング上位10位(国際B級は15位)に入れば、中部としての参加資格が得られる。

[6] 出場申込み

1. 全日本選手権シリーズ大会出場申込み書(ジュニア部門の地方大会併催、日本GP各地方選抜者用も含む)に必要事項を記入の上、出場料およびMFJ選手共済費を添えて提出しなければならない。

2. 参加定員

- 1) 特に定めないが、併催ジュニア部門については主催者の判定により制限される場合がある。

開催競技会の日程、名称、主催、開催場所、出場申込み期間

'84全日本選手権シリーズはグランプリを含め下表の9戦でおこなう。

日程	大会名称	主催(出場申込み先)	開催場所	出場申込み期間
2月26日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 中部トライアル大会	MFJ中部トライアル委員会 〒470-01 愛知県愛知郡東郷町諸輪 字東脇59-99 鈴木唯一気付 ☎05613(8)0736	岐阜県 土岐トライアル場	1月27日(金) ↓ 2月6日(月) 消印有効
3月18日(日)	全日本選手権シリーズ第2戦 関西トライアル大会	MFJ関西トライアル委員会 〒675 兵庫県加古川市野口町良野 261-3 山本レーシングサービス内 ☎0794(23)2335	奈良県 生駒バイアルス パーク (旧生駒テック)	2月17日(金) ↓ 2月27日(月) 消印有効
4月8日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 四国トライアル大会	MFJ四国トライアル委員会 〒780 高知県高知市潮新町2-38 -10 ライダーハウス内 ☎0888(31)4848	高知県 正蓮寺オートラ ンド	3月9日(金) ↓ 3月19日(月) 消印有効
5月6日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 九州トライアル大会	MFJ九州トライアル委員会 〒834 福岡県八女市大字吉田1328 内野徳助気付 ☎09432(4)3629	福岡県 久留米市山本砦 石場跡	4月6日(金) ↓ 4月16日(月) 消印有効
6月3日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 関東トライアル大会	MFJ関東トライアル委員会 〒108 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内 ☎03(472)6241	栃木県 鶏頂山スキー場	5月4日(金) ↓ 5月14日(月) 消印有効
6月24日(日)	全日本選手権シリーズ第6戦 北陸トライアル大会	MFJ北陸トライアル スポーツ委員会 〒930 富山県富山市藤木521-1 富山県軽自動車協会内 ☎0764(24)6420	富山県 牛岳スキー場	5月25日(金) ↓ 6月4日(月) 消印有効
7月22日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 北海道トライアル大会	北海道モーターサイクル協会 〒065 北海道札幌市東区東雁来町 52 ☎011(782)1492	夕張市 マウントレース イ国際スキー場	6月22日(金) ↓ 7月2日(月) 消印有効
9月16日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 東北トライアル大会	MFJ東北トライアル委員会 〒982 宮城県仙台市長町3-3-9 ホンダ宮城販売株内 大友克人気付 ☎0222(47)0123	山形県 栗子国際スキー 場	8月17日(金) ↓ 8月27日(月) 消印有効
11月4日(日)	全日本選手権シリーズ第9戦 第12回日本グランプリ トライアル大会	日本モーターサイクル協会 〒104 東京都中央区銀座1-9-12 西山興業東銀座ビル ☎03(561)8566	静岡県 日本ランド	9月25日(土) ↓ 10月5日(金) 消印有効

2) 日本グランプリ大会については参加資格に示された
選抜規定による。

〔7〕 出場料およびMFJ選手共済費

出場料：国際A級部門 7,000円
国際B級部門 6,000円
ジュニア部門(地方大会併催時) 6,000円
(MFJ選手共済費200円を含む)

〔8〕 賞および得点

1. 賞

1) 付則3. トライアル規則〔3〕(76頁参照)にもとづいて授与される。

その他の賞の詳細は公式通知に示される。

2) 国際A級、及び国際B級部門全日本ランキングの得点。

(1) 得点は総則〔8〕の1.、2. (23頁参照)によって与えられる。

(2) 日本グランプリトライアル大会については、上記の得点にさらに3点が加算される。

(3) 全日本選手権ランキングの順位は、上記によって与えられた得点のすべてが加算され、その合計得点

によって決定される。

- (4) その詳細は全日本選手権ランキング順位決定方法(94頁参照)に示される。

[9] 出場車輛

車輛は、付則3[4]2.および3.(76, 77頁参照)を遵守しなければならない。

[10] 競技者番号(ナンバー)

- 1) 国際A級、国際B級部門のライダーには年間指定ナンバーが割当てられる。(ライディング'84年3月号=No.166号参照)
- 2) 併催する他部門のライダーには主催者によってナンバーが割当てられ、参加受理書に記入して通知される。
- 3) 主催者から特に指示がない場合は、車輛検査までに規定の書体および色分けてナンバーを記入しなければならない。
- 4) ナンバーの状態は、車輛検査時に車検員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。
- 5) 競技中、ナンバープレートおよび配布されたゼッケンを装着せず、また間違ったゼッケンを装着して走行した場合は、そのトライは記録されない。

[11] ライダーの装備

ライダーの服装、ヘルメットは、付則3[5](77頁参照)



競技の公平と安全を確保するのが車輛検査だ。

による。

[12] ガソリンおよびオイル

- 1) ガソリンおよびオイルは総則[12](24頁参照)による
- 2) ガソリンの銘柄およびその詳細が公式通知によって主催者から指定された場合は、当該ガソリンを使用しなければならない。

[13] 出場受付

- 1) 出場受付の時間および場所は公式通知に示される。
- 2) 出場受付は、定められた時間内に、かならずライダー本人が出頭し、運転免許証(または、自動車安全運転センター発行の運転記録証明書、高等学校発行の免許証保管書でも可)、MFJライセンス、健康保険証、参加受理書を提示して、当日の出場資格を確認しなければならない。
- 3) 運転免許証(または、自動車安全運転センター発行の運転記録証明書、高等学校発行の免許証保管書でも可)を所持していない者は原則として出場が認められない。
- 4) MFJライセンスを提示できない者は、理由の如何を問わずペナルティ料金(3,000円)を支払い、更にもその場でMFJ登録料、ライセンス料を支払い、仮登録しなければならない。

なお、後日MFJ事務局において二重登録と判明した場合には、仮登録の料金は本人宛返還される。

[14] 車輛検査

- 1) 車輛検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールにしたがって、競技開始前にパドック内の車輛検査区域においておこなわれる。
- 2) ライダーはタイムスケジュールに示された時間内に、必ずライダー本人が車輛を持参し車輛検査を受けなければならない。規定時間以後の検査は、大会審査委員会が不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外はおこなわれない。
- 3) 車輛検査への持込み台数は1台に制限される。
- 4) 車輛検査において、規則または安全上出場が不適当と判定された車輛は、一切の走行を拒否される。
- 5) 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車輛の検査をおこなうことがある。

[15] ライダー

- 1) ライダーおよび出場車輛の変更は原則として認められない。ただし総則[14](25頁参照)に該当する場合は出場受付終了以前に手数料5,000円を添えて申請し、チーフオブザーバーの許可を受けなければならない。

[16] 練習

大会当日コースおよびセクションのいかなる場所においても練習は禁止される。これに違反したライダーは失格とする。

〔17〕 スタート

- 1) 原則として、スタート順位は抽選によって決められる。
- 2) 決められたスタート時刻に遅れたライダーは失格となり、スタートすることができなくなる。

〔18〕 ゴール

ライダーには持時間が決められ、ゴール時間に遅れたライダーは失格とする。

〔19〕 車輛保管

- 1) 車輛検査後スタートまで、またゴール後主催者から保管解除の通知があるまで、指定された区域に保管される。
- 2) 入賞車は、暫定結果発表後原則として30分以上保管され、必要に応じて検査される。

〔20〕 競技会の延期、中止およびうち切り

- 1) 大会は、原則として本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。
- 2) 大会は、大会審査委員会が、特別な理由によって競技の延期または放棄しなければならないと判断したときに限り競技を延期または中止される。
- 3) 大会が中止された場合、参加者が支払った出場料、保険料は返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

〔21〕 抗議

- 1) 抗議は、総則〔21〕(26頁参照)による。
- 2) 車輛の分解検査に要した費用は、その抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車輛の分解等に要した費用は車検長が算定するものとする。

〔22〕 参加者の遵守事項

ライダー、エントラントなど参加者は次の事項を守らなければならない。

- 1) 競技会は、MFJ国内競技規則にのっとっておこなわれる。参加者はすべての行動に対して責任をとらなければならない。
- 2) 参加者はすべて本競技会特別規則にのっとり行動すること。従って、違反者には5,000円の罰金か、または失格、さらには退場に至る罰則が課せられる。
- 3) 参加者は国内競技規則、本規則および競技管理上のあらゆる規定を守り、競技役員の指示にしたがわなければならない。また公道上では交通法規を守らなければならない。
- 4) 参加者は常にスポーツマンとしての態度を保ち、公正に行動しなければならない。
- 5) 参加者は競技期間中、飲酒あるいは薬品によって精神状態をつくろってはならない。



大自然に抱かれてのトライアル。火の用心と共にルール、マナーの向上につとめたい。

- 6) 競技が一般公道の走行を含む場合、ライダーは運転免許証、MFJトライアルライセンスを必ず携帯しなければならない。

〔23〕 本規則の違反、裁定

本規則に対する違反の認定は大会審査委員会によって判断され、違反者には罰則が適用される。裁定後はいかなる理由といえどもこれにしたがわなければならない。

〔24〕 本規則の解釈

本規則および競技に関する疑義は、事務局あて質疑申立てができる。なお、質疑申立てに対する解答は大会審査委員会の決定を最終的なものとする。

〔25〕 本規則の施行

本規則は出場申込み受付日より有効となる。
なお、本規則に示されていない事項は、MFJ国内競技規定による。

昭和59年1月1日

大会事務局長

MINI BIKE

ミニバイク競技会指導要綱(総則)



日本モーターサイクル協会(MFJ)は、本競技会の国内管理体制と、モータースポーツ管理の必要に鑑み本指導要綱を定める。すなわち、健全な競技会を育成して、各競技の適切な規則を作成し、公平な競技プログラムと、競技に際しての安全性を促進することである。

この規則は、すべての人が安全性に関心を持つようにするため制定するものであるが、この規則にしたがうのは主催者の義務である。さらに、競技への参加者は、規則および安全性を適切に評価したうえで競技に参加しなければならない。

[1] 適用の範囲

本ミニバイク競技規則は、ミニバイク競技会に適用されるが、この規則に関連する全般の解釈は、MFJ国内競技規則にもとづき競技会主催者の判定および解釈を最終のものとする。

[2] ミニバイク競技の規則

1. ミニバイク競技車輛

ミニバイクとは、17インチ以下のホイール(リム)を装着した、エンジン排気量80cc以下の車輛をいう。このミニバイクには一般市販の通常型とスポーツ専用型がある。

2. クラスの区分

クラス区分は50ccと80ccの2クラスとする。

クラス	最小排気量	最大排気量
50cc	—	50ccまで
80cc	51cc	80ccまで

3. 参加資格

ミニバイク競技会に参加し、出場するライダーの資格は16歳以上とし、MFJ会員Bライセンスを所持している者とする。ただし、20歳未満の者にとっては親権者、もしくは保護者の同意承諾書を提出しなければならない。

4. 参加受理

参加申込み書および参加料(保険料を含む)の受領をもって参加を受理する。また、いったん受領した参加料はい

かなる理由があっても返却しない。

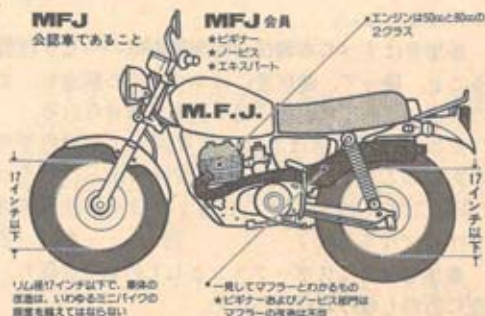
5. 男女の同一性

ミニバイク競技、または行事の参加について“性による差別”はつけられない。すべての参加者は、同一のルールのもとに、規則に定められた適切なクラスで競技しなければならない。

[3] 出場者の区分およびレース区分

出場者の区分は初心者のビギナー、中級技量をもったノービス、上級技量を備えるエキスパートの3段階に分け、ビギナーおよびノービスはBライセンス所持者とする。ただし、ビギナー部門の参加は優勝経験者を除く。またエキスパート部門はノービス、ジュニア、国際Aまたは国際Bのライセンスを所持するものに限られる。(次ページの表参照)

●これがミニバイクの規定だ



ホイールは17インチ以下というのがミニバイクの規定。

〔4〕改造の限度

車輛は、すべてMFJ公認のものでなければならない。

1. ビギナーおよびノービス

各クラスの排気量に合致し、リムサイズ17インチ以下の一般市販モデル（スポーツ専用型も含む）車で、改造はまったく認められない。

2. エキスパート

各クラスの排気量に合致し、リムサイズ17インチ以下の市販されている車輛であること。

- 1) エンジン公認されたものでなければならないが、改造は、冷却方式の変更を含んですべて自由とする。
- 2) 車体の改造については、ミニバイクの限度を超えてはならない。

〔5〕騒音規制

騒音は下記の条件をみたしていなければならない。

- 1) 車輛には、有効かつ外見ですぐにマフラーと分かる消音器が装着されていなければならない。
- 2) ビギナーおよびノービス部門については、マフラーの改造はまったく認められず、騒音も車輛の公認された状態のままで行なければならない。
- 3) 騒音はFIM（国際モーターサイクリスト連盟）方式による測定方式で、110db(A)以下でなければならない。



人気高まるミニバイクモトクロス。

- 4) FIM方式とは、排気出口の後方0.5m、45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4ストロークエンジンで11m/s、2ストロークエンジンで13m/sに達するエンジン回転のときの騒音測定方法である。

資格	クラス	条件	ライセンス
ビギナー (初心者)	50cc 80cc	16歳以上の初心者を対象とする（優勝経験者は参加出来ない）	Bライセンス所持者
ノービス (中級者)	50cc 80cc	上記よりの移行者、及び主催者が出場を認めた者を対象とする	Bライセンス所持者
エキスパート (上級者)	50cc 80cc	上記よりの移行者、及びノービス以上のライセンス所持者	ノービス ジュニア 国際A、B } ライセンス所持者



耳にシャープなエキゾーストノートの音がするが、スタートもまたシャープなミニバイクモトクロス。

MFJ公認車輛

(一般市販車)

排気量	川崎重工業株	鈴木自動車工業株	本田技研工業株	ヤマハ発動機株
50		RG50, RG50I'	SS50, CB50JX-1, DAXST50, XE50, XE50-II, MB50, BIALS TL50, MONKY, GORILA, MT50, XL50S, MTX50R, MBX50, TLM50	MR50, FX50, RD50, TY50, MINI GT50, GR50, GT50-II, MR50-II, RD50S, RD50SP, OB50, RX50S, QA50, RZ50, DT50
80		RG80E	CL65, DAX ST70, XE75, XE75-II, XL80S, MB8, MBX80 INTEGRA	V70S(D. ES. ED), TY80, MINI GT80, GR80, GT80-II, MR80, RX80S
125	GA4(90TR), 90G1L, 90GA1(90S), 90GA2(90SS), 90GA3(90SSS), G8S, G6, (KE90), G8T(KC90), B1, KM(MC1), B1-T, 120, KC125, KE125(KS125), KH125, AR125	GT125, RG125, RG125E	CS90, SL90, CL90K, CB90, CL125, CB125, CB125S, CD125K, CL125K, BAIALS TL125, TL125S, TL125K2, MT125, SL125S, XL125, XL125S, CB125JX, CB125T1, Ihatovo, XL125R, CB125T, MTX125R, MBX125F, TL125	DT90, RD90, A7, AS2, RD125, DT125, AX125, TY125, DT125, SR125, XT125, RZ125, RZ125S
250	175B11L, B11TL, 250SS, KH250, KL250A, Z250FT, GPZ250	GT250, GT185, RG250, RG250E, GSX250-E, GSX250T, RG250I', GS250FW	CB175, CL250, CB250, MT250, TL250, XL250, CB250T, XL250S, CB250RS, SUPERHAWK, CB250RSZ, SILK ROAD, XL250R, CB250T Master, CB250T LA Custom, VT250F, CBX250RS, VT250F INTEGRA, GB250 CLUBMAN, XLX250R, TLR200, MTX200R, MVX250F	RD250, TY250J, TY175, GX250, GX250SP, SR250, XS250S, RZ250, XT250, XS250, RZ250R, XT250T
350 { 400	350SS, F5(350TR), S2T, KZ400, Z400, KH400, Z400LTD, GPZ400	GS400, SP370, GL400, GSX400E, GN400E, GSX400F, GSX400T, GSX400L, GSX400FS, GSX400FW	CL350, SL350, CB350, CJ360T, CB400F, CB400F1, CB400F2, GL400, HAWK-CB400T, HAWK-II, HAWK-III, SUPER HAWK-III, CM400T, CBR400F, WING GL400 CUSTOM, WING GL400, CBX400F, XL400R, FT400, CX-EURO, VF400F, NV400SP	RX350, RX350PRO, RD350, RZ350, RZ350R, DT400, RD400, GX400, GX400SP, SR400, XJ400, XS400SP, XJ400D, XJ400SP, XZ400, XT400, XJ400ZS, XJ400Z, XV400SP, XS400

排気量	川崎重工業株	鈴木自動車工業株	本田技研工業株	ヤマハ発動機株
500 S 750	500SS, 650W1, 650W1S, 750SS, Z2, H1, S3, Z750 Twin, Z750F, Z650, KZ750R, GPZ750	GS750, GSX750E, GS650G, GS750GL, GSX750S, GR650	CB450K1, CB500, CB500F-II, CB750, CB750F2, CB500T, CB500F, CB500F(K3), CB750(K7), CB750F-II, CB750K, CB650, CB750F, XL500S, FT500, SABRE, MAGNA, VF750F, CB750F INTEGRA, CBX500F INTEGRA, NV750 CUSTOM, CBX650 CUSTOM, XLV750R, CBX750F	650XS1, TX500, TX650, TX750, XT500, GX500, GX750, XS650SP, XS750SP, XJ650SP, XV750SP, XJ750E, XJ750A, XV750E, XV750A, XT600Z, XJ750E-II, XZ550

(ロードレーサー)

125			MT125R(325), MT125R-II, MT125R-III, (HRC) RS125R-W, RS125R, RS125R-III, RS125R-IV	TA125, TZ125
250			RS250R	TZ250(430), TZ250-II(430), TZ250-III, TZ250W, TZ250(26J)
350 S 500		RG500, RGB500	RS500R	TZ350(430), TZ350-II, TZ350-III, TZ350W, TZ500

(モトクロス)

50 S 80	KX80, KX80D, KX80F	RM50, RM80	XR80, CR80R	YZ50, YZ80
125	KX125, KX125A, KX125B, KX125C	RM125	CR125M, CR125M1, CR125M2, CR125M3, CR125R	YZ125-III, YZ125-4, YZ125(2Y5, 3N8), YZ125
250	F21M, KX250, KX250A, KX250B, KX250C	RM250	CR250M, CR250M1, CR250R, XR200R	YZ250-II, YZ250-III, YZ250-4, YZ250

(トライアラー)

()内は一般市販車

	KT250	RL250L (RL250)	(BAIALS TL125), (BAIALS TL125K2), (BAIALS TL125S), TL250, (TL50), TL200R, TL200R-II, TL220R-II, RS200T, RS200TS, (Ihatovo), (TL125), (TLR200), RS250T	(TY50), (TY80), (TY125), (TY250J), (TY250-II), (TY175), (TY50-II), TY250R
--	-------	-------------------	---	--

MFJ公認輸入車輛

総輸入元	車名
	ハスクバーナ1250R・250CR, ヤフGZ250
南モリワキエンジニアリング	モリビデリMBA145
日新通商株	マランカ125E2C
株成川商会	ベネリ250 QUATTRO
株レイズ	BETA240 TRIAL
オオタニモータプロダクト	MBA125VR
株旺文社インターナショナル	FANTIC350, FANTIC450
株井敬商事株	MONTESA C0TA349, MONTESA C0TA123, MONTESA C0TA200, MONTESA C0TA248
株西武百貨店	SWM240 TLNW

FIMプロダクションフォーミュラ公認車輛

排気量	川崎重工業株	鈴木自動車工業株	本田技研工業株	ヤマハ発動機株
FORMURA 1	KZ650, KZ750, KZ750V, KZ750(Z2), ZX750A	PE400, GR650, GS650EZ, GS650GZ, GS750, GSX750E, GSX750EX, GSX750SZ	CB650(RC03), CBX650C, CB750F2, CB750FZ(RC04), CB750K, NV750C, VF750F, VF750S	IT425, XJ650, XS650SP, XJ750, XV750, XS750E, XS850, RD400E
FORMURA 2	KZ500, KZ550, KZ550H	DR500SZ, GS500E, GS550E, GS550M, GSX550E	CX500, VT500, XL500R, XR500R, FT500, CB550F2, CBX550F2, XL600R	RD350(RZ350), XT500, SR500, XJ550, XT550, XT600Z, XZ550, RD350(31K)RZR
FORMURA 3	KZ400 KZ400M	GSX400F, GSX400E, DR400S, GN400L, RG250W (RG250T)	CB400N, CB400F1, CBX400F, MVX250F, MTX200R, XR350R, XL400R, VF400F	RD250(RZ250), XJ400, XS400, RD250(31L)RZR, SR400, XT400
FORMURA 1			FORMURA 2	
BMW R65, BMW R80, BSA Rocket III, DUCATI DM 650 SL/A, DUCATI DM 650 SL, LAVERDA 750 SF3, MOTO GUZZI Le Mans/850, NORTON 750, OSSA YANKEE 500, TRIUMPH Trident 750			DUCATI 500 SL, LAVERDA 500, MORINI 500	

MFJ公認部品

会社名	部 品 名
川崎重工業株	GAキットパーツ、KA1レーシングパーツ(ブレーキ)、 KA2レーシングパーツ、H2レーシングパーツ、 Z2用オイルクーラーアッセンブリー、 Z2用前輪右ディスクブレーキ。
鈴木自動車工業株	RG500スペシャルRCU。
株ホンダHRC	CB90・CB250・CB350・CB750キットパーツ、 CB125S用6速ミッション、CB125用フロントおよびリヤブレーキ、 CB350用6速ミッション、MT125R水冷エンジンキットパーツ。
南モリワキエンジニアリング	水冷シリンダーキット、ホンダJX125用MRE、 ホンダMT125用水冷キットパーツ(New 100-01)。
野口モーターズ株	YZ125用シリンダーキット、MX用NSW-1、RR用NSW-2。
株ヨシモト	TZ125ミッションキット。
株無 限	CR125R用エンジンパワーアップキットME125RZ、 CR125R用エンジンパワーアップキット(シリンダー)、 無限ME125A1スーパープロキット、無限ME250A1スーパープロキット、 無限ワークスME125水冷キット、無限ワークス水冷BANZAIキット、 ME250W無限ワークス水冷スーパープロキット、無限SHOWAワークスフロントフォークキット、 無限SHOWA '83 ME125スペシャルフロントフォークキット、 無限SHOWA '83 ME125スペシャルリヤクッションAssy、 無限 '83 ME125スペシャルシリンダーヘッドセット、 無限 '83 ME125スペシャルエキスパンションチャンバー、 無限 '83 ME125W IV エンジンパワーアップキット、 無限 '83 ME125スペシャルフェールタンク、 無限SHOWA '83 ME250スペシャルフロントフォークキット、 無限SHOWA '83 ME250スペシャルリヤクッションAssy、 無限 '83 ME250W III エンジンパワーアップキット、 無限SHOWA '84 ME125スペシャルフロントフォークキット、 無限SHOWA '84 ME125スペシャルリヤクッションAssy、 無限SHOWA '84 ME125W エンジンパワーアップキット、 無限SHOWA '84 ME250スペシャルフロントフォークキット、 無限SHOWA '84 ME250スペシャルリヤショックAssy。
テクノコム・ミスターヒロ	カワサキKH125用水冷キットパーツ、トランスミッションキット。
岩道モーターズ	カワサキKX125用水冷キットパーツKX125AW。
萱場工場株	リヤクッションユニット TSシリーズ(オイル復筒調整式)、 // TS-Sシリーズ(オイル復筒調整式)、 // MGSシリーズ(ガス封入単筒調整式)、 // MGS-Sシリーズ(ガス封入単筒調整式)、 // MGシリーズ(ガス封入単筒式)、 // MSシリーズ(オイル復筒式)、 // SSシリーズ(オイル復筒式)、 // SGSシリーズ(一体形成タンク付ガス封入複筒調整式)。
R S ・ タ イ チ	フォークスエアショックス(MX用)、オーリンガスショックス(MX用)。
株 極 東	KONI リヤクッションアブソーバー(油圧式 KONI スペシャルD)。
南極東精機製作所	クリーニングキップ(160×60、125×60、115×60)。
株アサミレーシング	ホワイトパワーリヤクッション(MX用)。
株 S. R. S. 久保	RG250用クロスミッションキット。
株スポーツショップ・イシイ	XJ400Z(ZS)クロスミッションKit。

MFJ公認トライアルタイヤ

会社名	タイヤ名	サイズ
株 日本ダンロップ	TRIALS UNIVERSAL K-120	2.75-21, 3.00-21, 3.50-18, 4.00-18, 2.75-21, 4.00-18。
横 浜 ゴ ム 株	トレールスポーツ	2.50-18, 2.75-18, 2.75-19, 2.75-21, 3.00-18, 3.00-19, 3.00-21, 3.25-18, 3.25-19, 3.50-18, 4.00-18, 各PRY620。
日本ミシュランタイヤ株	MICHELIN TRIAL COMPETITION	2.75-21, 4.00-18。
井 上 タ イ ヤ 株	井上トライアルタイヤ	2.75-19, 2.75-21, 3.00-18, 3.00-21, 3.25-18, 3.50-18, 4.00-18。
ブリヂストンタイヤ株	TRAIL WING 23 TRAIL WING 24	2.75-21-4PR, 4.00-18-4PR。
株 ク シ タ ニ	ビレリ・モト・トライアル	2.75-21, 4.00-18。
株アオイトレーディング	メッツラー トライアル	3.00-21, 4.00-18。
株 岡 田 商 店	メッツラー トライアル C	2.75-21, 4.00-18。
株 阿 部 商 会	ビレリ・MT43・プロフェッショナル	4.00-18。

MFJ公認ヘルメット

会社名	ロードレース特選	ロードレース用	モトクロス用	トライアル・ツーリング用
阿 部 商 会			PIRELLI X100。	PIRELLI X70。
株 新 井 広 武	CLC RX-7, AVANTI, ASTRO, X-75, VENT, SL80, RZR, RZ035, K-700, XJ-040D, FA-200, SUPER DOLPHIN8, SPENCER REPLICA, SHINGLTON REPLICA, COOLEY REPLICA, 高橋国光, 松本恵二。	X-1, RS-Z, F-X,	CLC R-7, M-X, Challenger-S, S-75, R-7G, S-70。	TL-1, TL-3, TL-8, TX-8, TX-7, R-2, R-10, RS-10。
株大沢 商 会		GPA G1, GPA G2。	GPA G4。	
株岡田 商 店		SHIMPSON M-62, BOERI DRIVER。	SHIMPSON M-52。	
ユニコ				GP-2
株 極 東	BELL STAR LTD.	NOLAN N31, NOLAN N32, NOLAN N33, NOLAN スペースライダー, BELL TOURSTAR。	NOLAN N19, BELL MOTO 3, BELL R-T, BELL MAGNAM, BELL TRAIL STAR, BELL MAGNAM-III。	NOLAN JET, NOLAN MINI JET, NOLAN インテグラール, NOLAN NO2。

会社名	ロードレース特選	ロードレース用	モトクロス用	トライアル・ツーリング用
クノール工業株式会社		UVEX F-1, KH-100, UVEX AERO ホーク, UVEX モンテカルロ, UVEX チャンピオン, UVEX モナーク, KH-808。	UVEX ウイリー, UVEX ギャラクシー, UVEX レーシングジェット, KH56, KH25。	UVEX TRIAL。
オートセンター 株式会社		NARVA NE, NARVA NE-II, NARVA NZ, NARVA KF-1000, NARVA NA。	NARVA NJ1, NARVA CROSS。	NT-1, KH-100, KH-300A, KH300B, KH300E, KH300F, Z5000, FUJI100, FUJI300。
アグベ 株式会社		AGV X-3000。	AGV X-101。	AGV X-70。
昭和 栄化 工業 株式会社	GR-Z, ER-7, TASK-1, TASK-2, TASK-3 AREMET ER-2, W-Gardner V-2, RF-KATAYAMA, RF-101, RF-102。	ST-Z, ZG, RC-1, ZE, GX-R, VR, ARTE-MR, Z-100, INTERO-ER, PS-R31, PS-R32, PS-R36, PS-R37, PS-R38, PS-R39, PS-R44, PS-R45, TF-201, TF-202, TF-203, VR-5, KATAYAMA-GP, ES, ES-2, RC-2, HF-7, HF-8, HF-9, GX-R Custom, ZR。	PS-J31, PS-J32, PS-J33, PS-J34, EX-11, PS-L31, PS-L32, PS-L33, PS-L34, PS-L35, PS-L37, PS-L38, PS-L39, SR-X7, SR-T, SR-6, EX-2, EX-5, ZV, GR-X, GV, H-1, SR-X, TJ-101(RG-8), ZX, TJ-102(SR-G), NEW GV。	SV, L5, TR-1, PS-F06
立花 自動車 用品		GT-X1, GT-X2。		GT-1, GT-200, F-500D, Custom F-500。
東京 シート		R-40。		
日栄 ブラック テック		FF-100。	CX-300, CX-300P, CX-320, CX-500, DX-700。	FS-100, CS-500, CS-600。
日新 通商				JEB'S JET。
マル シン 工業 株式会社		DX-6, INDY500, MG-MOTO, MG-STAR, MG-80, MV-75, MV-1, MV-1DX, GENERAL, IMPERIUM, FALCON, ALTUS, DAYTONA, M-450。	MV-Z, MV-ZDX, MZ-X, MZ-GX, MZ-F, MZ-80, I BEX, M-38, M-52。	BEETLE, M-37, M-130, M-230, M-250, M-800。
メット 工業			KX-7, CHIP'S KING。	F-1, F-2, K-3, K-70, K-110, K-150, KX-1NASA, F-1NASA, DANDY TRIAL。
ヤマハ 発動機		YF2000, YF250, YF3000, YF3500, GEORAMA。	YC1500, YC3000。	
ヨレ シウ シウ		NAVA-3。		
RS・ タイチ		NAVA-2。		
リード 工業株式会社				RX-200, RT-10。
株 ローヤル		MPA エルゴノミック 01, MPA IX9。		
ワールド 通商		KIWI K-10, KIWI-K-7, KIWI K-8。		

'68~'83 歴代チャンピオン

●ロードレース

年	部 門	クラス	氏 名		ノービス	251cc以上	富江 昭孝		ジュニア	125cc	川上 浩
'68	アマチュア	90cc	角谷 新二	'72	ジュニア	90cc	毛利 良一	'77	ジュニア	250cc	山名 久
		125cc	鈴木 聖弘			125cc	大本 十生			350cc	徳外 仁久
		250cc	大脇 俊夫			250cc	大本 十生			125cc	飯田 謙之
	251cc以上	中山 仁	251cc以上		片山 敬済	350cc	鈴木 修				
	ジュニア	90cc	酒井 奎吾		エキスパート	125cc	渡辺富士夫		750cc	毛利 良一	
		125cc	森井 一夫		ジュニア	250cc	隅部 孝夫				
250cc		谷口 茂夫		251cc以上	内田 隆						
セニア	251cc以上	菱木 哲哉	セニア	125cc	小田 豊						
	90cc	神谷 良明		251cc以上	小田 豊						
	125cc	馬場 忠雄									
'69	アマチュア	90cc	野田 正彦	'73	ジュニア	90cc	新田 茂	'78	ジュニア	90cc	平野 芳男
		125cc	斉藤 茂憲			125cc	坂 公平			125cc	上田 幸也
		250cc	中尾 康夫			250cc	山崎 達衛			250cc	上田 公次
	251cc以上	数井 隆	350cc		佐藤 順造	350cc	上田 公次				
	ジュニア	90cc	角谷 新二		エキスパート	125cc	毛利 良一				
		125cc	高井幾次郎		ジュニア	750cc	片山 敬済				
250cc		尾崎 俊彦	セニア	125cc	角谷 新二						
セニア	251cc以上	里村 祥二		750cc	根本 健						
	90cc	小田 豊		90cc	岡崎 隆史						
	125cc	隅谷 守男	ノービス	125cc	佐藤 健正						
'70	ノービス	250cc	金谷 秀夫	'74	ジュニア	250cc	酒井 克	'80	ジュニア	250cc	五百部徳雄
		251cc以上	隅谷 守男			90cc	合津 悟志			125cc	窪田 正二
		90cc	岩道 博			125cc	石井 康夫			125cc	山本 陽一
	ジュニア	125cc	柴谷 正昭		エキスパート	125cc	橋本久仁啓				
		250cc	小塚 法矩		ジュニア	350cc	鈴木 修				
		251cc以上	鍋田 正明		ジュニア	750cc	岩道 博				
セニア	90cc	江崎 正	セニア	125cc	阪本 裕介						
	125cc	青山 英二		750cc	青木 辰己						
	250cc	糟野 雅治		750cc	高井幾次郎						
'71	ノービス	251cc以上	只野 光男	'75	ジュニア	90cc	片橋 英治	'81	ジュニア	125cc	荒木 利春
		90cc	近藤 英二			125cc	東金 育男			250cc	中山 博文
		125cc	小田 豊			250cc	橋谷 俊彦			125cc	竹村 浩生
	ジュニア	250cc	大脇 俊夫		ジュニア	90cc	田口 勝雄				
		251cc以上	河崎 裕之		ジュニア	125cc	山梨 保				
		90cc	平井 裕		エキスパート	250cc	酒井 克				
セニア	125cc	上田 公次	ジュニア	350cc	大島 孝治						
	250cc	大橋 富夫	ジュニア	125cc	相沢 清						
	251cc以上	松谷 光明	ジュニア	750cc	石井 康男						
'72	ノービス	90cc	渡辺富士夫	'76	ジュニア	125cc	江崎 正	'82	ジュニア	125cc	窪田 雅樹
		125cc	青木 辰己			125cc	江崎 正			250cc	三浦 昇
		250cc	内田 隆			セニア	750cc			浅見 貞男	125cc
	セニア	251cc以上	加藤 昇平		ノービス	90cc	牧野 栄				
		90cc	江崎 正		ノービス	125cc	川上 浩				
		125cc	遠藤 恒雄		ジュニア	250cc	木下 恵司				
エキスパート	250cc	中尾 康夫	ジュニア	350cc	東金 育男						
	251cc以上	浅見 貞男	ジュニア	250cc	水谷 勝						
	90cc	金谷 秀夫	エキスパート	125cc	飯田 浩之						
'73	アマチュア	125cc	杉本 泉	'77	ジュニア	250cc	毛利 良一	'83	ジュニア	250cc	宮城 光
		250cc	大脇 俊夫			350cc	佐藤 順造			250cc	吉田 健一
		251cc以上	金谷 秀夫			750cc	高井幾次郎			250cc	宮城 光
	ノービス	90cc	菅原 伸夫		ノービス	90cc	鈴木 利彦				
		125cc	坂 公平		ノービス	125cc	佐藤 裕文				
		250cc	上野 真一		ノービス	250cc	藤本 泰東				

'68~'83 歴代チャンピオン

●モトクロス

年	部門	クラス	氏名	年	部門	氏名	年	部門	氏名	
'68	アマチュア	50cc	堀 勇	'72	ノービス	90cc 藤 秀信	'77	エキスパート	125cc 佐藤 健二	
		90cc	堀 勇		125cc 藤 秀信	ジュニア		250cc 大泉 浩一		
		125cc	堀 勇		250cc 藤 秀信	セニア		125cc 瀬尾 勝彦		
		250cc	山下 和男		250cc 小田切信雄	250cc 瀬尾 勝彦				
	ジュニア	251cc以上	山下 和男	90cc 唐沢栄三郎	'78	ジュニア	90cc 唐沢栄三郎	'79	エキスパート	90cc 原本 松市
		50cc	姥名 博昭	125cc 唐沢栄三郎		ジュニア	125cc 庄司 覚			
		90cc	姥名 博昭	250cc 唐沢栄三郎		ジュニア	250cc ジェイソン・フレコフ			
		125cc	西 信之	250cc 鈴木 秀明		ジュニア	125cc 佐々木 隆			
	セニア	250cc	西 信之	250cc 鈴木 都良夫	セニア	250cc 佐々木 隆				
		251cc以上	ロバート・E・エーモ	90cc 菅家 恵	セニア	125cc 瀬尾 勝彦				
		90cc	星野 一義	125cc 村上 光則	250cc 光安 鉄美	250cc 光安 鉄美				
		125cc	星野 一義	250cc 菅家 恵	250cc 菅家 恵	250cc 菅家 恵				
'69	アマチュア	250cc	山本 隆	'73	ノービス	90cc 古田 哲郎	'79	エキスパート	90cc 齊藤 武男	
		50cc	田中 敏夫		125cc 古田 哲郎	ジュニア		125cc 大久保和親		
		90cc	多田 茂次		250cc 古田 哲郎	ジュニア		250cc 堀口 雅史		
		125cc	中里 道夫		250cc 古田 哲郎	ジュニア		125cc 秋元 春夫		
	ジュニア	250cc	岩尾 一敏	250cc 岸川 清秀	ジュニア	250cc 原元 衛				
		50cc	堀 勇	250cc 藤 秀信	セニア	125cc 光安 鉄美				
		90cc	従野 孝司	250cc 鈴木 都良夫	250cc 光安 鉄美	250cc 光安 鉄美				
		125cc	鈴木 孝明	90cc 谷川 徹二	250cc 鈴木 秀明	250cc 小野沢良一				
	セニア	250cc	鈴木 秀明	125cc 光安 鉄美	'74	ジュニア	125cc 谷川 徹二	'80	国際B級	125cc 小野沢良一
		90cc	山本 隆	250cc 大賀 広美		ジュニア	250cc 谷川龍太郎			
		125cc	矢島金次郎	250cc 渡辺 明		国際A級	250cc 庄司 覚			
		250cc	鈴木 忠男	250cc 渡辺 明		250cc 東福寺保雄				
'70	ノービス	50cc	一色 薫	'75	エキスパート	125cc 鈴木 秀明	'81	ジュニア	125cc 平山 勝一	
		90cc	小田切信雄		250cc 鈴木 秀明	ジュニア		250cc 茶谷 学		
		125cc	平野 芳男		250cc 鈴木 秀明	国際B級		125cc 岡部 萬史		
		250cc	青木 雅和		90cc 北村 隆資	250cc 岡部 萬史				
	ジュニア	250cc	鈴木都良夫	125cc 青山 金助	国際A級	125cc 東福寺保雄				
		90cc	岩尾 一敏	250cc 青山 金助	250cc 福本 敏夫					
		125cc	岩尾 一敏	250cc 東福寺保雄	ジュニア	125cc ロン・キンダー				
		250cc	岩尾 一敏	250cc 東福寺保雄	250cc 馬場 善人					
	セニア	125cc	吉村 太一	250cc 杉尾 良文	'82	セニア	125cc 杉尾 良文	'83	国際B級	125cc 小橋 勝年
		250cc	吉村 太一	250cc 増田 耕次		国際A級	250cc 小橋 勝年			
		90cc	栗原 和年	250cc 月岡 尚人		250cc 大関 昌典				
		125cc	栗原 和年	250cc 月岡 尚人		250cc 東福寺保雄				
'71	ノービス	250cc	齊藤 英夫	'76	ジュニア	90cc 横山 隆夫	'82	ジュニア	125cc 天田 淳	
		90cc	中村 忠		125cc 光安 鉄美	ジュニア		250cc 天田 淳		
		125cc	杉浦 種保		250cc 青山 金助	国際B級		125cc 茶谷 学		
		250cc	竹沢 正治		250cc 鈴木都良夫	250cc 茶谷 学				
	エキスパート	250cc	瀬尾 勝彦	250cc 竹沢 正治	'77	セニア	90cc 渡辺 義己	'83	国際A級	125cc 庄司 覚
		250cc	瀬尾 勝彦	250cc 竹沢 正治		ジュニア	250cc 小沢 孝			
		125cc	矢島金次郎	250cc 福田 正敏		250cc 杉尾 良文				
		250cc	上野 広一	250cc 福田 正敏		250cc 杉尾 良文				

●トライアル

年	部門	氏名	年	部門	氏名	年	部門	氏名
'74	ノービス	伊 吹 健博	'78	ジュニア	山 田 民 雄	'82	国際B級	高 田 雅 孝
'75	ジュニア	近 藤 秀 男	'79	エキスパート	山 田 博 志	'83	国際A級	高 山 本 昌 也
'76	ジュニア	蜂 巣 秀 男	'80	国際A級	佐 藤 雄 一		国際B級	和 田 弘 行
'77	エキスパート	加 藤 文 博	'81	ジュニア	近 藤 博 一		国際A級	山 本 昌 也
	ジュニア	町 田 晴 一		国際A級	広 木 一 美			
	エキスパート	黒 山 一 也		ジュニア	丸 山 嵐 保			
	ジュニア	山 本 昌 也		国際A級	石 原 正 一			
	エキスパート	近 藤 博 志		国際A級	黒 山 一			

LICENCE & RANKING

全日本選手権ランキング基準 MFJライセンス昇・降格規定

全日本選手権ランキング 順位づけ決定の方法

全日本選手権ランキングの順位づけは、次の方法により決定される。

- 1) 全日本選手権シリーズ大会で得たすべての得点を合計し、総合得点の大なるものから順位を決定する。
ただし、40点未満のものはチャンピオンとはせず、ランキング2位とする。
- 2) 上記1)で同点となった場合、上位入賞回数の多いものが上位となる。
- 3) 上記2)で決定できない場合、前年度のランキング上位のものを上位とする。
- 4) 上記3)で決定できない場合、MFJ資格審査委員会において最終決定する。

★ライセンス昇格規定

MFJライセンス資格は、MFJ公認のもとで開催されるモーターサイクル競技の公正を期するために、前年度の成績により次のような昇格基準にもとづいて決定される。

なお成績対象の期間は前々年度の11月から前年度の10月末日までの12ヵ月間とする。

●ロードレース

1. ノービス部門から国際B級部門

- 1) 全日本選手権シリーズ大会において得点15点以上の成績を得た者。
- 2) その他のレースにおいて、地方スポーツ委員会が上記の基準と同等以上の技量をもつ者と認め、資格審査

委員会が承認した者。

- 3) そのほか資格審査委員会が認めた者。

2. 国際B級部門から国際A級部門

- 1) 前年度全日本選手権ランキングで、1位から5位までにランクされた者。
- 2) そのほか資格審査委員会が認めた者。

●モトクロス

1. ノービス部門からジュニア部門

- 1) 地方選手権大会以上のレースにおいて各地方で下記に示す得点以上の成績を得たもの。

北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	九州
30	30	23	23	30	30	30	30

- 2) その他のレースにおいて、地方スポーツ委員会が上記の基準と同等以上の技量をもつ者と認め、資格審査委員会が承認した者。
- 3) そのほか資格審査委員会が認めた者。

2. ジュニア部門から国際B級部門

- 1) 全日本選手権シリーズ大会において得点30点以上の成績を得た者。
- 2) 地方選手権大会以上のレースにおいて各地方で下記に示す得点以上の成績を得たもの。

北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	九州
75	75	45	45	75	75	75	75

- 3) 前年度全日本選手権ランキングでクラス1位～6位までにランクされた者。
- 4) その他のレースにおいて、地方スポーツ委員会が上記の基準と同等以上の技量をもつ者と認め、資格審査委員会が承認した者。

3. 国際B級部門から国際A級部門

- 1) 前年度全日本選手権ランキングでクラス1位～5位までにランクされた者。
- 2) そのほか資格審査委員会が認めた者。

●トライアル

1. ノービス部門からジュニア部門

- 1) 競技会におけるノービス部門での優勝者（ベストパフォーマンス）及び2位（ランナーアップ）2名の者。（次の大会よりジュニア部門で出場すること）
- 2) 上記の競技会におけるノービス部門は少なくとも10名以上の参加によって構成されたものとする。

2. ジュニア部門から国際B級部門

前年度地方選手権大会において、各地方で下記に示す人数で得点上位の成績を得たもの。

地方	北海道	東北	関東	中部	北陸	関西	中国	四国	九州
人数	4	8	15	10	3	10	3	5	10

3. 国際B級部門から国際A級部門

- 1) 前年度全日本選手権ランキングで、1位～5位までにランクされた者。

●特別昇格申請手続き

1. 特別昇格基準

- 1) すでに述べた昇格基準と同等とみなされるにふさわしい成績を得た者で、昇格を希望する者のみ特別昇格申請の手続きが受けられる。

申請期間

- 1) 前年度の11月からその年の2月末日までを申請期間とする。
- 2) この期間以外の昇格申請はいっさい受けられない。

3. 申請方法および申請料

- 1) 所定の申請書に必要事項を記入し、所属する地方スポーツ委員会の承認を得てMFJ事務局に申請する。
- 2) 所定の申請書はMFJ事務局に用意されており、請求に応じて配布される。
- 3) 申請にあたっては申請料1,000円（切手でも可）を添えて提出すること。なお最終的な決定はMFJ資格審査委員会の審査結果による。

★ライセンス降格規定

MFJライセンス資格の降格を希望する者は、以下の手続きによって申請し、MFJ資格審査委員会の審査を経て降格できる。

●ライセンスの降格手続き

1. 申請手続き

- 1) 所定の申請書に必要事項を明記のうえ、所属する地方スポーツ委員会の承認を得て、MFJ事務局に提出する。

- 2) 申請書用紙はMFJ事務局に用意されており、請求に応じて配布される。

- 3) 降格承認後は、MFJ資格審査委員会が定めた日よりそのシーズンの終了まで、再昇格規定が適用される。

2. 申請期間

- 1) 前年度の11月からその年の2月末日までを申請期間とする。
- 2) この期間以外の降格申請はいっさい受けられない。

★ライセンス再昇格規定

ライセンスの降格があっても次の規定で再昇格がある。

●ロードレース

- 1) 全日本選手権シリーズ大会において、原則として2回優勝した時点で再昇格するものとする。
- 2) 公式記録によるラップタイム等により再昇格する。

●モトクロス

- 1) 国際B級からジュニア部門に降格した場合は、全日本選手権シリーズ大会で、原則として2回優勝した時点で再昇格するものとする。
- 2) ノービス部門に降格した場合は、MFJ公認競技会において、原則として1回優勝した時点で再昇格するものとする。
- 3) その他、地方スポーツ委員会の判断により再昇格するものとする。

●トライアル

- 1) 国際B級部門に降格した場合は、全日本選手権シリーズにおいて、原則として1回優勝（ベストパフォーマンス）した時点で再昇格する。
- 2) ジュニア部門に降格した場合は、地方選手権シリーズにおいて、原則として1回優勝（ベストパフォーマンス）した時点で再昇格する。
- 3) ノービス部門に降格した場合は、MFJ公認競技会において出場者の上位10%以内に入賞した時点で再昇格する。
- 4) その他、地方スポーツ委員会の判断により再昇格するものとする。



ライダーにとって必須のライセンス(競技者認定証)

MFJ選手共済・保険制度

種 目	ライダー掛金 (1名1大会)	ビットクルー掛金 (1名1年間)	支 払 条 件			共済及び 保険適用
			最 高 限 度 額 (死亡, 不具廃疾)	傷害保険支払い額	支払い適用期間	
ロードレース	3,500円 (1口目) (但し10口まで 掛けられる 2口目より 1口 1,350円)	1,000円 (支払い条件は) モトクロスと 同じ)	500万円(MFJ共済 保険), 50万円 (MFJ指定保険) 合計550万円 (1口目) 但し2口以上10口 まで, 1口につき 50万円 (MFJ指定保険)	①1,000円(MFJ共済保 険)×全治日数 ②500円(MFJ指定保 険)× 全治日数 合計1,500円(1口目) 但し2口以上10口 まで, 1口につき500円 (MFJ指定保険) ③診断書作成補助金5,000円	6ヶ月(180日) 大会当日のレ ース中 (公式練習含 む) 公式予選	MFJ指 定保険及 びMFJ選 手共済併 用
	保険金請求に ついての 必要書類事項	①傷害保険金請求書(指定) ②MFJ役員選手共済金請求書 ③全治したときの医師の治療証明書(指定)		④サーキットの事故証明書		
B ラ イ セ ン ス 対 象 種 目	サーキット におけるブ ログクショ ン, ミニバ ス, イクレ ース	1,000円	500万円	①1日1,000円×全 治日数 ②診断書作成補助金 5,000円	6ヶ月(180日) 大会当日のレ ース中 (公式練習含 む) 公式予選	MFJ役 員・選 手共 済
	ミニモトク ロス, 雪上 車, エンゼ ルその他オ ンロード車 による競 技会	500円	500万円			
	モトクロス	1,000円	500万円			
	トライアル	200円	500万円			
Bライセンス, モトクロス } 傷害保険金請求につ トライアル, ビットクルー } いての必要書類			①全治したときの医師の診断書(治療先の診断書) ②MFJ役員選手共済金請求書			

- 注: 1. ロードレースライダー以外は保険料は1口に限られます。
2. 同一大会で2種目以上出場する場合は保険料の高い種目が適用されます。
3. 上記保険は治療費が支払われませんので各自の健康保険証で治療を受けてください。

保険請求の手続きは……

1 まず主催者に連絡

負傷したその日に主催者に連絡してください。万一その日に連絡できない場合は、負傷日より二日後までにご連絡ください。なお、連絡がない場合は、保険金が支払われませんのでご注意ください。

2 大会主催者からMFJ役員 選手共済金請求書をもらう

ケガをした大会の主催者からMFJ役員選手共済金請求書をもらい、本人の氏名および住所、生年月日、大会名と開催年月日、出場クラス、ケガの内容を記入し、大会主催者に送ってください。

3 診断書が必要

ケガが治りましたら、治療先から診断書をもらってください。(なお、ロードレースで負傷した場合は、MFJ所定の保険会社の診断書が必要になりました。この所定の診断書用紙は主催者に用意してありますので請求してください。)

4 請求先は主催者事務局です

医師の診断書(ロードレースの場合はMFJ所定の保険会社の診断書)と、大会主催者の事故証明書を入手しましたら、この両方の書面を添えて負傷者本人が主催者事務局宛に保険請求してください。



MADE IN ITALY
NOIAN



MADE IN U.S.A.
BELL
HELMETS



MADE IN FINLAND
SINISALO



MADE IN U.S.A.
SCOTT



ライダーよ、
優れた選択眼を持て。

テクニックが響ける。マシンが追従する。
人車一体の緊張感よ、
そこに寸分のスキもゆるしません。
極東からお届けするのは、世界のトップ
ブランドばかり。
モータースポーツのすべてをフォローします。

MADE IN ITALY
PRG



MADE IN ITALY
AXO



MADE IN U.S.A.
KAL-GARD



MADE IN U.S.A.
GOLDBELT



●この広告に関するお問い合わせは下記へ
FET極東
〒157 東京都世田谷区千歳台4-30-11
03(484)3179 営業所:札幌・仙台・小山・新潟
岡・金沢・東京・名古屋・大阪・広島・高松・福岡

MFJ公認ヘルメット

昭栄化工株式会社 〒105 東京都港区新橋2-9-2 鎌田ビル
☎ 03-502-0301

Z-100

¥39,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/パールホワイト・ファイヤーレッド・ディープシルバー・ブラック
- サイズ/S・M・L・XL ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造 ●スネル規格1980・300G

RF-101

¥36,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/パールホワイト・ファイヤーレッド・ディープシルバー/リフレクターストラップ ●サイズ/S・M・L・XL
- ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造 ●スネル規格1980・300G

RF-102

¥27,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・ファイヤーレッド
- サイズ/S・M・L・XL ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造 ●スネル規格1980・300G

TASK-3

¥32,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/ファッションブル・コーディネートカラー
- サイズ/S・M・L・XL ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造 ●スネル規格1980・300G

アーメット
ARMET ER-II

¥38,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/シルバー・ブラック・ファイヤーレッド
- サイズ/S・M・L・XL ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造 ●スネル規格1980・300G

ER-7

¥32,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・ファイヤーレッド
- サイズ/S・M・L・XL ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造 ●スネル規格1980・300G

インターロ
INTERO ER

¥25,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・シルバー・ブラック・ファイヤーレッド
- サイズ/S・M・L・XL ●ファイバーグラス積層構造

ウィンガードナー
W. GARDNER V-II

¥32,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/ファヤバレッドスペシャルデザイン
- サイズ/S・M・L・XL ●ファイバーグラス積層構造 ●スネル規格1980・300G

TF-201

¥19,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・ファイヤーレッド
- サイズ/S・M・L・XL ●ファイバーグラス積層構造

MFJ公認ヘルメット



昭栄化工株式会社 〒105 東京都港区新橋2-9-2 鎌田ビル
☎ 03-502-0301

TF-202

¥24,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック
- サイズ/S・M・L・XL
- ファイバーグラス積層構造

TF-203

¥21,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・シルバー・ファイヤーレッド・ライトブルー
- サイズ/S・M・L・XL
- ファイバーグラス積層構造

GR-Z

¥45,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/ホワイト・シルバー
- サイズ/S・M・L・XL(4帽体4サイズ)
- カーボン&ファイバーグラス複合積層構造
- スネル規格1980・300G、JIS規格C種

SR-X7

¥12,500



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・シルバー・ブラック
ファイヤーレッド
- サイズ/S・M・L・XL(4帽体4サイズ)
- ファイバーグラス積層構造

TJ-101

¥15,500



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・ディープブルー・ファイヤーレッド
- サイズ/S・M・L・XL
- ファイバーグラス積層構造
- スネル規格1980・300G

TJ-102

¥18,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・シルバー・ブラック
- サイズ/S・M・L・XL(4帽体4サイズ)
- ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造
- スネル規格1980・300G

GR-X

¥32,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・シルバー
- サイズ/S・M・L・XL(4帽体4サイズ)
- カーボン&ファイバーグラス複合積層構造
- スネル1980・300G

TR-1

¥13,000



●MFJトライアル公認規格

- カラー/ホワイト・イエロー・ファイヤーレッド
- サイズ/S・M・L
- ファイバーグラス積層構造
- JIS規格B種

EX-2

¥29,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・イエロー・ファイヤーレッド
- サイズ/S・M・L・XL
- ファイバーグラス積層構造

※上記製品の他、ARTE MR, RF-KATAYAMA, TASK-1, TASK-2もMFJ公認ヘルメットです。



MFJ公認ヘルメット

株式会社新井広武

〒330 埼玉県大宮市東町2-12

☎ 0486-41-3825

CLC RX-7

¥43,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/白・シルバー
- サイズ/55cm-56cm 57cm-58cm
59cm-60cm 61cm-62cm
- スネル1980

TROPHY

¥38,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/白・シルバー
- サイズ/55cm-56cm 57cm-58cm
59cm-60cm 61cm-62cm
- スネル1980

Avanti(アバンティ) ¥37,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/白・黒
- サイズ/55cm-56cm 57cm-58cm
59cm-60cm 61cm-62cm
- スネル1980

VENT

¥32,000



●MFJロードレース特選公認規格

- カラー/白・シルバー・赤
- サイズ/55cm-56cm 57cm-58cm
59cm-60cm 61cm-62cm
- スネル1980

レーサーレプリカ (ウエス・クーリー) ¥29,000



●MFJロードレース, 特選公認規格

- カラー/各選手デザイン塗装
- サイズ/55cm-56cm 57cm-58cm
59cm-60cm 61cm-62cm
- スネル1980

CLC R-7

¥28,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・シルバー
- サイズ/55cm-56cm 57cm-58cm
59cm-60cm 61cm-62cm
- スネル1980

Astro (アストロ) ¥24,000



●MFJロードレース, 特選公認規格

- カラー/白・黒・赤
- サイズ/55cm-56cm 57cm-58cm
59cm-60cm 61cm-62cm
- スネル1980

M-X

¥29,800



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・赤・黄・青・黒
- サイズ/55cm-56cm 57cm-58cm
59cm-60cm 61cm-62cm
- JIS-C種

X-75 (Racing Type) ¥20,000



●MFJロードレース, 特選公認規格

- カラー/白・黒
- サイズ/55cm-56cm 57cm-58cm
59cm-60cm 61cm-62cm
- スネル1980

MFJ公認ヘルメット



マルシン工業株式会社 〒124 東京都葛飾区四ツ木5-9-6
☎ 03-693-5791

IMPERIUM ¥28,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・赤・黒
- サイズ/S・M・L・XL
- ケブラー・ハイブリッド コンポ構造
- ARシールド装着
- ケネル規格1980・300G

FALCON ¥26,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・黒
- サイズ/S・M・L・XL
- ケブラー・ハイブリッド コンポ構造
- ベンチレーション機構
- ARシールド装着 ●スネル1980規格

ALTUS ¥23,800



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・赤・黒・シルバー
- サイズ/S・M・L・XL
- シールド/AR-314 ●ラチェット機構
- FRP製

MG-80R ¥20,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・赤・ダークシルバー
- サイズ/S・M・L・XL
- ケブラー・ハイブリッド コンポ構造
- ARシールド装着 ●スネル1980規格

LIBRA ¥26,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・ダークシルバー
- サイズ/M・L
- シールド/AR-314 ●ラチェット機構
- FRP製

MG-MOTO ST ¥39,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・赤・青
- サイズ/S・M・L・XL
- ケブラー・ハイブリッド コンポ構造
- スネル1980規格

MZ-80 ¥16,500



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・ダークシルバー
- サイズ/S・M・L・XL
- ケブラー・ハイブリッド コンポ構造
- スネル1980規格

MZ-2R ¥18,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・黒・赤
- サイズ/M・L
- シールド/AR-302 ●ラチェット機構
- FRP製

MZ-GX ¥26,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・赤
- サイズ/M・L
- FRP製



MFJ公認ヘルメット

株式会社コミネオートセンター 〒111 東京都台東区小島2-18-18
☎ 03-862-9811(代)

KF-1000

¥17,800



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/黒/赤・白/青・白/赤
- サイズ/M-LL
- FRP製 1,500g

NARVA-CROSS ¥17,800



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白/赤/青・白/赤・黄/紺
- サイズ/M-LL
- FRP製 1,550g

NR

¥12,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・黒
- サイズ/S-LL
- FRP製 1,550g
- SR超硬度シールド付

NE-II

¥17,800



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/黒・銀
- サイズ/S-LL
- FRP製 1,550g

NZ

¥15,800



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/白・黒
- サイズ/S-LL
- FRP製 1,550g

Z-5000

¥13,800



●MFJモトクロス, トライアル公認規格

- カラー/白・黒
- サイズ/M・L
- FRP製 1,150g

NJ-1

¥13,000



●MFJモトクロス, トライアル公認規格

- カラー/赤・白・黒
- サイズ/M・L
- FRP製 1,140g

NT-1

¥11,000



●MFJモトクロス, トライアル公認規格

- カラー/赤・青・白・黄
- サイズ/M・L
- FRP製 700g

300シリーズ

KH-300B

●カラー/白・黒
¥8,100

KH-300A

●カラー/白・黒
¥7,800

KH-300E

●カラー/赤・青
¥11,000



KH-300F

●カラー/黒・青・黄
¥13,000

KH-300F-II

●カラー/青・黒
¥13,000

- サイズ/M・L・LL
- FRP製

●MFJモトクロス, トライアル公認規格

MFJ公認ヘルメット



クノー工業株式会社 〒141 東京都品川区西五反田7-22-17
☎ 03-494-3371-6

UVEX SAVAGE (サベージ) ¥32,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/赤・白・黒
- サイズ/S・M・L・XL
- FRP積層構造 ●シールド三層構造ダブルサンドレンズ ●ラチェットロック
- ラチェットロックup/down機構

UVEX ESPRIT (エスプリ) ¥27,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/銀・赤・白・黒
- サイズ/S・M・L・XL
- FRP積層構造 ●成型レキサンシールド
- ラチェットロックup/down機構

UVEX BRONCO (ブロンコ) ¥25,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/赤・銀・白・黒
- サイズ/S・M・L・XL
- FRP積層構造 ●シールドガード付超硬シールド
- ラチェットロックup/down機構

UVEX ニューターボ ¥22,000 ¥24,500



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/赤・白・黒・銀
- サイズ/S・M・L・XL
- FRP積層構造
- ラチェットロック機構

UVEX プロシリーズ FII ¥19,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/赤・銀・白・黒
- サイズ/S・M・L・XL
- FRP積層構造
- ラチェットロック機構

UVEX ギャラクシー ¥19,000



●MFJトライアル公認規格

- カラー/赤・銀・白・黒
- サイズ/S・M・L・XL
- FRP積層構造
- 超硬シールド・ラチェットロック機構

UVEX プロシリーズ X1 ¥15,000



●MFJトライアル公認規格

- カラー/
- サイズ/S・M・L・XL
- FRP積層構造
- ラチェットロック機構

UVEX SUPER JET ¥19,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/
- サイズ/M・L
- 縁ゴム排除アンダーカット・衝撃難脱バイザー・顔体直結Newワンタッチロック
- アゴヒモ・アゴヒモバット



MFJ公認ヘルメット

メット工業株式会社 〒136 東京都江東区北砂 6-12-14
☎ 03-645-2545

K-150

¥12,500



●MFJトリアル・ツーリング公認規格

- カラー/ブルー&ゴールド
- サイズ/M・L

K-2

¥10,000



●MFJトリアル・ツーリング公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・シルバー・キャンディーレッド・ブルー・グリーン・イエロー
- サイズ/M・L・XL

F-1

¥13,000



●MFJロードレース、モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・シルバー・キャンディーレッド・ブルー・グリーン・イエロー
- サイズ/M・L・XL

FR-1

¥14,500



●MFJロードレース、モトクロス公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・シルバー・キャンディーレッド・ブルー・グリーン・イエロー
- サイズ/M・L・XL
- ボードンシールド使用

KX-1

¥9,500



●MFJトリアル・ツーリング公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・シルバー・サンシャインレッド・ブルー
- サイズ/M・L・XL

K-110

¥9,000



●MFJトリアル・ツーリング公認規格

- カラー/ブラック&ホワイト
- サイズ/M・L

K-3 TRIAL

¥8,500



●MFJトリアル・ツーリング公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・シルバー・サンシャインレッド・ブルー
- サイズ/M・L

K-70

¥9,000



●MFJトリアル・ツーリング公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・シルバー・キャンディーレッド・グリーン・ブルー
- サイズ/S・M・L

KX-7

¥12,500



●MFJトリアル・ツーリング公認規格

- カラー/ホワイト・ブラック・シルバー・サンシャインレッド
- サイズ/M・L・XL



MFJ公認ヘルメット

株式会社 立花自動車用品 〒133 東京都江戸川区本一色557-3
☎ 03-653-6277

マキシム 5000 ¥24,000



- MFJロードレース, モトクロス公認規格
- カラー/白/ブルー、白/ゴールド、白/レッド、ツートンカラー
- サイズ/M・L

マキシム 2000 ¥16,000



- MFJロードレース, モトクロス公認規格
- カラー/ホワイト・ブルー・レッド・ブラック・スカーレット
- サイズ/M・L

GT-1 ¥8,800



- MFJトライアル・ツーリング公認規格
- カラー/ホワイト・ブラック・グリーン・レッド・ブルー・オレンジ・シルバースカーレット
- サイズ/M・L

F-500DX

I: ¥11,000 II: ¥11,000 III: ¥9,800



- MFJトライアル・ツーリング公認規格
- カラー/I ブルー・ホワイトツートン
- II ブルー・ゴールドツートン
- III 白黒ツートン
- サイズ/M・L

GT-200 ¥8,500



- MFJトライアル・ツーリング公認規格
- カラー/ホワイト・レッド・ブルー・グリーン・ブラック
- サイズ/M・L

ワールド通商(株)

〒107 東京都港区赤坂2-10-8 信和ビル
☎ 03-583-1502(代)

KIWI K-7 ¥23,000



- MFJロードレース, モトクロス公認規格
- カラー/白・赤・黒・青・黄
- サイズ/M・L・XL

KIWI K-8 ¥39,800



- MFJロードレース, モトクロス公認規格
- カラー/白地・赤青ストライプ、白地・青青ストライプ、黒地・シルバーストライプ
- サイズ/M・L・XL

KIWI K-10 ¥26,000



- MFJロードレース, モトクロス公認規格
- カラー/白・赤・黒・青
- サイズ/M・L・XL
- バイザーくもり止エアーステム付



MFJ公認ヘルメット

GPA日本総輸入発売元 株式会社大沢商会 〒108 東京都港区芝浦4-2-8
☎ 03-455-0111 内線504

GPA-G4

¥25,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/5色
- サイズ/55-60
- 1,150g

GPA-G1

¥35,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/5色
- サイズ/55-60
- 1,250g

GPA-G2

¥43,000



●MFJロードレース, モトクロス公認規格

- カラー/6色
- サイズ/55-60
- 1,250g

ヤマハ発動機株式会社

〒438 静岡県磐田市新貝2500
☎ 05383-2-1111(大代)

YF-2500 G1

¥27,000



- カラー/ゴールド・シルバー・レッド
- サイズ/S・M・L・LL
- FRP製 硬化処理シールド

YF-2500 TEAM YAMAHA

¥20,000



- カラー/白・赤・青コンビネーション
- サイズ/S・M・L・LL
- FRP製 硬化処理シールド

製造元 日栄プラスチック株式会社

〒143 東京都大田区大森西1丁目8番3号 ☎ 03-762-2421
販売 ヤマハ発動機(株)部品部

FS-100

¥9,600



- カラー/白・グレイ・イエロー・オレンジ
- サイズ/S・M・L
- J.I.S I種
- MFJ公認

CS-500

¥6,900



- カラー/白・グレイ・イエロー・オレンジ
- サイズ/S・M・L
- J.I.S I種
- MFJ公認

MFJ公認ヘルメット



岡田商事株式会社

〒140 東京都品川区北品川3-7-28

☎ 03-472-1716~8

SIMPSON M-62

¥48,000



●MFJロードレース、モトクロス公認規格

- カラー/シルバー・ミストブラック
- サイズ/56mm~61mm(5サイズ)
- ディボン社登録商標ケブラー使用

SIMPSON M-52

¥40,000



●MFJロードレース、モトクロス公認規格

- カラー/レッド・イエロー・ホワイト
- サイズ/56mm~61mm(5サイズ)
- 角型バイザー付

BOERI

¥32,000



●MFJロードレース、モトクロス公認規格

- カラー/赤/白、赤/黒、赤/白/青、青/白/紺、白/赤/白青
- サイズ/S・M・L・LL
- グラスファイバー製

MFJ公認ヘルメット制度について



●MFJロードレース
特選公認規格シール



●MFJトライアル
・ツーリング
公認規格シール



●MFJロードレース・
モトクロス公認規格シール

ヘルメットのMFJ公認制度はわが国モータースポーツレースの出場に際して着用するヘルメットの保安、安全性を確保するために定められた制度で、苛酷なレースの事故防止に必要なヘルメットの強度、形状を規定している。

MFJ公認ヘルメットは各ランクに従って、上記ロードレース特選公認規格、ロードレース・モトクロス公認規格、トライアル・ツーリング公認規格の3種類の各シールを公認されたヘルメットに添付することを義務付けられている。従ってMFJの競技に参加するものはそれぞれに適合したシールを添付したヘルメットを着用しなければMFJ公認レースには出場することが出来ない。この制度は同時に苛酷なレースの事故防止に役立つ強度をスネル、JIS規格の保証の上に認定しているため、一般の着用に際しても、このMFJ公認制度の効用がヘルメットの保安、安全性に役立つことを深く念願している。

グッド・バイキングを
THANKS!



My Dear Helmet.



YAMAHA HELMET

YF2500G1

¥27,000

MFJ公認
FRP製
硬化処理シールド
カラー/ゴールド、シルバー、レッド
サイズ/55-58cm、57-58cm、
59-60cm、61-62cm



ヘルメットの生命といえるフォルム
ヤマハは、先進のエアロダイナミクス
ステック/ロジータから、
減らせたフォルム。



風雨の吹き込みを抑えたスーパーフ
ットシールド(ローラーアクション機構)

●お問い合わせ、お求めは、お近くのヤマハ販売店

ヤマハヘルメット使用上のご注意

●ヤマハヘルメットは、大切な頭部を転倒時の衝撃から守るための重要な安全用品です。頭のサイズにあつたものを選び、適切に調整し、かつ適切のご使用ください。●ヤマハヘルメットは、硬体のお入組時や衝撃がこれらることによって変形を招きます。落下したり大きな衝撃を及ぼすと、再組に異常がなくても本来の性能が劣化することがあります。

YAMAHA HELMET

ヤマハ発動機株式会社 〒438 静岡県磐田市新貝2500 TEL.05383(2)111



日本特殊陶業



息吹き、瞬発。

コマ01秒を縮めることに、全神経を集中させている人々。
エンジンの熱い呼吸に応えて、
マホガニー色に灼けたプラグがレスポンスする。

極限に挑むシビアな状況だからこそ、奥深いテクノロジーが試される。
一回のミスファイアーもおぼろげにできないことを、ライダーなら誰もが知っている。
だから、プラグを選び、プラグに徹底して凝る。
スロットルでスパークを感じ、コンディションを確かめられるようになった時、
人は初めて「真のライダー」と呼ばれる。

スリリングなドラマ、そのファイトを支える。NGKスパークプラグ



高純度のニューセラミックを採用、
プラグに求められる信頼性を
さらにレベルアップ!

高熱に耐える鋼芯構造。
超ワイドレンジの走りを、いち早く
可能にした中心電極です。

DUNLOP

製造 住友コム工業株式会社 販売 株式会社日本タンロップ 〒651神戸市中央区筒井町1丁目1番1号 TEL (078)231-4141(大代表)

TT100GP (TUBELESS)

K300GP (TUBELESS)

超次元ストリートタイヤ新登場

ライダーの視界にコーナーが流れ込み、すべての解答をタイヤに求めた…。次の瞬間、タイヤはライダーの大胆ともおもえるコーナーアプローチを、一閃のうちに制御していた。ダンロップ **K300GP・TT100GP** チューブレス。

ロードレースのコーナリング・ポテンシャルをそのままに受け継いだ驚異のハイグリップパフォーマンスタイヤ、ダンロップ **K300GP・TT100GP**。これまでのストリートバージョンタイヤの概念を超えるスペシャルハイグリップ“GPコンバウンド”を採用することにより、ドライ&ウェット路面のロードホールディング性能ははるかに向上した。パターンは、内外のプロダクションレースで実績のある**K300・TT100**を継承。コーナーをデッドに攻める、戦慄のストリートタイヤ。—チューブレスで新登場!

K300GP (REAR)	TT100GP (REAR・FRONT)
130/90 V 17	100/90 H 16
110/80 H 18	3.60 H 18
110/90 H 18	4.10 H 18
120/90 V 18	4.10 H 19
130/80 V 18	
130/90 V 18	
K300MGP (FRONT)	
100/90 H 16	
90/90 H 18	
100/90 V 18	
100/90 V 19	
110/90 V 19	

全サイズ、チューブレスタイプです。